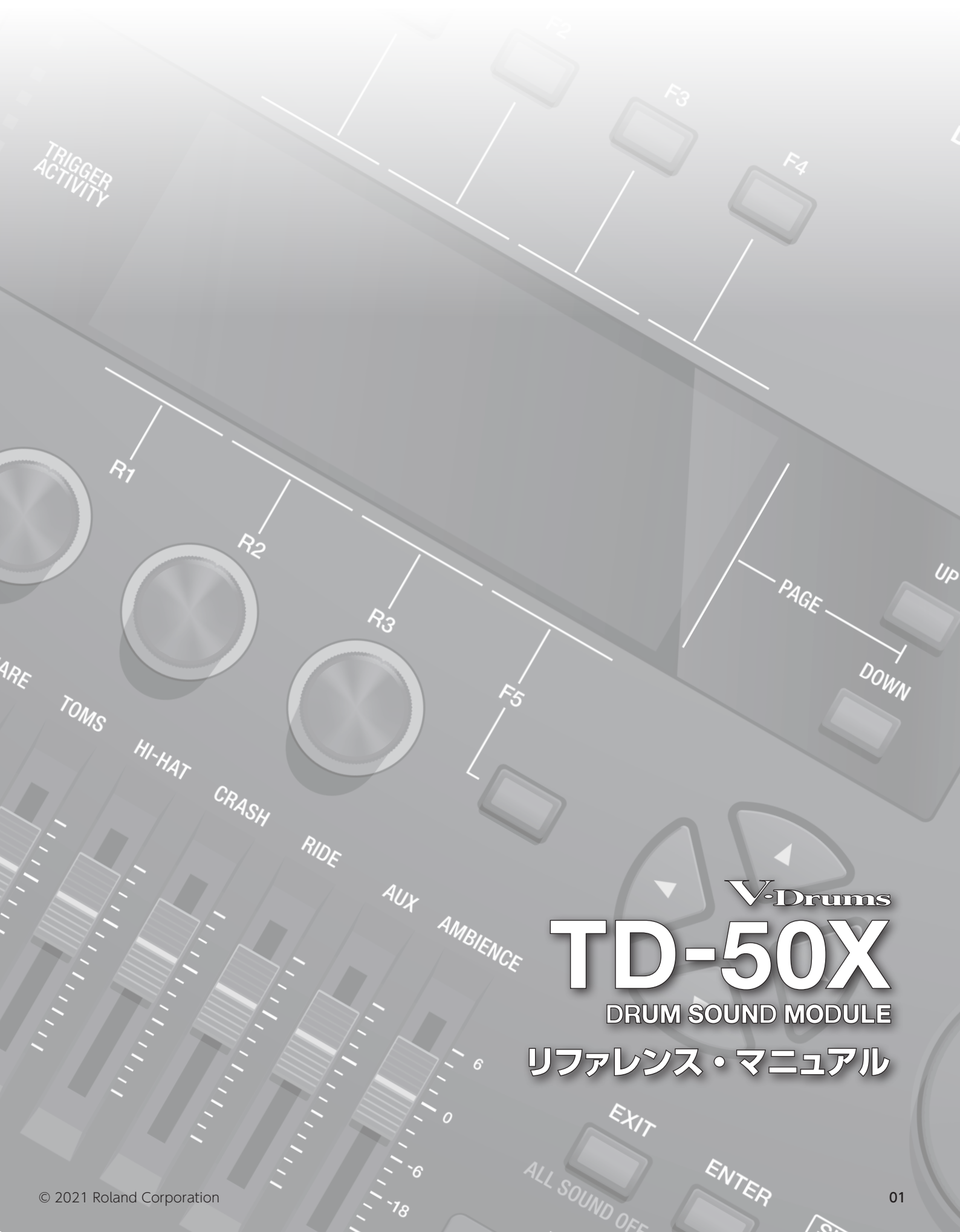




V-Drums
TD-50X
DRUM SOUND MODULE
リファレンス・マニュアル

目次

準備編..... 4

- ◇ TD-50X の概要 4
 - ドラム・キット 4
 - メモリーについて 5
- ◇ 電源を入れる／切る 12
 - 一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする (AUTO OFF) 13
- ◇ ハイハットの設定をする 13

演奏編..... 16

- ◇ ドラム・キットとインストゥルメント 16
- ◇ ドラム・キットを選ぶ 16
 - リストからドラム・キットを選ぶ 16
 - クロス・スティック奏法を使う 17
 - 鳴っている演奏音をすべて停止する (ALL SOUND OFF) 17
- ◇ クリックを鳴らす 17
- ◇ 曲に合わせて演奏する 18
 - オーディオ・プレーヤーの曲に合わせて演奏する 18
 - TD-50X のソングに合わせて演奏する 18
 - 指定した区間を繰り返し再生させる (A-B リピート) 19
 - ソングごとの設定を変更する 20
 - オーディオ・ファイルをクリックとして再生する (クリック・トラック) 21
- ◇ リズム・トレーニングをする (コーチ・モード) 21
 - ビートに合わせて正確に叩く (TIME CHECK) 21
 - 身体でテンポを覚える (QUIET COUNT) 22
 - ウォーム・アップ (WARM UPS) 23
- ◇ お気に入りのドラム・キットを登録する／呼び出す (FAVORITE) 24

録音編..... 25

- ◇ 演奏を録音する 25
 - ソングに合わせて演奏を録音する 25
 - 録音データを削除する 26
 - 録音データに名前を付ける 26
 - 録音データを SD カードにエクスポートする (SONG EXPORT) 26
 - パソコンに接続して録音する 27

キット・カスタマイズ編..... 28

- ◇ インストゥルメントをエディットする (INSTRUMENT) 28
 - インストゥルメントを選ぶ 28
 - 設定するパッドを選ぶ 29
 - パッドの音を試聴する ([PREVIEW] ボタン) 29
 - 現在選んでいるインストのみを試聴する (LAYER PREVIEW) 29
 - アタックやリリースを調節する (TRANSIENT) 30
 - インストゥルメントを重ねて鳴らす (SUB INSTRUMENT) 30
 - 現在選んでいるインストのみを試聴する (LAYER PREVIEW) 31
- ◇ 演奏する場所の残響を再現する (AMBIENCE) 32
- ◇ ミキサーをエディットする (MIXER) 32
 - パッドごとの音量やパンを設定する 32
 - エフェクトをかける 33
 - ドラム・キット全体の音を調節する (MASTER COMP / MASTER EQ) 34
- ◇ エディット前のドラム・キットと聴き比べる／戻す (SNAPSHOT) 35
- ◇ ドラム・キットをエディットする (MENU) 36
 - 音量を設定する 36
 - [KIT] ボタンやつまみの点灯色を設定する 36
 - ドラム・キットの名前を変更する 36
 - ブラシ演奏をする 37
 - キットごとにテンポを設定する 37
 - キットごとにフォントを設定する 37
 - 音色の変化をコントロールする 38
 - パッドごとに MIDI 送受信の設定をする 39
- ◇ オーディオ・ファイルを取り込む／鳴らす (USER SAMPLE) 39
 - オーディオ・ファイルを取り込む (IMPORT) 39
 - フォルダー内のオーディオ・ファイルをまとめて取り込む (IMPORT ALL) 40
 - ユーザー・サンプルをインストゥルメントに割り当てる／鳴らす 40
 - ユーザー・サンプルを一覧表示する 41
 - ユーザー・サンプルの発音方法を設定する 41
 - ユーザー・サンプルの発音範囲を設定する 41
 - ユーザー・サンプルを削除する 41
 - ユーザー・サンプルの名前を変更する 42
 - ユーザー・サンプルを整理する 42

ユーティリティ編..... 43

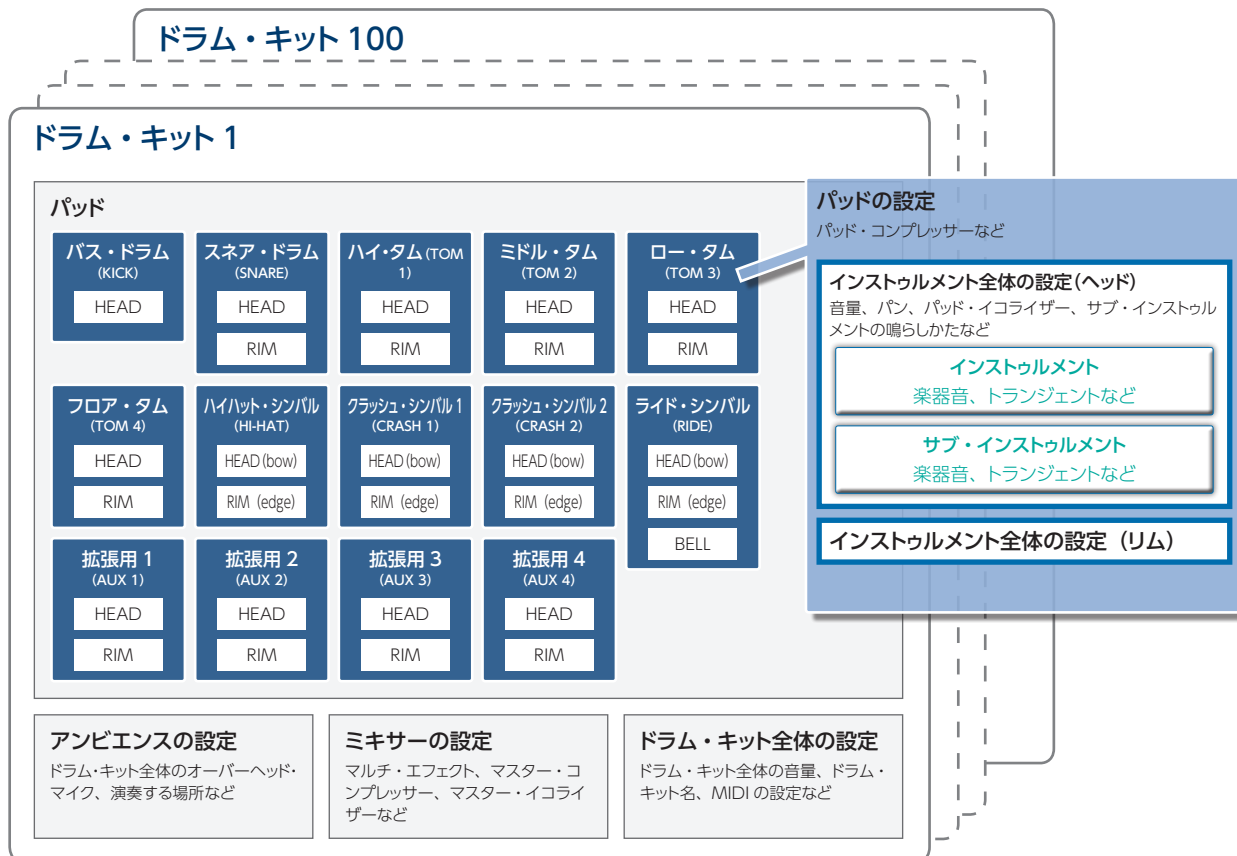
- ◇ パソコンに接続して使う 43
 - USB ドライバーのインストール／設定 43
 - USB オーディオの出力を設定する 44
 - USB オーディオの入力を設定する 44
 - USB オーディオの経路を設定する (Audio Routing) 45
- ◇ 設定をコピーする (COPY) 45
- ◇ ドラム・キットを順番に呼び出す (SET LIST) 47
 - セット・リストを作る 47
 - セット・リストを使う 48

設定編	49
◇ トリガーの設定	49
パッドの種類を設定する	49
デジタル接続対応パッドを設定する	49
パッドの感度を個別に調整する	50
ハイハットの設定をする	50
トリガーを細かく設定する	50
デジタル接続対応パッドを細かく設定する	51
各パッドのトリガー情報を見る	51
他のパッドの振動による誤発音を防ぐ (クロストーク・キャンセル)	52
◇ データをバックアップする	53
SD カードにバックアップする	53
バックアップ・データを SD カードから読み込む	54
SD カードにドラム・キットをバックアップする (1 KIT SAVE)	54
キット・バックアップ・データを SD カードから読み込む (1 KIT LOAD)	55
バックアップ・データを SD カードから削除する (DELETE / 1 KIT DELETE)	55
◇ 接続した SD カードをパソコンで管理する	56
SD カードの使用状況を確認する (INFO)	56
SD カードを初期化する (FORMAT)	57
◇ TD-50X 全体の設定をする (SETUP)	57
音の出力先を設定する (OUTPUT)	58
その他の設定 (OPTION)	60
フットスイッチやパッドに機能を割り当てる (CONTROL)	61
MIDI の設定をする (MIDI)	61
TD-50X 本体に関する情報を表示する (INFO)	62
◇ 工場出荷時の設定に戻す (FACTORY RESET)	62
Roland Cloud のライセンス情報も含めて工場出荷状態に 戻す	63
資料編	64
◇ 表示されるメッセージ一覧	64
エラー・メッセージ一覧	64
その他のメッセージ	65
◇ トラブルシューティング	66
◇ 主な仕様	68

TD-50X の概要

ドラム・キット

TD-50X では、各パッドを叩いたときに鳴る音色を「インストゥルメント」と呼びます。各パッドに割り当てた音（インストゥルメント）のセットを「ドラム・キット」と呼びます。



メモ

- ドラム・キットの設定を変更すると、変更した設定が自動的に保存されます。
- ドラム・キットの詳しいパラメーター構成については、『データ・リスト』（PDF）をご覧ください。

インストゥルメント (P.28)



スネア・ドラム、キック・ドラムなどの楽器音のことを「インストゥルメント」といいます。

各パッドの「ヘッド」と「リム」など、叩き分ける箇所それぞれにインストゥルメントが割り当てられています。

各インストゥルメントの設定を変更することで、自分の好みの音にすることもできます。インストゥルメントは、ドラムの胴の深さによる音色変化を再現したり、トランジェントの効果などをかけたりすることもできます。

また、パソコンで作成したオーディオ・ファイルを、SD カードから TD-50X に取り込み、インストゥルメントとして鳴らすことができます（ユーザー・サンプル機能）。

アンビエンス (P.32)



演奏する場所の残響音を再現するエフェクトのことを「アンビエンス」といいます。

オーバーヘッド・マイク（ドラム・キット全体を集音）、ルーム・アンビエンスやリバーブ（部屋の種類や大きさ、残響音など）を調整することができます。

アンビエンスはドラム・キットごとに効果をかけることができます。また、パッドごとに効果をどれくらいかけるかを設定することができます。

ミキサー (P.32)



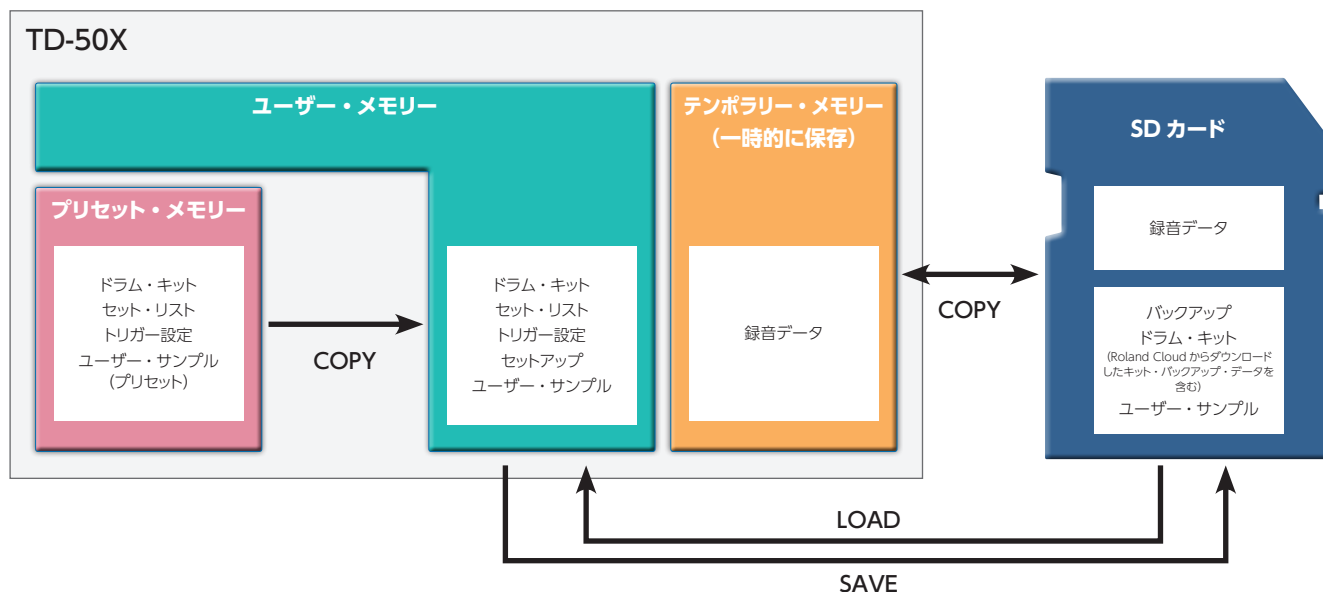
パッドごとの音量バランス、パン、エフェクトなどを設定します。

TD-50X のエフェクトには次のような種類があり、パッドごとにかかるものと、ドラム・キット全体にかかるものがあります。

エフェクト	説明
パッド・イコライザー／パッド・コンプレッサー (PAD EQ / PAD COMP)	「イコライザー」は、音を周波数ごとに高域、中域、低域などと分けて、それぞれのバランスをとるのに使います。 「コンプレッサー」は、音量のピークを抑え、アタックや音圧を調整します。 パッド・イコライザーは叩き分ける箇所ごとに、パッド・コンプレッサーはパッドごとに効果をかけることができます。
マルチ・エフェクト (MFX)	「マルチ・エフェクト」は、38 種類の中から 3 つのエフェクトを選んでかけることができます。 マルチ・エフェクトは、ドラム・キットごとに効果をかけることができます。また、パッドごとに効果をどれくらいかけるかを設定することができます。
マスター・コンプレッサー／マスター EQ (MASTER COMP / MASTER EQ)	コンプレッサーとイコライザーをドラム・キット全体にかけることができます。

メモリーについて

ドラム・キットやトリガー設定などの設定が記憶（保存）されている場所を、「メモリー」と呼びます。



プリセット・メモリー

工場出荷時の設定が記憶されています。

プリセット・メモリーのデータは、ユーザー・メモリーにコピーして工場出荷時の設定に戻すことができます (P.62)。

以下の設定が、プリセット・メモリーに記憶されています。

- ドラム・キット (P.4)
- セット・リスト (P.47)
- トリガー設定 (P.49)
- ユーザー・サンプル (プリセット) (P.39)

※ ユーザー・サンプル (プリセット) はコピーできません。また、ファクトリー・リセットを実行することで、ユーザー・メモリーのユーザー・サンプルを工場出荷時の状態に戻すことができます。

ユーザー・メモリー

エディットや演奏に使用する設定が記憶されます。

SD カードやプリセット・メモリーのデータを読み込む、またはコピーすることもできます (P.45)。

以下の設定が、ユーザー・メモリーに保存されています。

- ドラム・キット (P.4)
- セット・リスト (P.47)
- トリガー設定 (P.49)
- セットアップ (P.57)
- ユーザー・サンプル (P.39)

テンポラリー・メモリー (一時的に保存)

TD-50X で録音したデータ (1 曲) を、本体の一時的なエリアに記憶します。

テンポラリー・メモリーの録音データは、SD カードにコピーしたり (P.45)、オーディオ・ファイル (WAV) や SMF で SD カードにエクスポートしたりすることができます (P.26)。

※ 電源を切ると、テンポラリー・メモリーに録音したデータは消去されます。

SD カード

SD カードには、ユーザー・メモリーに保存されている設定を 1 セットとして、99 セットまで保存 (バックアップ) しておくことができます。バックアップとは別に、ドラム・キットを 999 個保存することができます。

また、TD-50X の演奏を、SD カードに直接録音することができます。

メモ

- SD カードに保存したデータは、ユーザー・メモリーにロードまたはコピーすることができます。詳しくは、「SD カードにバックアップする」 (P.53) をご覧ください。
- SD カードのフォルダー構成については、「SD カードのフォルダー構成」 (P.53) をご覧ください。

奏法について

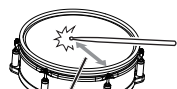
TD-50X は、アコースティック・ドラム同様、さまざまな奏法に対応しています。

注意

- ・ 木製や樹脂製のスティックをお使いください。カーボン製や金属製のスティックを使うと、センサーが誤動作することがあります。
- ・ ナイロン製のブラシをお使いください。金属製のブラシを使うと、センサーが誤動作したりパッドを傷つけたりすることがあります。

パッド

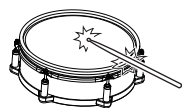
ヘッド・ショット



打点位置による音色変化

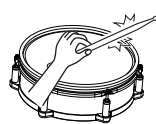
ヘッド部を叩きます。
特定のスネア音色では、ヘッドの中心から外周部にかけて叩いた位置の違いによる自然な音色変化が得られます。

リム・ショット



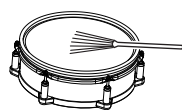
ヘッド部とリム部を同時に叩きます。
ヘッド・ショット時とは異なる音色（リム音色）が鳴ります。

クロス・スティック奏法



ヘッドに手を置きながらリム部を叩きます。
スネア音色では、リム・ショット奏法時にはリム音色、クロス・スティック奏法時にはクロス・スティック音色というように、各奏法に対応した音色を鳴らし分けることができます。
リム・ショット奏法に対応するパッドを TRIGGER IN (2 SNARE) 端子に接続するか、クロス・スティック奏法が可能なデジタル接続対応のパッド (PD-140DS など) を接続して、スネアに割り当てます。
PD-140DS 以外は、ヘッドに触れないようにリム部のみを叩きます。
一部のスネア音色では、音色の鳴らし分けができない場合があります。

ブラシ奏法

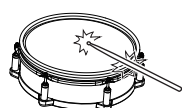


ブラシでこする表現（ブラシ・スイープ奏法）ができます。
TRIGGER IN (2 SNARE) 端子にメッシュ・ヘッドのパッドを接続するか、ブラシ奏法が可能なデジタル接続対応のパッド (PD-140DS など) を接続して、スネアに割り当てます。
さらに、ブラシ演奏に対応したインストゥルメントをスネアのヘッド側に割り当て、Brush Switch を「ON」にします。
詳しくは「ブラシ演奏をする」(P.37) をご覧ください。

リム・ショットのニュアンスによる音色変化

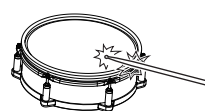
特定のスネア音色やタム音色では、リム・ショットの微妙な叩きかたの違いによって音色のニュアンスが変化します。

通常のリム・ショット (オープン・リム・ショット)



ヘッド中心部とリム部を同時に叩きます。

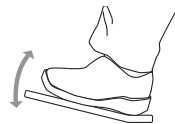
浅いリム・ショット (シャロウ・リム・ショット)



ヘッドのリムに近い部分とリム部を同時に叩きます。

ハイハット

オープン/クローズ



ハイハット・スタンドのペダルの踏み込み具合により、オープンからクローズまでハイハットの音色が連続的に変化します。
フット・クローズ（ペダルを踏み込んで鳴らす）やフット・スプラッシュ（ペダルを踏み込んで瞬時にオープンして鳴らす）も可能です。

プレッシャー (VH-14D、VH-13)



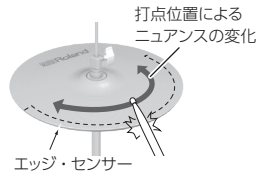
クローズ状態からさらにペダルを踏み込んでハイハットを叩くと、踏み込む強さに応じて変化したクローズの音色を鳴らすことができます。
VH-11、VH-10、FD-9、FD-8 はプレッシャーに対応していません。

ボウ・ショット



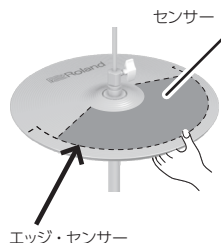
トップ・シンバルの打面を叩く奏法です。
接続したトリガー・インプットのヘッド側の音色が鳴ります。
打点位置検出が可能なデジタル接続対応のパッド (VH-14D など) を使用すると、特定のハイハット音色では、ボウ部の打点に応じて音色のニュアンスが変化します。

エッジ・ショット



トップ・シンバルのエッジ（端）をスティックのショルダー部で叩く奏法です。図のエッジ・センサーの位置が叩かれたときに、接続したトリガー・インプットのリム側の音色が鳴ります。
エッジを真横から叩いても正しく鳴りません。図のように叩いてください。
打点位置検出が可能なデジタル接続対応のパッド (VH-14D など) を使用すると、特定のハイハット音色では、エッジ部の打点に応じて音色のニュアンスが変化します。

チョーク奏法



ハイハットを叩いたあと、エッジ・センサーを手でチョークする（つかむ）と、音が止まります。
VH-14D は、センサーの感知する範囲に手を置いても、音が止まります（ミュート）。チョークやミュート状態で叩くと、音が短く鳴ります。

シンバル

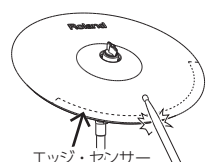
ボウ・ショット



シンバルの打面を叩く最も一般的な奏法です。接続したトリガー・インプットのヘッド側の音色に対応します。

特定のライド音色では、ボウ部の打点位置に応じて音色のニュアンスが変化します。

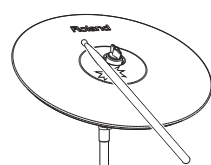
エッジ・ショット



エッジ（シンバルの端）をスティックのショルダー部で叩く奏法です。図のエッジ・センサーの位置が叩かれたときに、接続したトリガー・インプットのリム側の音色が鳴ります。

エッジを真横から叩いても正しく鳴りません。図のように叩いてください。

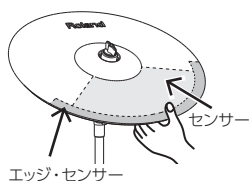
ベル・ショット



ベル部を叩く奏法です。図のベル部が叩かれたときにベルの音色が鳴ります。

TRIGGER IN (10 RIDE - BELL) 端子に対応するパッドを接続するか、ベル・ショット奏法が可能なデジタル接続対応のパッド (CY-18DR など) を接続して、ライドに割り当てます。

チョーク奏法



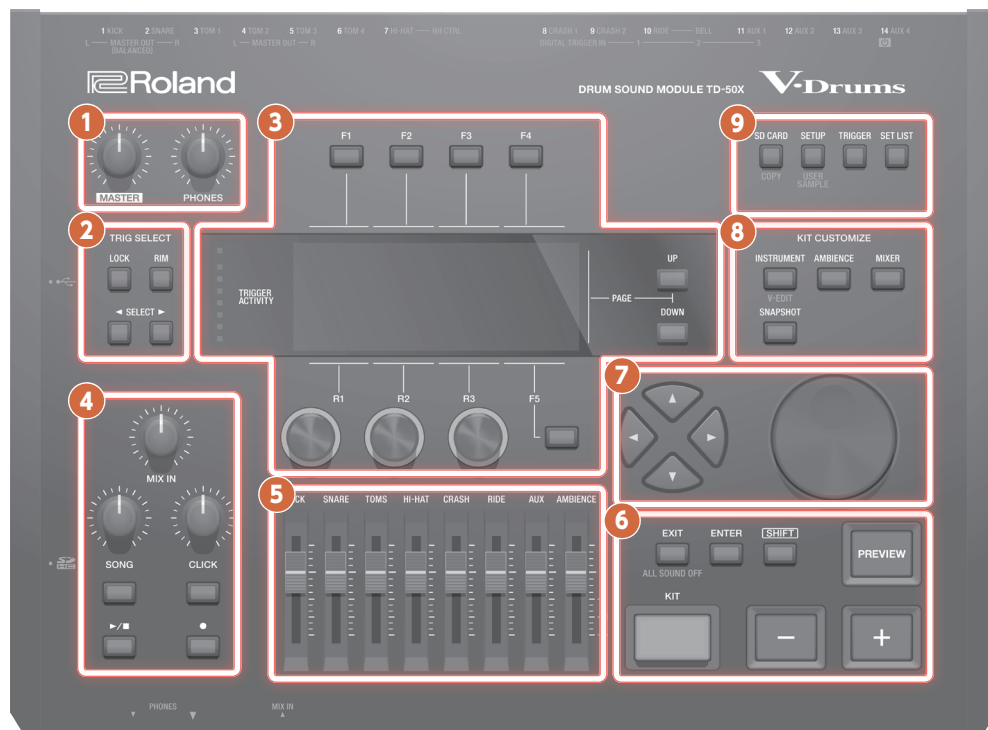
シンバルを叩いたあと、エッジ・センサーを手でチョークする（つかむ）と、音が止まります（ミュート）。

CY-18DR は、センサーの感知する範囲に手を置いても音が止まります。

チョークやミュート状態で叩くと、音が短く鳴ります。

各部の名称とはたらき

トップ・パネル



1

[MASTER] つまみ

MASTER OUT 端子から出力される音量を調節します。

[PHONES] つまみ

PHONES 端子に接続したヘッドホンの音量を調節します。

2 **TRIG SELECT****[LOCK] ボタン**

[LOCK] ボタンを押して点灯させると、パッドを叩いても、設定するパッドが切り替わらなくなります。

[RIM] ボタン

リム対応のパッドを使うときに、ヘッド側とリム側のどちらを設定するのかを選びます。3 ウェイトリガー対応パッドの場合は、ヘッド側、リム側、ベル側を切り替えます。

SELECT [◀] [▶] ボタン

設定の対象となるパッド（トリガー・インプット番号）を選びます。

3

[F1] ~ [F5] ボタン (ファンクション・ボタン)

ディスプレイの表示によって機能が変わるボタンです。ディスプレイ上部に表示されているタブを切り替えたり、ディスプレイの上下部分に表示されている機能を設定したりできます。

[R1] ~ [R3] つまみ (ロータリーつまみ)

ディスプレイの表示によって機能が変わるつまみです。ディスプレイ下部に表示されている機能の値を変更できます。

PAGE [UP] [DOWN] ボタン

PAGE [UP] [DOWN] ボタンが点灯しているときに押すと、画面のページを切り替えます。

TRIGGER ACTIVITY インジケーター

パッドからのトリガー信号（パッドが叩かれたときに出力される信号）を受信すると、点灯します。パッドが正しく接続されているかをチェックできます。

ディスプレイ

操作に応じて、いろいろな情報が表示されます。

4

[MIX IN] つまみ

フロント・パネルとリア・パネルにある MIX IN 端子の入力音量を調節します。

[SONG] つまみ

ソング（オーディオ・ファイル）の音量を調節します（内蔵ソングのドラム演奏音や、録音したドラムの演奏音には効きません）。

[SONG] ボタン

SONG 画面を表示します。ソングや録音したデータの再生や、ソングに関する設定をするときに押します。

[CLICK] つまみ

クリックの音量を調節します。

[CLICK] ボタン

クリックを鳴らしたり、テンポやクリックの設定をしたりします。また、リズム・トレーニングをするときに押します。

[▶/■] ボタン

ソングや録音したデータを再生／停止します。

[●] ボタン

演奏を録音するときに押します。

5 フェーダー

キック、スネア、ハイハット、その他の打楽器、アンビエンスなどの音量を調節します。

6**[KIT] ボタン**

DRUM KIT 画面が表示されます。

[-] [+] ボタン

ドラム・キットを切り替えたり、値を変えたりするときに使います。

[EXIT] ボタン

一度押すと、1 つ上の階層の画面に戻ります。続けて何度か押すと、最終的に DRUM KIT 画面に戻ります。また、[SHIFT] ボタンを押しながら [EXIT] ボタンを押すと、発音しているすべての音を止める（消音する）ことができます（ALL SOUND OFF）。多くのループ・フレーズを一度に停止させるときに便利です。

[ENTER] ボタン

値の確定や操作を決定するときに押します。

[SHIFT] ボタン

他のボタンと組み合わせて使います。このボタンを押している間、他のボタンの機能が変わります。

[PREVIEW] ボタン

インストゥルメントを試聴するボタンです。ボタンを押す強さで音量が変わります。

SELECT [◀] [▶] ボタンで、トリガー・インプット番号を選べば、TD-50X にパッドが接続されていなくても、音を聴くことができます。

7**[▲] [▼] [◀] [▶] ボタン (カーソル・ボタン)**

カーソルを移動します。

ダイヤル

[-] [+] ボタンと機能は同じです。ドラム・キットや設定値を一度に大きく変えたいときに、このダイヤルを使います。

8 KIT CUSTOMIZE**[INSTRUMENT] ボタン**

インストゥルメント（音色）を設定します。また、[SHIFT] ボタンを押しながら [INSTRUMENT] ボタンを押すと、インストゥルメントのエディット（V-EDIT）のページへ直接移動することができます。

[AMBIENCE] ボタン

ドラム・キット全体を集音するオーバーヘッド・マイクの音や、ドラムを演奏する場所の残響や鳴りかたを設定します。

[MIXER] ボタン

パッドごとの音量、パン、マルチ・エフェクト、イコライザー、コンプレッサーなどを設定します。

[SNAPSHOT] ボタン

エディット中のドラム・キットを一時的に保存しておき、現在の設定と比較したり設定を戻したりすることができます（スナップショット機能）。

9**[SD CARD] ボタン**

データの保存や読み出しなど、SD カードに関する操作をします。また、[SHIFT] ボタンを押しながら [SD CARD] ボタンを押すと、ドラム・キットやインストゥルメントなどの設定をコピーすることもできます。

[SETUP] ボタン

出力先の設定（アウトプット・アサイン）や MIDI の設定など、TD-50X 全体に関する機能を設定します。また、[SHIFT] ボタンを押しながら [SETUP] ボタンを押すと、ユーザー・サンプルを取り込むなどのユーザー・サンプル機能（P.39）を使うことができます。

[TRIGGER] ボタン

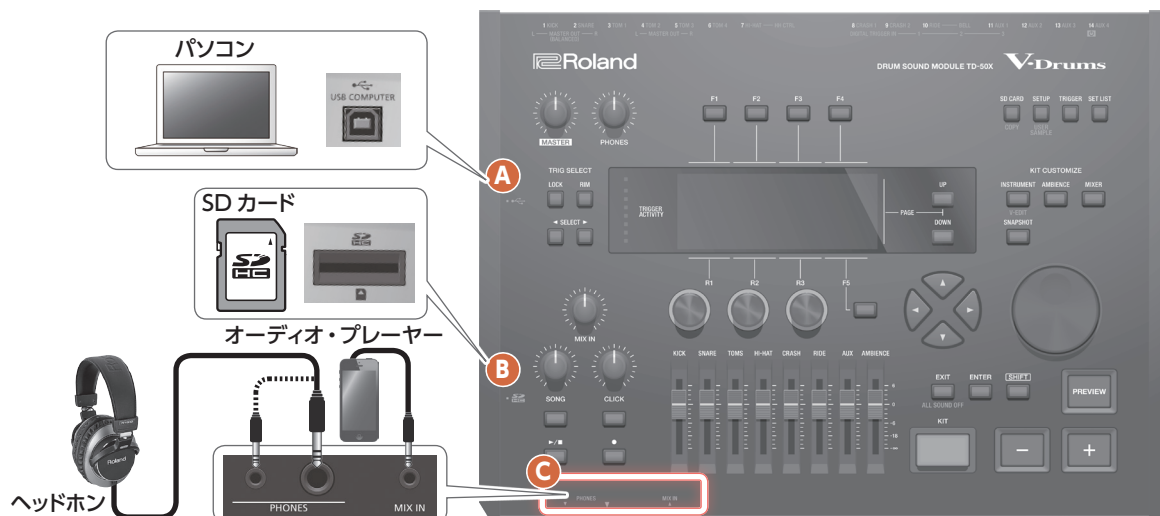
トリガー・パラメーターを設定します。

[SET LIST] ボタン

セット・リストの作成や、セット・リストで指定した順番でドラム・キットを切り替えるときに使います。セット・リスト機能がオンのときは、[SET LIST] ボタンが点灯します。

サイド・パネル／フロント・パネル

※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。



A USB COMPUTER 端子

TD-50X とパソコンを USB ケーブルで接続します (P.43)。DAW ソフトウェアを使って、TD-50X の演奏をオーディオや MIDI で録音したり、パソコンで再生した音を TD-50X で鳴らしたりすることができます。

※ 画面に「Processing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、SD カードを抜いたりしないでください。

※ メモリー・カードのメーカーや種類によっては、本機で正しく録音や再生ができないことがあります。

B SD カード・スロット

市販の SD カード (SDHC カード (32GB) まで対応) を挿入します。SD カードには、ソングや TD-50X のデータを保存することができます。また、ユーザー・サンプルの取り込みや、録音したソングのエクスポートなどにも使います。

初めて SD カードを使うときは、本機で SD カードを初期化 (フォーマット) してください (P.57)。

C

PHONES 端子

ヘッドホン接続します。
ヘッドホン接続しても、アウトプットの各端子からは音が出力されます。

MIX IN 端子

オーディオ・プレーヤー (スマートフォン) などのオーディオ再生機器を接続します。

ボトム・パネル

スタンドに取り付ける

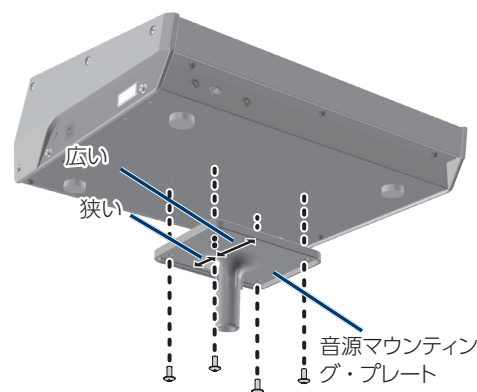
ドラム・スタンド (別売:MDS シリーズ、PDS シリーズ) に付属の音源マウンティング・プレートを使って、TD-50X をドラム・スタンドに取り付けます。

TD-50X の底面にあるネジを使って、図のように取り付けてください。

※ TD-50X の底面にあるネジ以外は使わないでください。故障の原因になります。

※ 本機を裏返すときは、破損を防ぐためボタンやつまみなどを保護してください。

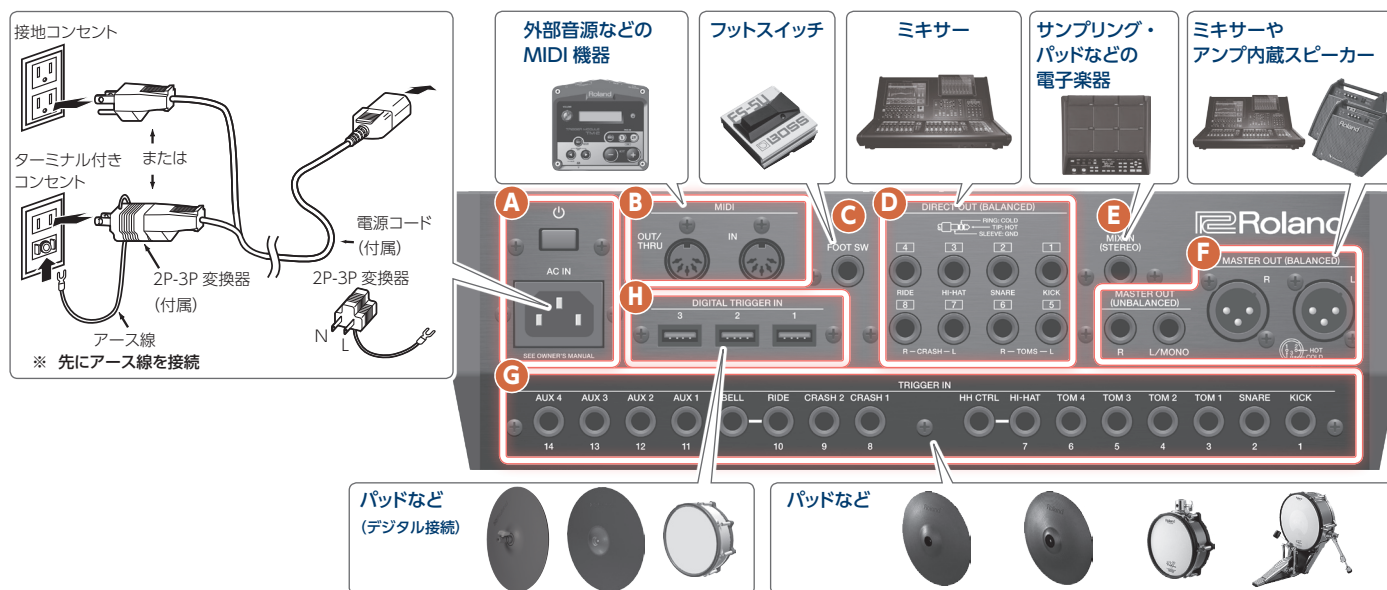
また、落下や転倒を引き起こさないよう取り扱いに注意してください。



メモ

シンバル・スタンドなどに TD-50X を取り付ける場合は、オール・パーパス・クランプ (別売: APC-33) を使って音源マウンティング・プレートを固定してください。取り付け可能なパイプの直径は、10.5 ~ 28.6mm です。

リア・パネル (接続する)



A

【】 スイッチ

電源をオン／オフします。

AC IN 端子

付属の電源コードを接続します。

B MIDI 端子

外部音源などの MIDI 機器を接続します。

C FOOT SW 端子

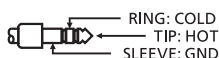
フットスイッチ (別売: BOSS FS-5U、FS-6) を接続して、さまざまなコントロールができます。

D DIRECT OUT (BALANCED) 端子

ミキサーなどに接続します。

各インストゥルメントなどを DIRECT OUT 1 ~ 8 のどの端子から出力するかは、[SETUP] ボタンで設定します。

※ DIRECT OUT (BALANCED) 端子のピン配置



F MASTER OUT (BALANCED) 端子 /

MASTER OUT (UNBALANCED) 端子

ミキサーやアンプ内蔵スピーカーや録音機器などに接続します。モノで出力したいときは、MASTER OUT (UNBALANCED) 端子の L / MONO のみに接続してください。

※ MASTER OUT (BALANCED) 端子のピン配置



G TRIGGER IN 端子

シンバル、タム、キックなどを接続します。

※ デュアル・トリガー・タイプのパッドを接続するときは、ステレオ・タイプ (TRS) のケーブルを使います。

H DIGITAL TRIGGER IN 端子

デジタル接続対応のパッド (PD-140DS、CY-18DR、VH-14D など) を接続します。

E MIX IN (STEREO) 端子

サンプリング・パッドなどの電子楽器に接続します。

電源コードの接続

感電を防ぐために付属の電源コードを使用し、アースを確実に取り付けてください。

付属の電源コードには、感電と機器の損傷を防ぐためにアース用電極端子を加えた 3 端子のプラグがついています。

- コンセントが接地コンセント (端子穴が 3 個) の場合、そのままコンセントにプラグを差し込んでください。
- コンセントがアースターミナル付コンセント (端子穴が 2 個) の場合、プラグに 2P-3P 変換器をつけ、アース接続後コンセントに差し込みます。

⚠ 警告:

※ アースは必ず、電源プラグをコンセントに差し込む前に接続してください。また、アースは必ず、電源プラグをコンセントから抜いてからはずしてください。コンセントにアース端子がない場合は、電気工事に接地工事を依頼してください。



電源を入れる／切る

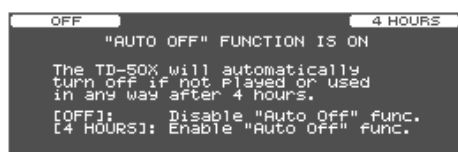
- ※ 正しく接続したら (P.11)、必ず次の手順で電源を入れてください。手順を間違えると、誤動作をしたり故障したりすることがあります。
- ※ 電源を入れる／切るときは、音量を絞ってください。音量を絞っても電源を入れる／切るときに音がすることがありますが、故障ではありません。

電源を入れる

1. TD-50X と接続した機器の音量を最小にします。

2. TD-50X の [⓪] スイッチを押します。

電源を入れると、以下の画面が表示されます。



この画面では、Auto Off 機能を有効にする／無効にするかを設定できます。

ボタン	説明
[F1] (OFF) ボタン	電源は自動的に切れません。
[F4] (4 HOURS) ボタン	4 時間以内にパッドを叩かなかったり何も操作をしなかったりすると、自動的に電源が切れます。

Auto Off 機能を「OFF」に設定していると、この画面は表示されません。

メモ

デジタル接続対応のパッドを接続していると、パッドの設定画面が表示されることがあります。詳しくは「デジタル接続対応パッドの設定」(P.12) をご覧ください。

3. 接続した機器の電源を入れ、音量を調節します。

電源を切る

注意

TD-50X で変更した値は、電源を切るときにも保存されます。必ず [⓪] スイッチを押して、電源を切るようにしてください。

1. TD-50X と接続した機器の音量を最小にします。

2. 接続した機器の電源を切ります。

3. TD-50X の [⓪] スイッチを押します。

「Please wait. Now saving...」と表示され、設定が保存されると電源が切れます。

- ※ 完全に電源を切る必要があるときは、本機の電源スイッチを切ったあと、コンセントからプラグを抜いてください。

デジタル接続対応パッドの設定

DIGITAL TRIGGER IN 端子にデジタル接続対応のパッドを初めて接続すると、以下の画面が表示されます。

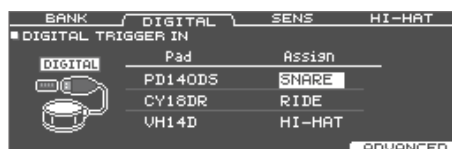
画面に従って、接続したパッドをどのトリガー・インプットに割り当てるか設定します。

- ※ TRIGGER IN 端子に接続したパッドと同じトリガー・インプットに割り当てると、TRIGGER IN 端子に接続したパッドの音は出力されません。



- ➡ パッドの設定について、詳しくは「パッドの種類を設定する」(P.49) をご覧ください。

1. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。



2. カーソル・ボタンで設定するパッドを選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルでアサインを設定します。

パッドを選ぶと、選んだパッドの [FUNC] ボタンが点滅します。

(設定例)

Pad (パッド)	Assign (アサイン)
PD140DS	SNARE
CY18DR	RIDE
VH14D	HI-HAT

- ※ 同じアサインを複数設定することはできません。

3. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする (AUTO OFF)

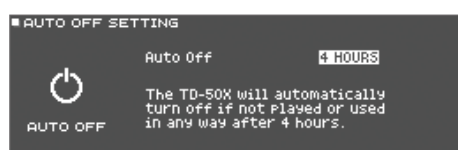
本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (Auto Off 機能)。 

自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください。

※ 電源を再びオンにするときは、電源を入れ直してください (P.12)。

1. [SETUP] ボタンを押します。
2. PAGE [UP] [DOWN] ボタンとファンクション・ボタンで、[AUTO OFF] を選びます。

AUTO OFF 画面が表示されます。



3. [-] [+] ボタンまたはダイヤルで、オート・オフ機能を設定します。

設定値	説明
OFF	電源は自動的に切れません。
4 HOURS	4 時間以内にパッドを叩かなかったり何も操作をしなかったりすると、自動的に電源が切れます。

4. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

メモ

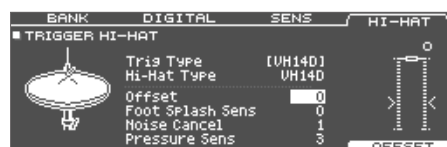
AUTO OFF 機能を「4 HOURS」に設定していると、電源が切れる 30 分前に「WARNING: AUTO OFF, The TD-50X will turn off in 30 min.」のメッセージが表示されます。

ハイハットの設定をする

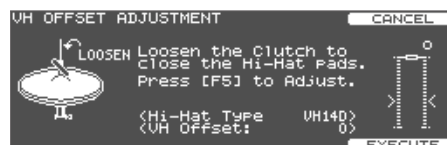
デジタル V ハイハット VH-14D や、V ハイハット VH-13、VH-11、VH-10 を使うときは、TD-50X でオフセットの調整をしてください。オープン、クローズやペダルの動きを正しく検出するために必要です。

VH-14D の設定をする

1. [TRIGGER] ボタンを押します。
2. PAGE [UP] ボタンを数回押して、最上部のページを表示します。
3. [F4] (HI-HAT) ボタンを押します。
TRIGGER HI-HAT 画面が表示されます。
※ VH-14D が未接続、またはハイハットにアサインされていない場合は、Trig Type に VH-14D が表示されません。その場合は VH-14D を接続してハイハットにアサインします (P.12)。

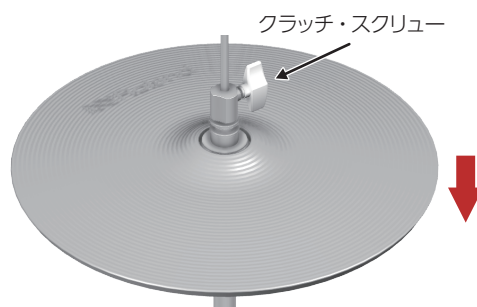


4. [F5] (OFFSET) ボタンを押します。
VH OFFSET ADJUSTMENT 画面が表示されます。

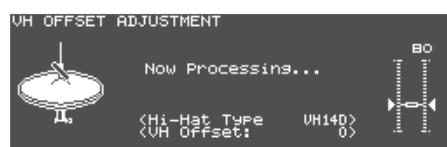


5. VH-14D のクラッチ・スクリューをゆるめ、ハイハットを閉じた状態にします。

※ ハイハット本体やペダルには触らないでください。



6. [F5] (EXECUTE) ボタンを押します。



約 3 秒でオフセットが自動的に調整されます。
[TRIGGER] ボタンが点滅から点灯に変わります。

7. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

必要に応じて、パラメーターを微調整します。

➡『データ・リスト』(PDF)

メモ

TD-50X の [KIT] ボタンを押しながら [TRIGGER] ボタンを押して、オフセットを調整することもできます。

VH-14D とドラム音源の初回接続時は、トリガー・パラメーターに推奨値が設定されます。VH-14D の取り付けかたやセッティングする位置など、使用される環境によってトリガー・パラメーターの調整が必要な場合があります。

➡『データ・リスト』(PDF)

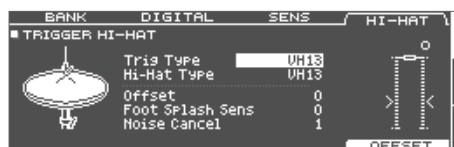
VH-13 の設定をする

1. [TRIGGER] ボタンを押します。

2. PAGE [UP] ボタンを数回押して、最上部のページを表示します。

3. [F4] (HI-HAT) ボタンを押します。

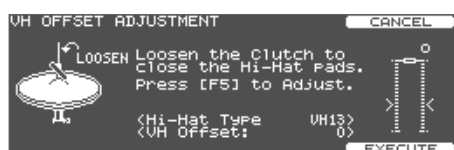
TRIGGER HI-HAT 画面が表示されます。



4. [-] [+] ボタンまたはダイヤルで、Trig Type を「VH13」に設定します。

5. [F5] (OFFSET) ボタンを押します。

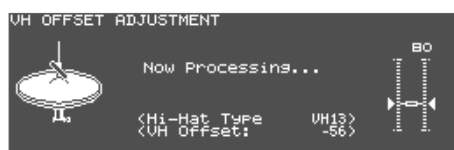
VH OFFSET ADJUSTMENT 画面が表示されます。



6. VH-13 のクラッチ・スクリューをゆるめ、ハイハットを閉じた状態にします。

※ ハイハット本体やペダルには触らないでください。

7. [F5] (EXECUTE) ボタンを押します。



約 3 秒でオフセットが自動的に調整されます。

[TRIGGER] ボタンが点滅から点灯に変わります。

8. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

必要に応じて、パラメーターを微調整します。

➡『データ・リスト』(PDF)

VH-11 (または VH-10) の設定をする

以下は VH-11 の場合の説明です。VH-10 を設定する場合は機種名を VH-10 に読み替えて操作してください。

1. ハイハットがモーション・センサー・ユニットから完全に離れた状態で、TD-50X の電源を入れます。

2. VH-11 のクラッチ・スクリューをゆるめ、ハイハットをモーション・センサー・ユニットの上に自然に置いた状態にします。

3. [TRIGGER] ボタンを押します。

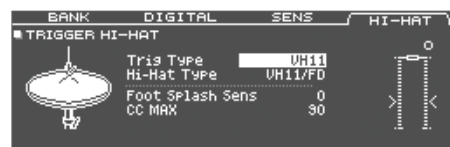
4. PAGE [UP] ボタンを数回押して、最上部のページを表示します。

5. [F4] (HI-HAT) ボタンを押します。

6. [-] [+] ボタンまたはダイヤルで、Trig Type を「VH11」に設定します。

7. TD-50X の画面右側に表示されるメーターを見ながら、VH-11 の VH オフセット調整ネジを回して調整します。

メーターに  が表示されるように調整します。



8. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

必要に応じて、パラメーターを微調整します。

➡『データ・リスト』(PDF)

基本操作

全体の音量を調節する ([MASTER] つまみ、[PHONES] つまみ)

[MASTER] つまみを使って、MASTER OUT 端子から出力される音量を調節し、[PHONES] つまみを使って、ヘッドホンの音量を調節します。

タブを切り替える、機能を設定する ([F1] ~ [F5] ボタン、[R1] ~ [R3] つまみ)

[F1] ~ [F5] ボタンを使って、ディスプレイ上部に表示されているタブを切り替えたり、ディスプレイの上下部分に表示されている機能を設定できたりします。また、[R1] ~ [R3] つまみを使って、ディスプレイ下部に表示されている値を変更できます。



ページを切り替える (PAGE [UP] [DOWN] ボタン)

画面のページを切り替えるには、PAGE [UP] [DOWN] ボタンを使います。ページの切り替えができる画面では、PAGE [UP] [DOWN] ボタンが点灯し、ディスプレイ右部分には、ページのどこにいるか表示されます。



カーソルを移動する (カーソル・ボタン)

カーソルは、画面上の設定可能な部分を反転表示します。画面の中に設定する内容がいくつかあるときは、カーソル・ボタンを押して設定したいところにカーソルを合わせます。



パッドの音量バランスを調節する (フェーダー)

フェーダーで TD-50X 全体の音量バランスを調節できます。

ミキサー (P.16) を使うと、キットごとにパッドの音量バランスを調節できます。ミキサーの設定は、キットごとに保存できます。次のトリガー・インプットや各種音量を調節できます。

フェーダー	説明
KICK	KICK
SNARE	SNARE
TOMS	TOM1~4
HI-HAT	HI-HAT
CRASH	CRASH1、2
RIDE	RIDE
AUX	AUX1~4
AMBIENCE	AMBIENCE

1 つ前の画面に戻る ([EXIT] ボタン)

前の画面に戻りたいときは、[EXIT] ボタンを押します。

操作を決定する ([ENTER] ボタン)

値の確定や操作を決定するときに押します。

値を変える ([−] [+] ボタン/ダイヤル)

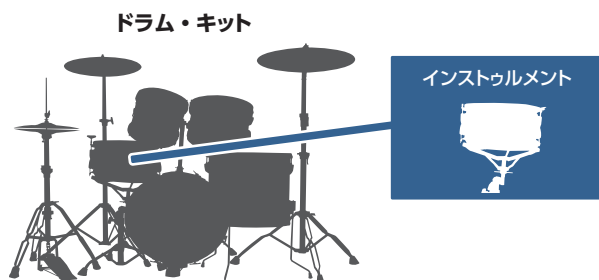
カーソルで反転表示された値を変更するには、ダイヤルまたは [−] [+] ボタンを使います。また、[SHIFT] ボタンを押しながら操作すると、値の変化が大きくなります。

メモ

[+] ボタンを押しながら [−] ボタンを押すと値が高速に大きくなり、[−] ボタンを押しながら [+] ボタンを押すと値が高速に小さくなります。

ドラム・キットとインストゥルメント

TD-50X では、各パッドを叩いたときに鳴る音色を「インストゥルメント」、各パッドに割り当てた音（インストゥルメント）のセットを「ドラム・キット」と呼びます。



ドラム・キットの構成は、以下のようになっています。



ドラム・キットを選ぶ

1. [KIT] ボタンを押します。

DRUM KIT 画面が表示されます。



2. [-] [+] ボタンまたはダイヤルで、ドラム・キットを選びます。

DRUM KIT 画面について

この画面は、[KIT] ボタンを押すと表示される、TD-50X の基本となる画面です。

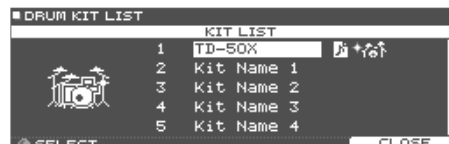


メモ

DRUM KIT 画面で表示されるキット・ネーム (上段) の見た目 (フォント) を変更できます。詳しくは『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

リストからドラム・キットを選ぶ

DRUM KIT 画面で [R1] (LIST) つまみを回すと、KIT LIST が表示され、一覧からドラム・キットを選ぶことができます。



クロス・スティック奏法を使う

TRIGGER IN 端子に接続したパッドの場合

[F4] (XSTICK) ボタンを押すたびに、スネアのパッドでクロス・スティック音 (P.6) を鳴らす／鳴らさないの切り替えができます。



クロス・スティック奏法に対応したデジタル接続対応のパッド (PD-140DS など) の場合

トリガー・インプットをスネアに割り当てると (P.12)、常時クロス・スティック奏法が可能になります。

このとき、画面に XSTICK アイコンは表示されません。

鳴っている演奏音をすべて停止する (ALL SOUND OFF)

発音中のドラムの演奏音やユーザー・サンプル (P.39) の演奏音を停止します。

※ エフェクトの残響音、ソング、クリックは停止しません。

1. 鳴っている演奏音を止めたいときに、[SHIFT] ボタンを押しながら [EXIT] ボタンを押します。

参照

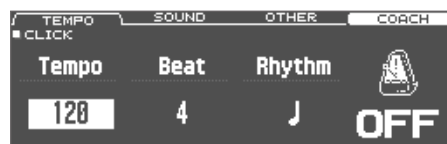
パッドやフットスイッチでも、発音中のすべての演奏音を停止できます (P.61)。

クリックを鳴らす

クリックをオン／オフする

1. [CLICK] ボタンを押します。

CLICK 画面が表示されます。



2. [F1] (TEMPO) ボタンを押します。

3. [F5] ボタンを押します。

クリックが鳴ります。

[CLICK] つまみでクリックの音量を調節できます。

4. もう一度、[F5] ボタンを押します。

クリックが止まります。

✕毛

- [SHIFT] ボタンを押しながら [CLICK] ボタンを押して、クリックをオン/オフすることもできます。
- ヘッドホンだけにクリックを出力することもできます。
➡ 「音の出力先を設定する (OUTPUT)」 (P.58)

テンポを変更する

1. CLICK 画面 (TEMPO タブ) で [R1] つまみを回して、テンポを変更します。

参照

ドラム・キットごとにテンポを設定することができます (p.37)。

拍子の設定を変更する

1. CLICK 画面 (TEMPO タブ) で [R2] つまみを回して、拍子 (BEAT) の設定を変更します。
2. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

パラメーター	設定値	説明
Tempo ([R1] つまみ)	20 ~ 260	テンポ
Beat ([R2] つまみ)	1 ~ 9	クリックの拍子 (1 小節の拍数)
Rhythm ([R3] つまみ)		クリックの間隔

サウンドの設定を変更する

- CLICK 画面 (SOUND タブ) で各つまみを回して、設定を変更します。

つまみ (パラメーター)	設定値	説明
Sound ([R1] つまみ)	METRONOME、 CLICK、 VOICE、 BEEP 1、 BEEP 2、 TEK CLICK、 STICKS、 CLAVES、 WOOD BLOCK、 COWBELL、 AGOGO、 TRIANGLE、 TAMBOURINE、 MARACAS、 CABASA	メトロノームの音色を選びます。
Level ([R2] つまみ)	-INF ~ +6.0dB	クリックの音量を調節します。
LED Ref ([R3] つまみ)	OFF、ON	クリックに合わせて [CLICK] ボタンを点滅させるか (ON) / させないか (OFF) を設定します。

- [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

その他の設定を変更する

- CLICK 画面 (OTHER タブ) で、カーソル [▲] [▼] ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタン / ダイヤルで設定を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Pan	L30 ~ CTR (CENTER) ~ R30	クリックの定位を設定します。
Tap Sw	OFF、ON	Tap Pad で設定したパッドを叩く間隔で、テンポを設定できます (タップ・テンポ)。
Tap Pad	KICK ~ AUX4 (RIM)、 PREVIEW	タップ・テンポの設定に使うパッド (または [PREVIEW] ボタン) を選びます。

- [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

曲に合わせて演奏する

オーディオ・プレーヤーの曲に合わせて演奏する

MIX IN 端子にオーディオ・プレーヤー (スマートフォン) などを接続して、曲に合わせて演奏してみます。

- MIX IN 端子にオーディオ・プレーヤーを接続します (P.10、P.11)。
- オーディオ・プレーヤーを再生します。
- [MIX IN] つまみを回して、曲の音量を調節します。

TD-50X のソングに合わせて演奏する

TD-50X は、いろいろなジャンルの曲 (ソング) を内蔵しています。内蔵ソングには、オーディオ・データのもの、ドラム演奏を録音したもの (MIDI データ) があります。また、SD カードに入れたオーディオ・ファイル (WAV / MP3) をソングとして再生することができます。

ソングに合わせて演奏してみましょう。

- [SONG] ボタンを押します。

SONG 画面が表示されます。



- [F1] ~ [F3] ボタン / [-] [+] ボタン / ダイヤルで、ソングを選びます。

ボタン	説明
[F1] ボタン (INTERNAL)	内蔵ソング
[F2] ボタン (SD CARD)	SD カードのソング
[F3] ボタン (REC DATA)	本体または SD カードに録音したソング

3. [▶/■] ボタンを押します。

選んだソングが再生されます。

操作子	機能
[▶/■] ボタン	ソングの再生／停止
[▲] (◀) ボタン	ソングの先頭に移動
[▼] (▶) ボタン	ソングの末尾に移動 (*1)
[◀] (◀◀) ボタン	ソングの早戻し (*1)
[▶] (▶▶) ボタン	ソングの早送り (*1)
[SONG] つまみ	ソング (オーディオ・ファイル) の音量調節
[CLICK] つまみ	クリック・トラック (P.21) の音量調整

(*1) ソングの種類によっては、無効になることがあります。

メモ

- ソング全体を繰り返して再生したり、一定区間を繰り返して再生したりすることができます。
- SD カードのオーディオ・ファイルをクリック・トラックとして出力することで、ソングに合わせてクリックを鳴らすことができます (P.21)。

パソコンから SD カードにオーディオ・ファイルを保存するときは

SD カードのトップ・ディレクトリー (一番上の階層) だけでなく、フォルダー内に保存されたオーディオ・ファイルも再生することができます。

- ※ 1 つのフォルダーに保存するファイルは 200 個以内にしてください。
- ※ ソングの長さは、1 ファイルが 1 時間以内になるようにしてください。

参照

詳しくは「SD カードのフォルダー構成」(P.53) をご覧ください。

TD-50X で再生できるオーディオ・ファイル

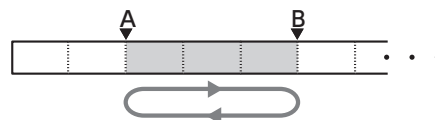
	WAV ファイル	MP3 ファイル
形式 (拡張子)	WAV (.wav)	MP3 (.mp3)
サンプリング周波数	44.1kHz	44.1kHz
ビット数	16、24 ビット	64 ~ 320kbps

※ 16 文字以上のファイル名やフォルダー名は、正しく表示されません。また、2 バイト文字を使ったファイルやフォルダーには対応していません。

指定した区間を繰り返し再生させる (A-B リピート)

ソングの一部区間をリピートすることができます。

※ ドラム演奏の内蔵ソングや、録音したソング (REC DATA) は、A-B リピートは設定できません。



1. ソングを選んで再生します。

2. SONG 画面で、リピートを開始したい位置で、[F4] (A-B) ボタンを押します。

「A」の文字が表示されます。



メモ

[◀] (◀◀) / [▶] (▶▶) ボタンで、5 秒戻し / 5 秒送りができます。長押しすると、早戻し / 早送りができます。

3. リピートを終了したい位置で、[F4] (A-B) ボタンを押します。

「B」の文字が表示され、ソングの A と B の間が繰り返し再生されます。



[F4] (A-B RPT) ボタンを押すと、通常再生に戻ります。

ソングごとの設定を変更する

ソングの音量や再生のしかた、再生のスピードを設定できます。

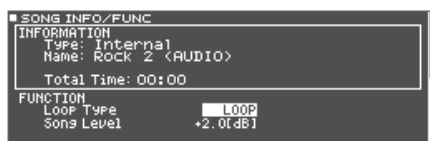
1. SONG 画面で、ソングを選びます (P.18)。

2. ソングの設定を変更します。



つまみ	説明
[R1] (SONG) つまみ	ソングを選びます。
[R2] (FOLDER) つまみ	SD カードのソングを再生するときに、SD カードのフォルダーを選びます (P.18)。 ※ SD CARD タブで表示されます。
[R3] (SPEED) つまみ	曲の再生スピードを変更します。 ※ 曲を変更すると 100% に戻ります。また、ソングの種類によっては無効になることがあります。

SONG INFO/FUNC 画面 (PAGE [DOWN] ボタンを押す)



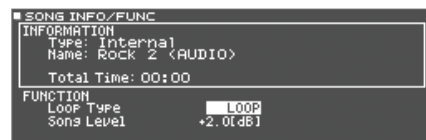
パラメーター	設定値	説明
Loop Type	ONE SHOT	1 度だけ再生して、停止します。
	LOOP	繰り返し再生します。
Song Level		ソングの音量
Click Track Level	-INF ~ +6.0 [dB]	クリック・トラックの音量 ※ ソングに対応するクリック・トラックがある場合のみ

ソングの情報を見る

1. SONG 画面で、ソングを選びます (P.18)。

2. PAGE [DOWN] ボタンを押します。

SONG INFO/FUNC 画面が表示されます。



表示	説明
Type	ソングの種類
Name	ソングの名前
Folder	ソングの保存場所 SD カードの場合は、SD カード上の保存場所が表示されます。
Total Time	曲の演奏時間 ※ ドラム演奏だけのソングでは、表示されません。

3. PAGE [UP] ボタンを押して、SONG 画面に戻ります。

オーディオ・ファイルをクリックとして再生する (クリック・トラック)

クリック用に、ソングとは別のオーディオ・ファイル (WAV ファイル) を用意することで、クリックとして再生することができます (クリック・トラック)。

クリック・トラックは、ソングと同時に再生することができるため、ソングに合わせた好みのクリック音を再生したいときに便利です。

※ クリック・トラックを再生するには、必ず WAV ファイル形式のソングとクリック用のオーディオ・ファイルを用意してください。MP3 ファイルには対応していません。

クリック・トラックのオーディオ・ファイルを準備する

1. クリック・トラックとして再生するオーディオ・ファイル (WAV ファイル) を準備します。

2. パソコンで、手順 1 で用意したファイルのファイル名を編集します。

クリック・トラックとして再生するオーディオ・ファイルのファイル名を、「ソングのファイル名 + **Click**」にします。

例)

「TD-50X.wav」というソングに合わせてクリック・トラックを再生するときは、クリックのオーディオ・ファイルのファイル名を「TD-50X_**Click**.wav」にします。

3. クリックのオーディオ・ファイルを、SD カードのソングと同じ階層に保存します (P.53)。

例) の場合では、「TD-50X.wav」と「TD-50X_**Click**.wav」を同じ階層に保存します。

ソングに合わせてクリック・トラックを再生する

1. SONG 画面で、[F2] (SD CARD) ボタンを押します (P.18)。

2. [R2] つまみ / [-] [+] ボタン / ダイヤルで、クリック・トラックと一緒に再生するソングを選びます。

例) の場合では、ソングに「TD-50X.wav」を選びます。

3. [F5] ボタンを押して、「CLICK ON」にします。



4. [▶/■] ボタンを押します。

ソングの再生と同時に、クリック・トラックも再生されます。

クリック・トラックの音量を調節するときは、[CLICK] つまみを回します。

例) の場合では、[SONG] つまみで「TD-50X.wav」、[CLICK] つまみで「TD-50X_Click.wav」の音量を調節できます。

メモ

- クリック・トラックをミュートするときは、[F5] ボタンを押して「CLICK OFF」にします。
- ヘッドホンだけにクリック・トラックを出力することもできます (P.58)。

リズム・トレーニングをする (コーチ・モード)

本機には、練習効果を最大限に引き出す「コーチ・モード」を搭載しています。

3つのメニュー「TIME CHECK」、「QUIET COUNT」、「WARM UPS」があり、スピードのコントロール能力や、精度、持久力を鍛えることができます。また、演奏レベルに合わせた設定に変更することもできます。

練習メニューを選ぶ

1. [CLICK] ボタンを押します。

CLICK 画面が表示されます。

2. [F4] (COACH) ボタンを押します。

COACH MENU 画面が表示されます。



3. カーソル・ボタンで練習メニューを選び、[ENTER] ボタンを押します。

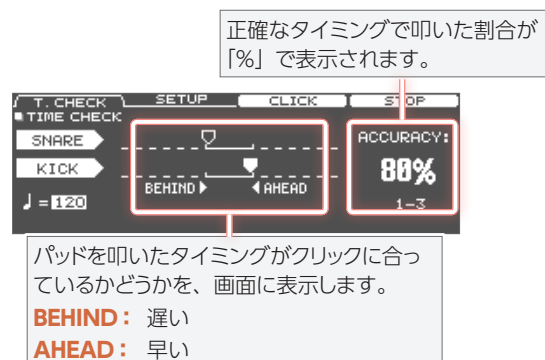
ビートに合わせて正確に叩く (TIME CHECK)

クリックに合わせて、正確にタイミングよく叩く練習です。

1. TIME CHECK 画面で、[F5] (START) ボタンを押して開始します。

練習を途中で終了するときは、[F4] (STOP) ボタンを押します。

2. クリックに合わせてパッドを叩きます。



打撃タイミングが評価されます。



再び練習するときは、[F5] (RETRY) ボタンを押します。

3. [EXIT] ボタンを押して、終了します。

TIME CHECK の設定

TIME CHECK 画面で [F2] (SETUP) ボタンを押すと、評価するパッドや、採点する小節数などを変更することができます。



パラメーター	設定値	説明
Score	採点の結果を、画面に表示させるかどうかを設定します。	
	OFF	採点しません。タイミングのチェックだけをします。
	ON (4、8、16、32 meas)	採点の結果を画面に表示します。また、採点までの間に練習する小節数を指定します。
Grade	採点基準を設定します。	
	EASY	標準
	HARD	より厳しくタイミングをチェックします。
Display 1 Display 2	画面にタイミング・グラフを表示するパッドを選びます。	
Gauge	LEFT BEHIND	タイミング・グラフの左が BEHIND (遅い) で表示されます。
	LEFT AHEAD	タイミング・グラフの左が AHEAD (早い) で表示されます。

※ [F3] (CLICK) ボタンを押すと、クリックの設定 (P.17) をすることができます。

身体でテンポを覚える (QUIET COUNT)

身体でテンポを覚えるための練習です。

最初の数小節は設定された音量でクリックが鳴り、次の数小節はクリックは鳴りません。停止するまで、この数小節間隔のサイクルが続きます。

1. QUIET COUNT 画面で、[F5] (START) ボタンを押して開始します。

2. クリックのテンポに合わせて、パッドを叩きます。

- 最初の数小節はクリックが鳴ります。クリックが発音する最後の小節になると、画面に「Ready..」と表示されます。



- クリックが鳴り終わると、画面の表示が「Quiet」に変わります。この間もパッドを叩き続けます。



- Quiet の区間のあと、正確なテンポで叩いた割合が「%」で表示されます。



3. [F4] (STOP) ボタンを押して、停止します。

4. [EXIT] ボタンを押して、終了します。

QUIET COUNT の設定

QUIET COUNT 画面で [F2] (SETUP) ボタンを押すと設定画面が表示されます。



パラメーター	設定値	説明
Measures	2、4、8、16 (小節)	「クリック発音」と「Quiet」の繰り返し区間の長さ (小節) を設定します。
Quiet	Measures で設定した小節のうち、Quiet にする小節の長さを設定します。	
	RANDOM	Quiet の区間が毎回ランダムに設定されます。
	1、2、4	設定した長さ (小節) が Quiet の区間に設定されます。 ※ Measures で設定した値の半分より大きい値を設定することはできません。

※ [F3] (CLICK) ボタンを押すと、クリックの設定 (P.17) をすることができます。

ウォーム・アップ (WARM UPS)

このモードでは、ステップ 1 ～ 3 まで順番に練習し、各ステップでの演奏を採点して、総合評価をします。

軽めの練習からハードな練習まで、3 つのコース (5 / 10 / 15 分) から選べます。また、演奏の上達度に合わせて、テンポの調節もできます。

メモ

WARM UPS をスタートさせたあとで [F5] (PAUSE) ボタンを押して、一時停止または再開させることができます。また、一時停止中に [F4] (STOP) ボタンを押して、終了することもできます。

1. WARM UPS 画面で、[F5] (START) ボタンを押して、開始します。

ステップ 1 : Change-Up

リズム・タイプが 2 小節ごとに変化していきます。

2 分音符から始まって徐々に音符が細くなっていき、また 2 分音符まで戻るといったリズムの変化を繰り返します。



ステップ 2 : Auto Up/Down

テンポを徐々に上げ下げします。

テンポが 1 ずつ上がっていき、上限値になったらテンポが 1 ずつ下がり、最初のテンポに戻ります。そのあと、同じ動作を繰り返します。



メモ

練習中に [F4] (SET MAX) ボタンを押すと、現在のテンポがテンポ上限値となり、[F4] (CLR MAX) ボタンを押すとテンポ上限値が 260 に戻ります。

※ Auto Up/Down は、Duration が 10 MINS または 15 MINS のときに実行されます。

※ Auto Up/Down では、現在のテンポは変更できません。

※ 現在のテンポ設定値が、テンポ下限値になります。

ステップ 3 : Time Check

クリックに合わせて、正確にタイミングよく叩く練習をします。パッドを叩いたタイミングが拍子に合っているか表示します。



総合評価

各ステップでの演奏を採点し、総合評価を表示します。
再び練習するときは、[F5] (RETRY) ボタンを押します。



評価 (表示)	EXCELLENT! (最高)、 VERY GOOD! (優秀)、 GOOD (良)、 AVERAGE (標準)、 START OVER (やり直し)
---------	---

2. [EXIT] ボタンを押して、終了します。

WARM UPS の設定

WARM UPS 画面で [F2] (SETUP) ボタンを押すと設定画面が表示されます。



パラメーター	設定値	説明
Duration	時間を選びます。	
	5 MINS	所要時間 : 5 分 Change-Up : 2 分 Time Check : 3 分
	10 MINS	所要時間 : 10 分 Change-Up : 3 分 Auto Up/Down : 3 分 Time Check : 4 分
	15 MINS	所要時間 : 15 分 Change-Up : 5 分 Auto Up/Down : 5 分 Time Check : 5 分
Grade	採点基準を設定します。	
	EASY	標準
	HARD	より厳しくタイミングをチェックします。
Max Tempo	現在のテンポ +1 ~ 260	ステップ 2 : Auto Up/Down での、テンポの上限値を設定します。

※ [F3] (CLICK) ボタンを押すと、クリックの設定 (P.17) を行うことができます。

お気に入りのドラム・キットを登録する
／呼び出す (FAVORITE)

お気に入りのドラム・キットを「フェイバリット」に登録しておくと、即座に呼び出すことができます。

フェイバリットに登録する

1. 登録したいドラム・キットを選びます (P.16)。
2. DRUM KIT 画面 (P.16) で、[F5] (MENU) ボタンを押します。
3. PAGE [UP] ボタンを数回押して、KIT SETTINGS 画面を表示させます。
4. [F3] (FAVORITE) ボタンを押します。
5. [R2] つまみを回して、フェイバリットを「ON」にします。

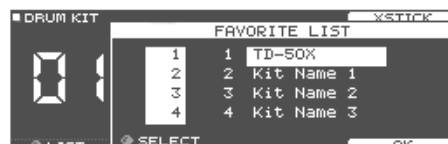


6. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。
フェイバリットに登録したドラム・キットは、DRUM KIT 画面にアイコンが表示されます。



フェイバリットを呼び出す

1. DRUM KIT 画面で、[R2] (FAVORITE) つまみを回します。
フェイバリットに登録したドラム・キットの一覧が表示されます。



2. 呼び出したいドラム・キットを選び、[F5] (OK) ボタンを押します。
選んだドラム・キットに切り替わります。

メモ

フェイバリットに登録したドラム・キットを解除するときは、フェイバリットを「OFF」にします。

演奏を録音する

自分の演奏を簡単に録音して、再生することができます。

※ SD カードに録音する場合は、あらかじめ SD カードを挿入しておきます (P.10)。

録音する

1. DRUM KIT 画面 (P.16) で [●] ボタンを押します。
RECORDER 画面が表示され、録音のスタンバイ状態になります。



メモ

クリックに合わせて録音したいときは、クリックを鳴らします (P.17)。

2. [F5] ボタンを押して、「DRUM only」を選びます。
3. [R1] つまみを回して、録音先を選びます。

表示	説明
TEMPORARY	本体の一時的なエリアに録音します (1 曲)。 ※ TEMPORARY の録音データは、電源を切ると消去されます。
SD#01 ~ 99	SD カードに録音します (99 曲)。 ※ TD-50X に SD カードを挿入していないと、選ぶことはできません。

メモ

- 録音データのある録音先に上書きしてもよい場合は、[R2] つまみを回して「Overwrite」にチェックを入れておきます。チェックをはずしておくと、誤って録音データが上書きされることがないため便利です。
 - 録音したデータは、SD カードにコピー (P.45) したりエクスポート (P.26) したりすることができます。
4. [▶/■] ボタンを押して、録音を始めます。
 5. もう一度 [▶/■] ボタンを押して、録音を終了します。

再生する

6. [▶/■] ボタンを押します。

録音した演奏が再生されます。



メモ

[R1] つまみを回して、他の録音したソングを選ぶこともできます。

7. [▶/■] ボタンを押して、再生を終了します。

ソングに合わせて演奏を録音する

ソングに合わせてドラムを録音することができます。

録音する

1. ソングを選びます (P.18)。
2. [●] ボタンを押します。
RECORDER 画面が表示され、録音のスタンバイ状態になります。
3. [F5] ボタンを押して、「with SONG」を選びます。



オーディオ・ファイルのソングのみ、「with SONG」を選ぶことができます。

4. [R1] つまみを回して、録音先を選びます。

メモ

録音データのある録音先に上書きしてもよい場合は、[R2] つまみを回して「Overwrite」にチェックを入れておきます。チェックをはずしておくと、誤って録音データが上書きされることがないため便利です。

5. [▶/■] ボタンを押して、録音を始めます。
録音の開始と同時に、ソングが再生されます。
6. もう一度 [▶/■] ボタンを押して、録音を終了します。

再生する

7. 録音した演奏を再生します。

[F5] ボタンを押して、ドラムの演奏音を鳴らす／鳴らさないを選ぶことができます。

※ ソングに合わせてクリック・トラック (P.21) を再生しながら録音した場合、録音した演奏を再生するときにはクリック・トラックは再生されません。

録音データを削除する

録音データを削除します。

1. SONG 画面 (P.18) で [F3] (REC DATA) ボタンを押します。
2. [R1] つまみを回して、削除したい録音データを選びます。
3. PAGE [DOWN] ボタンを押します。
4. [F3] (DELETE) ボタンを押します。
確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで [ENTER] ボタンを押します。

5. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
録音データが削除されます。

録音データに名前を付ける

録音データの名前を変更します。

1. SONG 画面 (P.18) で [F3] (REC DATA) ボタンを押します。
2. [R1] つまみを回して、録音データを選びます。
3. PAGE [DOWN] ボタンを押します。
4. [F4] (NAME) ボタンを押します。
SONG NAME 画面が表示されます。

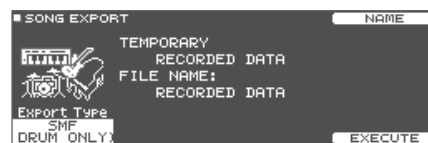


5. 名前を変更します (P.36)。
ソング・ネームは 16 文字まで入力できます。
6. [F5] (EXIT) ボタンを押して、SONG NAME 画面から抜けます。

録音データを SD カードにエクスポートする (SONG EXPORT)

本体や SD カードに録音したデータを、オーディオ・ファイル (WAV) や SMF で SD カードにエクスポートすることができます。

1. SONG 画面 (P.18) で [F3] (REC DATA) ボタンを押します。
2. [R1] つまみを回して、録音データを選びます。
3. [F4] (EXPORT) ボタンを押します。
SONG EXPORT 画面が表示されます。



4. [R1] つまみを回して、エクスポートのタイプを選びます。

表示	説明
SMF (DRUM ONLY)	ドラムの演奏音を、SMF でエクスポートします。
WAV (DRUM ONLY)	ドラムの演奏音を、オーディオ・ファイルでエクスポートします。
WAV (DRUM+SONG)	ドラムの演奏音とソングの音を、オーディオ・ファイルでエクスポートします。 ※ [DRUM only] で録音した録音データの場合は選べません。
ALL (WAV+SMF)	[DRUM only] で録音したとき ドラムの演奏音を、オーディオ・ファイルと SMF でエクスポートします。 [with SONG] で録音したとき ドラムの演奏音をオーディオ・ファイルと SMF で、ドラムの演奏音とソングの音を、オーディオ・ファイルでエクスポートします。

メモ

[F4] (NAME) ボタンを押して、エクスポートするファイルの名前を付けることができます。

5. [R2] または [R3] つまみを回して、エクスポートの設定をします (オーディオ・ファイルをエクスポートするときのみ)。

パラメーター	説明
Export Gain	[▶/■] ボタンを押すと、エクスポート結果の録音データをプレビュー再生することができます。出力レベル・メーターを参考に、オーディオ・ファイルの音量を調節します。+の値にすると音量が大きくなります。

パラメーター	説明
Post Export Time	書き出したオーディオ・ファイルの、最後の音の余韻が切れてしまう場合があります。そのようなとき、この値を大きくすると、余韻を切れるのを防ぐことができます。

※ オーディオ・ファイルは、MASTER OUT 端子から出力される音がエクスポートされます。ルーティング (P.59) の設定によっては、特定の音がエクスポートされない場合があります。

6. [F5] (EXECUTE) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで [ENTER] ボタンを押します。

7. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

エクスポートを開始します。

エクスポートしたデータは、「EXPORT フォルダー」 (P.53) に保存されます。

注意

エクスポート中は、絶対に以下の操作はしないでください。録音データがすべて失われることがあります。

- 電源を切る
- SD カードを抜く
- パッドを叩く

メモ

- 同じ名前のエクスポート・データがある場合は、「Overwrite it ?」のメッセージが表示されます。上書きしてもよい場合は、「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。中止するときは、「CANCEL」を選び [ENTER] ボタンを押して、名前を変えてからエクスポートしてください。
- エクスポートを途中で中止したいときは、[F4] (ABORT) ボタンを押します。
- ドラムの演奏を SMF でエクスポートすると、ドラム・キットや SETUP の MIDI 設定に応じたノート・ナンバーで出力されます。詳しくは『データ・リスト』 (PDF) をご覧ください。

パソコンに接続して録音する

パソコンと接続して、DAW へ 32ch のマルチ・トラックでオーディオ録音したり、MIDI で録音したりすることができます。

➔ 詳しくは「パソコンに接続して使う」 (P.43) をご覧ください。

キット・カスタマイズ編

設定の保存

TD-50X では、変更した値は自動的に保存されるため、設定を保存する操作は必要ありません。

また、電源をオフにするときも設定が保存されます。

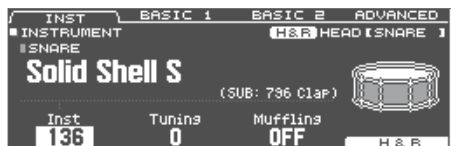
インストゥルメントをエディットする (INSTRUMENT)

スネア・ドラム、キック・ドラムなど、それぞれのインストゥルメント（楽器音）を設定します。

➔ 設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（PDF）をご覧ください。

1. [INSTRUMENT] ボタンを押します。

INSTRUMENT 画面が表示されます。



2. 設定するパッドを選びます (P.29)。

3. PAGE [UP] [DOWN] ボタンとファンクション・ボタンで、設定する項目を選びます。

※ パッドやインストゥルメントによって、設定できるパラメーターが異なります。

4. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

メモ

パラメーターによっては、[R1] ~ [R3] つまみで値を変更することもできます。

5. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

参照

- [F5] (H&R) ボタンが表示されている画面では、ヘッド部やリム部など、叩き分ける場所ごとにパラメーターを設定することができます。

➔ 詳しくは『データ・リスト』（PDF）をご覧ください。

- 2つのインストゥルメントを重ねて鳴らしたり、叩く強さに応じて切り替えたりできます (SUB INSTRUMENT)。

➔ 詳しくは「インストゥルメントを重ねて鳴らす (SUB INSTRUMENT)」(P.30) をご覧ください。

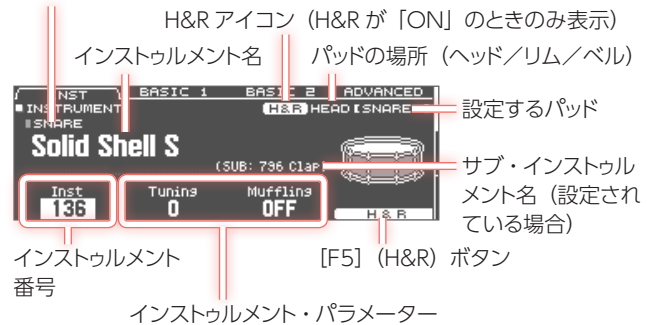
インストゥルメントを選ぶ

1. [INSTRUMENT] ボタンを押します。

2. PAGE [UP] ボタンを数回押して、INSTRUMENT 画面を表示させます。

3. [F1] (INST) ボタンを押します。

インストゥルメント・グループ

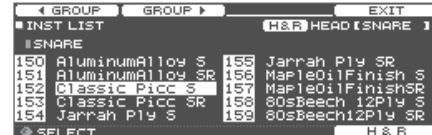


4. 設定するパッドを選びます (P.29)。

5. [R1] つまみを回して、インストゥルメントを選びます。

メモ

「インストゥルメント番号」または「インストゥルメント・グループ」にカーソルがあるときに [ENTER] ボタンを押すと、インストゥルメント・リストが表示されます。



6. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

➔ 選べるインストゥルメントについては、『データ・リスト』（PDF）をご覧ください。

叩く場所ごとにインストゥルメントを選ぶ ([F5] (H&R) ボタン)

[F5] (H&R) ボタンが表示されている画面では、ヘッド部とリム部などのインストゥルメントを、セットで選ぶ (ON) か独立して選ぶ (OFF) かを切り替えることができます。

[F5] (H&R) ボタン	説明
ON	ヘッド部とリム部などのインストゥルメントを、セットで選びます。 選んだインストゥルメントに応じて、推奨のインストゥルメントがセットで選ばれます。 ※ セットで選ばれたインストゥルメント内で同じパラメーターがある場合は、自動的に同じ値に設定されます。 ※ インストゥルメントによっては、ヘッド部とリム部などに、すべて同じインストゥルメントが選ばれることがあります。
OFF	ヘッド部やリム部など、叩く場所ごとにインストゥルメントを選びます。

設定するパッドを選ぶ

パッドを叩いて選ぶ

各パッドの設定をするときは、設定するパッドを叩いて選びます。
パッドのリム側を選ぶときは、リムを叩きます。

SELECT [◀] [▶] ボタンで、パッドを選ぶ

SELECT [◀] [▶] ボタンを使って、設定するパッド（トリガー・インプット番号）を選ぶこともできます。
[RIM] ボタンは、リム対応のパッドを使うときに、ヘッド側とリム側のどちらを設定するのかを選びます。3ウェイ・トリガー対応パッドの場合は、ヘッド側、リム側、ベル側を切り替えます。

リム側またはベル側を選んでいるときは、[RIM] ボタンが点灯します。



設定中のパッドが切り替わらないようにする（トリガー・ロック）

演奏の音を確認しながらインストゥルメントを設定したいときなど、パッドを叩いても設定中のパッドが切り替わらないようにすることができます。

1. [LOCK] ボタンを押して、点灯させます。

設定するパッドがロックされます。

※ MIDI 信号でのパッド切り替えもロックされます。

2. ロックを解除するときは、[LOCK] ボタンを押して消灯させます。

メモ

[LOCK] ボタンが点灯している状態でも、SELECT [◀] [▶] ボタンを押して、設定するパッドを切り替えることができます。

パッドの音を試聴する（[PREVIEW] ボタン）

現在選んでいるパッドの音は、[PREVIEW] ボタンを押して鳴らすことができます。

ボタンを押す強さで音量が変わります。また、音量を固定することもできます。詳しくは『データ・リスト』（PDF）をご覧ください。

メモ

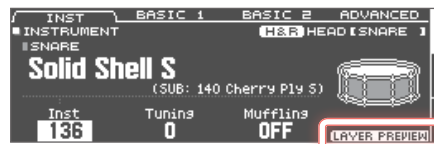
- [SHIFT] ボタンを押しながら [PREVIEW] ボタンを押すと、現在選んでいるパッドとインストの組み合わせによって、さまざまな音を鳴らすことができます（スネアのヘッド外周部の音や、シャロウ・リム・ショット、ハイハットのクローズド音色など）。
- SELECT [◀] [▶] ボタンで、トリガー・インプット番号を選べば、TD-50X にパッドが接続されていなくても、音を聴くことができます。

現在選んでいるインストのみを試聴する（LAYER PREVIEW）

TD-50X はインストゥルメント（メイン・インストゥルメント）とサブ・インストゥルメントをレイヤーして音作りが可能です。一時的に現在選んでいるレイヤーのみを試聴することができます。

1. INSTRUMENT 画面で [SHIFT] ボタンを押しながら、[F5] (LAYER PREVIEW) を押します。

[F5] (LAYER PREVIEW) が点滅して、INSTRUMENT 画面に表示されているメイン・インストゥルメントのみが鳴ります（サブ・インストゥルメントの音は鳴りません）。



メモ

- [SHIFT] ボタンを押している間は、[F5] ボタンが [LAYER PREVIEW] 機能になります。
- [LAYER PREVIEW] 表示が点滅している間は、すべてのパッドでメイン・インストゥルメントのみが鳴ります（サブ・インストゥルメントの音は鳴りません）。

2. LAYER PREVIEW を終了するときは、[EXIT] ボタンか [F5] ボタンを押します。

他の画面に移動しても LAYER PREVIEW は終了します。

アタックやリリースを調節する (TRANSIENT)

アタックやリリースを、インストゥルメントごとに調節することができます (トランジェント)。

※ インストゥルメントや USER SAMPLE の設定によっては設定できません。

1. [INSTRUMENT] ボタンを押します。
2. 設定するパッドを選びます。
3. PAGE [UP] [DOWN] ボタンを押して、2 ページ (TRANSIENT) を表示させます。



4. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

※ [R1] ~ [R3] つまみでもパラメーターの変更が可能です。

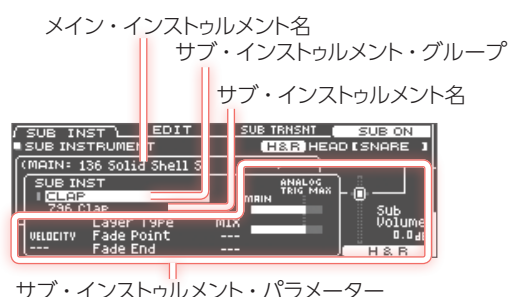
パラメーター	設定値	説明
[F4] ボタン	OFF、TRANSIENT ON	トランジェントの効果をオン/オフします。
Type	PRESET、TYPE 1 ~ 4	USER SAMPLE にトランジェントを適用するときの効果を設定できます (内蔵音色の場合は (PRESET) と表示され変更できません)。
Attack Time	1 ~ 10	アタックが変化する時間
Attack Depth	-100 ~ +100	アタックの調節
Attack Type	NORMAL、WIDE 1、WIDE 2	NORMAL は常にトランジェントの Attack 効果がかかります。WIDE 1/2 に設定すると、弱く叩いたときの Attack の効果が弱まります。強く叩いたときに徐々に Attack を効かせたいときなどに有効です。
Release Depth	-100 ~ +100	リリースの調節
Gain	-12.0 ~ +6.0dB	トランジェント調節後の音量

インストゥルメントを重ねて鳴らす (SUB INSTRUMENT)

通常のインストゥルメント (メイン・インストゥルメント) とサブ・インストゥルメントを重ねて鳴らすことができます。また、2 つのインストゥルメントを叩く強さに応じて切り替えたり、バランスを変化させたりすることもできます。

1. [INSTRUMENT] ボタンを押します。
2. 設定するパッドを選びます (P.29)。
3. PAGE [DOWN] ボタンを押して、3 ページ (SUB INSTRUMENT) を表示させます。
4. [F1] (SUB INST) ボタンを押します。

SUB INSTRUMENT 画面が表示されます。



サブ・インストゥルメントを選ぶ

5. サブ・インストゥルメントまたはサブ・インストゥルメント・グループにカーソルを合わせ、[-] [+] ボタンまたはダイヤルでサブ・インストゥルメントを選びます。

サブ・インストゥルメントをオン/オフする

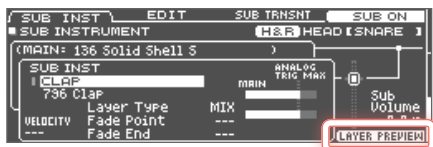
6. [F4] ボタンを押して、オン/オフを切り替えます。

現在選んでいるインストのみを試聴する (LAYER PREVIEW)

一時的に現在選んでいるレイヤー（この場合はサブ・インストゥルメント）のみを試聴することができます。

1. INSTRUMENT 画面で [SHIFT] ボタンを押しながら、[F5] (LAYER PREVIEW) を押します。

[F5] (LAYER PREVIEW) が点滅している間は、すべてのパッドでサブ・インストゥルメントのみが鳴ります（メイン・インストの音は鳴りません）。



メモ

- [SHIFT] ボタンを押している間は、[F5] ボタンが「LAYER PREVIEW」機能になります。
- 「LAYER PREVIEW」表示が点滅している間は、すべてのパッドでサブ・インストゥルメントのみが鳴ります（メイン・インストの音は鳴りません）。

2. LAYER PREVIEW を終了するときは、[EXIT] ボタンか [F5] ボタンを押します。

他の画面に移動しても LAYER PREVIEW は終了します。

サブ・インストゥルメントを設定する

3. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

パラメーター	説明
	サブ・インストゥルメントを、どのように鳴らすかを設定します。
MIX	常にメイン・インストゥルメント (A) とサブ・インストゥルメント (B) を重ねて鳴らします。
FADE1	「Fade Point」以上の強さで叩いたときだけ、サブ・インストゥルメント (B) を重ねて鳴らします。
FADE2	「Fade Point」以上の強さで叩いたとき、その強さに応じてサブ・インストゥルメント (B) を重ねて鳴らします。 Fade End でメイン・インストゥルメント (A) とサブ・インストゥルメント (B) が同じ音量になります。

Layer Type

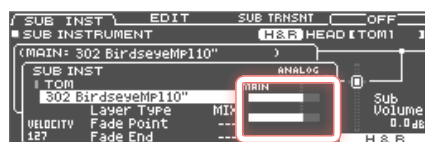
Layer Type	XFADE 音量 叩く強さ	基本的に FADE2 と同じ動作をしますが、Fade Point を境に Fade End にかけてパッドを強く叩いたときにメイン・インストゥルメント (A) の音が小さくなっていきます。
	SWITCH 音量 叩く強さ	「Fade Point」未満の弱さではメイン・インストゥルメント (A) を、「Fade Point」以上の強さではサブ・インストゥルメント (B) を、切り替えて鳴らします。
Fade Point (*1)		サブ・インストゥルメントを鳴らし始める打撃の強さを設定します。 「1」に設定すると、どんな強さで叩いてもサブ・インストゥルメントが鳴ります。 「127」(デジタル接続対応パッドは「127+32」) に設定すると、一番強く叩いたときだけサブ・インストゥルメントが鳴ります。 ※ Layer Type が「MIX」のときは無効です。
Fade End (*1)		Layer Type が FADE2、XFADE のときに、フェード区間やクロスフェード区間を設定します。
Sub Volume	-INF ~ +6.0dB	サブ・インストゥルメントの音量を調節します。

(*1) Fade Point は Fade End より大きく設定できません。

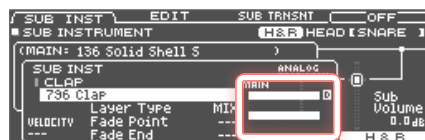
メモ

TRIGGER IN 端子に接続したパッドと、デジタル接続対応パッドでは Layer Type の表示が変わります。

TRIGGER IN 端子に接続したパッド



デジタル接続対応パッドのとき



参照

その他の設定については、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

4. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

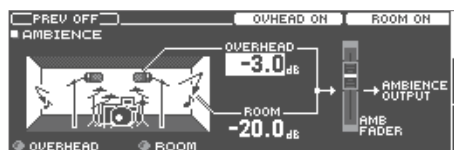
演奏する場所の残響を再現する (AMBIENCE)

ドラム・キット全体を集音するオーバーヘッド・マイクや、ドラムを演奏する場所の残響や鳴りかたを再現します（アンビエンス）。オーバーヘッド・マイクの音や、部屋の種類や大きさ（ルーム・アンビエンス）や残響音（リバーブ）などを調節することで、より自然で臨場感のあるドラム・サウンドが得られます。

➡ 設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（PDF）をご覧ください。

1. [AMBIENCE] ボタンを押します。

AMBIENCE 画面が表示されます。



2. アンビエンスの設定を変更します。

3. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

アンビエンスをオン／オフする

1. [AMBIENCE] ボタンを押します。

2. PAGE [UP] ボタンを数回押して、AMBIENCE 画面を表示させます。

3. [F3] [F4] ボタンを押して、オン／オフを切り替えます。

ボタン	説明
[F1] ボタン	マスター・アウトとヘッドホンに、一時的にアンビエンス音（オーバーヘッドとルームの音）のみを出力します。 再び [F1] ボタンを押すか、画面を移動すると解除されます。
[F3] ボタン	オーバーヘッドをオン／オフします。
[F4] ボタン	ルーム・アンビエンスやリバーブをオン／オフします。

メモ

アンビエンスの設定をコピーすることができます（P.45）。

ミキサーをエディットする (MIXER)

パッドごとに音量設定したり、音にさまざまな効果（エフェクト）をかけたりします。

➡ 設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（PDF）をご覧ください。

1. [MIXER] ボタンを押します。

ミキサー設定画面が表示されます。

2. 設定するパッドを選びます（P.29）。

3. ミキサーの設定を変更します。

4. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

パッドごとの音量やパンを設定する

パッドごとに、音量やパン（定位）などを調節します。

1. [MIXER] ボタンを押します。

2. PAGE [UP] ボタンを押して、1 ページ (MIXER VOLUME) を表示させます。



3. [F1] (VOLUME) ～ [F4] (KIT VOL) ボタンを押して、設定する項目を選びます。

4. 設定するパッドを選びます（P.29）。

カーソル・ボタンで選ぶこともできます。

5. [-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
[F1] (VOLUME) ボタン		
Volume	-INF ～ +6.0dB	各パッドの音量
[F2] (PAN) ボタン		
Pan	L30 ～ CTR (CENTER) ～ R30	各パッドの定位
[F3] (MIN VOL) ボタン		
Pad Minimum Volume (*1)	0 ～ 15	各パッドの最小音量 強打時の音量を保ったまま弱打時の音量を大きくすることができます。スネアのゴースト・ノートやライド・シンバルのレガート音を、より聴こえやすくすることができます。

パラメーター	設定値	説明
Pad Maximum Volume (*1)	-5 ~ 0	各パッドの最大音量 最強打時のニュアンスを保ったまま最強打時の音量を小さくすることができます。 最強打によるニュアンスを残しつつ、音量を抑えることができます。 デジタル接続対応パッドとMIDI IN 端子からの入力のみ有効です。
[F4] (KIT VOL) ボタン		
Kit (Kit Volume)		ドラム・キットの音量
Pedal HH (Pedal HI-HAT Volume)	-INF ~ +6.0dB	ペダル・ハイハットの音量
XStick (XStick Volume)		クロス・スティックの音量
HH Op/Cl Balance	-5 ~ +5	オープン/クローズの音量バランス 値を小さくすると、ハイハットがオープンのときに演奏する音量がクローズのときに演奏する音量よりも小さくなります。値を大きくすると、ハイハットがオープンのときに演奏する音量がクローズのときに演奏する音量よりも大きくなります。

(*1) カーソル [▲] [▼] ボタンを押して、Pad Minimum Volume と Pad Maximum Volume の選択を切り替えることができます。

メモ

- [F5] (H&R) ボタンを押して「ON」にすると、ヘッド部とリム部などを同時に設定できます。
- KIT SETTINGS 画面 (VOLUME タブ) でも、「Kit Volume」を設定できます。
- MIXER VOLUME と MIXER PAN の設定をコピーすることができます (P.45)。

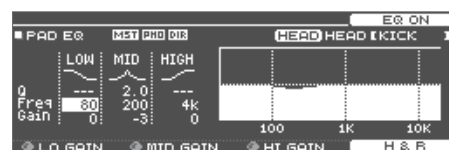
エフェクトをかける

パッドごとに音量変化 (パッド・コンプレッサー) と音質 (パッド・イコライザー) を調節したり、最大 3 つのエフェクトを設定してドラム・キットに効果をかけたりすることができます (マルチ・エフェクト)。

➔ 設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

1. [MIXER] ボタンを押します。
2. PAGE [UP] [DOWN] ボタンを押して、設定画面を表示させます。

PAD EQ 画面 (パッド・イコライザー)



PAD COMP 画面 (パッド・コンプレッサー)



MFx1 ~ 3 画面 (マルチ・エフェクト)



3. エフェクトの設定を変更します。

エフェクトをオン/オフする

1. [MIXER] ボタンを押します。
2. PAGE [UP] [DOWN] ボタンを押して、設定画面を表示させます。
3. ファンクション・ボタンを押して、オン/オフを切り替えます。

画面	ボタン	説明
PAD EQ 画面	[F4] ボタン	パッド・イコライザーをオン/オフします。
PAD COMP 画面	[F4] ボタン	パッド・コンプレッサーをオン/オフします。
MFx1 ~ 3 画面	[F5] ボタン	[R1] つまみで選んだマルチ・エフェクト 1 ~ 3 をオン/オフします。

メモ

パッド・イコライザー、パッド・コンプレッサー、マルチ・エフェクトの設定をコピーすることができます (P.45)。

ドラム・キット全体の音を調節する (MASTER COMP / MASTER EQ)

マスター・アウトプットの最終段にかけるステレオ・コンプレッサー／リミッター（マスター・コンプ）と4バンド・パラメトリック・イコライザー（マスターEQ）の設定をします。

※ DIRECT OUT 端子から出力する音には、マスター・コンプ／マスターEQの効果はかかりません。

※ ルーティング (P.59) で Master Out を「DIRECT」に設定していると、MASTER OUT 端子から出力する音には、マスター・コンプ／マスターEQの効果はかかりません。

参照

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(PDF)をご覧ください。

マスター・コンプの用途

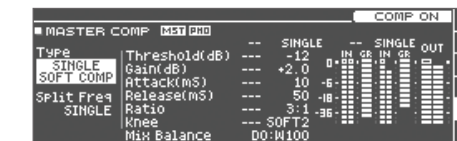
- 瞬間的な音のピークを圧縮することで、ドラム全体の音圧を上げることができます。その結果、音を前面に出すことや、他の楽器音に埋もれにくい音にすることができます（コンプ）。
- 録音機器への過大入力を抑えつつ、録音レベルを大きくすることができます（コンプ／リミッター）。
- 小型のモニター・アンプを使う場合に、ドラム音のピークを整え、音を歪みにくくします（リミッター）。
- ドライ音と圧縮した音を混ぜることで、ダイナミクスを生かしつつ音を前面に出すことができます（パラレル・コンプレッション）。

マスターEQの用途

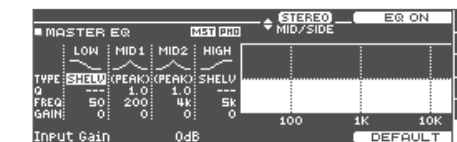
- 4バンド（LOW / MID1 / MID2 / HIGH）のブースト／カットによる音質補正ができます。
- マスター・コンプを使用したときの音質を補正するためにも使用できます。
- 左右の位相の近いもの／遠いものでそれぞれ音質補正することも可能です（MID/SIDE）。

1. [MIXER] ボタンを押します。
2. PAGE [UP] [DOWN] ボタンを押して、設定画面を表示させます。

MASTER COMP 画面



MASTER EQ 画面

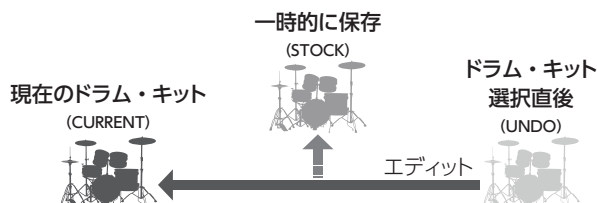


3. エフェクトの設定を変更します。
- マスター・コンプ／マスターEQ をオン／オフする
1. [MIXER] ボタンを押します。
 2. PAGE [UP] [DOWN] ボタンを押して、設定画面を表示させます。
 3. ファンクション・ボタンを押して、オン／オフを切り替えます。

画面	ボタン	説明
MASTER COMP 画面	[F4] ボタン	マスター・コンプをオン／オフします。
MASTER EQ 画面	[F4] ボタン	マスターEQ をオン／オフします。

エディット前のドラム・キットと聴き比べる／戻す (SNAPSHOT)

エディット中のドラム・キットを一時的に保存しておき、現在の設定と聴き比べたり設定を戻したりすることができます (スナップショット)。



1. エディットするドラム・キットを選びます。

ドラム・キットを選んだ時点で、選ばれたドラム・キットの情報が UNDO に保存されます。

2. エディット中のドラム・キットの設定を一時的に保存したいタイミングで、[SNAPSHOT] ボタンを押します。

SNAPSHOT 画面が表示され、現在のドラム・キット (CURRENT) が選ばれます。



3. [F5] (SAVE) ボタンを押します。

現在のドラム・キットの設定が、STOCK に保存されます。

メモ

[SHIFT] ボタンを押しながら [SNAPSHOT] ボタンを押すと、SNAPSHOT 画面に入らなくても、現在のドラム・キットの設定を STOCK に保存することができます。

4. [EXIT] ボタンを押して SNAPSHOT 画面を抜けて、ドラム・キットをエディットします。

※ ドラム・キットを変えると、STOCK に保存されている設定は消去されます。

5. [SNAPSHOT] ボタンを押します。

6. [F1] ～ [F3] ボタンで、保存されたドラム・キットを切り替えながら演奏し、聴き比べます。

ボタン	説明
[F1] (CURRENT) ボタン	現在のドラム・キットの設定
[F2] (STOCK) ボタン	STOCK に保存したドラム・キットの設定
[F3] (UNDO) ボタン	ドラム・キット選択直後の設定

7. 現在のドラム・キットの設定を STOCK やドラム・キット選択直後の設定に戻すときは、[F2] または [F3] ボタンを押して、戻すドラム・キットの設定を選びます。

現在のドラム・キットの設定のままにするときは、[KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

8. [F4] (RESTORE) ボタンを押します。

確認メッセージが表示されます。



中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

9. 「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

現在のドラム・キットの設定が、手順 7 で選んだドラム・キットの設定に戻ります。

10. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

ドラム・キットをエディットする (MENU)

ドラム・キットの音量や操作子の点灯色などを設定します。

➔ 設定できるパラメーターについては、「音色の変化をコントロールする」(P.38)、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

1. DRUM KIT 画面 (P.16) で、[F5] (MENU) ボタンを押します。

メニュー画面が表示されます。



2. ドラム・キットの設定を変更します。
3. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

音量を設定する

ドラム・キットの音量を設定します。

1. DRUM KIT 画面 (P.16) で、[F5] (MENU) ボタンを押します。
 2. PAGE [UP] ボタンを押して、最上部のページを表示します。
- KIT SETTINGS 画面が表示されます。
3. [F1] (VOLUME) ボタンを押します。



4. [-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

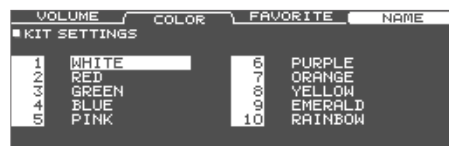
設定値	-INF ~ +6.0dB
-----	---------------

[KIT] ボタンやつまみの点灯色を設定する

ドラム・キットごとに、[KIT] ボタンやつまみの点灯色を変えることができます。

ドラム・キットのジャンルに合わせて点灯色を変えたり、インストゥルメントの作り込みの目安にしたりするなど、識別したいときに便利です。

1. KIT SETTINGS 画面で、[F2] (COLOR) ボタンを押します。



2. カーソル・ボタンで点灯色を選びます。

設定値	1 ~ 10
-----	--------

ドラム・キットの名前を変更する

現在選んでいるドラム・キットの名前を変更します。

1. KIT SETTINGS 画面で、[F4] (NAME) ボタンを押します。
- KIT NAME 画面が表示されます。



2. 名前を変更します。

キット・ネーム (上段) は 12 文字、サブ・ネーム (下段) は 16 文字まで入力できます。

操作子	説明
カーソル・ボタン	変更する文字にカーソルを合わせます。
[-] [+] ボタン、ダイヤル	文字を変更します。
[R1] (ABC) つまみ	大文字を選びます。
[R2] (abc) つまみ	小文字を選びます。
[R3] (123) つまみ	数字を選びます。
[F2] (FONT CHANGE) ボタン	押すたびに DRUM KIT 画面で表示されるキット・ネーム (上段) の見た目 (フォント) を切り替えます (P.37)。
[F3] (INSERT) ボタン	カーソル位置に空白を挿入します。
[F4] (DELETE) ボタン	カーソル位置の文字を削除します。

3. [F5] (EXIT) ボタンを押して、KIT NAME 画面から抜けます。

ブラシ演奏をする

スティックとブラシのどちらで演奏するかを設定します。

1. DRUM KIT 画面 (P.16) で、[F5] (MENU) ボタンを押します。
2. PAGE [UP] [DOWN] ボタンを押して、2 ページ (KIT SETTINGS 2) を表示させます。
3. [F1] (BRUSH) ボタンを押します。
4. [-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Brush Switch	OFF	スティック演奏用
	ON	ブラシ演奏用

Brush Switch を「ON」にすると、DRUM KIT 画面にブラシ・アイコンが表示されます。



メモ

ブラシ演奏は、以下のときに有効になります。

- ブラシ演奏に対応したインストゥルメントを選び、SNARE の HEAD に割り当てる。
- TRIGGER IN 端子 (SNARE) にメッシュ・パッドを接続するか、DIGITAL TRIGGER IN 端子にデジタル接続対応のパッドを接続し、アサインを「SNARE」に設定する。

キットごとにテンポを設定する

ドラム・キットを選んだとき、ここで設定したテンポが自動的にセットされます。

1. DRUM KIT 画面 (P.16) で、[F5] (MENU) ボタンを押します。
2. PAGE [UP] [DOWN] ボタンを押して、2 ページ (KIT SETTINGS 2) を表示させます。
3. [F2] (TEMPO) ボタンを押します。
4. [-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Kit Tempo	OFF	TD-50X 全体で共通のテンポ (P.17) を使用する ドラム・キットを変更しても、テンポは変わりません。
	ON	ドラム・キットごとにテンポを設定する Kit Tempo が「ON」のドラム・キットを選ぶと、そのドラム・キットのテンポが、現在のテンポに反映されます。
Tempo	20 ~ 260	ドラム・キットごとの設定テンポ

Kit Tempo が「ON」に設定されたドラム・キットを選ぶと、DRUM KIT 画面にテンポが表示されます。



ドラム・キットごとのテンポと TD-50X 全体のテンポで異なった設定をしていると、テンポの前に「*」が表示されます。

キットごとにフォントを設定する

ドラム・キットごとに、DRUM KIT 画面で表示されるキット・ネーム (上段) の見た目 (フォント) を設定できます。

1. DRUM KIT 画面 (P.16) で、[F5] (MENU) ボタンを押します。
2. PAGE [UP] [DOWN] ボタンを押して、2 ページ (KIT SETTINGS 2) を表示させます。
3. [F3] (FONT) ボタンを押します。
4. [-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Kit Font	DEFAULT、TYPE 1 ~ 5	ドラム・キットごとのフォント

音色の変化をコントロールする

ペダルで音程に変化をつけたり、パッドのポジションに応じた音色を調整したりできます。

参照

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（PDF）をご覧ください。

1. DRUM KIT 画面（P.16）で、[F5]（MENU）ボタンを押します。
2. PAGE [UP] [DOWN] ボタンを押して、3 ページ（KIT PAD CTRL）を表示させます。
3. [F1]（PEDAL BEND）～ [F4]（MUTE GRP）ボタンを押して、設定する項目を選びます。

ボタン	説明
[F1]（PEDAL BEND）ボタン	ハイハット・ペダルの踏み込み量によるピッチの変化量を設定します。
[F2]（POSITION）ボタン（*1）	打点位置やリム・ショットのニュアンスによる音色変化をオン/オフすることができます。
[F3]（POS AREA）ボタン（*1）	ヘッド部とリム部などの打点位置のエリアを設定します。
[F4]（MUTE GRP）ボタン	パッドを叩いたときに特定のパッドの音をミュートします（ミュート・グループ）。

（*1）以下のトリガー・インプットに対応しています。

- SNARE
- TOM1 ～ 4
- HI-HAT（VH-14D をトリガー・インプット - ハイハットにアサイン時のみ）
- RIDE のボウ（ヘッド）
- AUX1 ～ 4

※ 接続しているパッドや、選んでいるインストゥルメントによっては、効果が得られないことがあります。

4. 設定するパッドを選びます（P.29）。
5. [-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

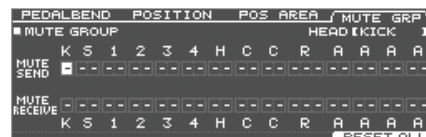
パッドを叩いたときに特定のパッドの音をミュートする（ミュート・グループ）

ミュート・グループを設定すると、パッドを叩いたときに、同じミュート・グループに設定した別のパッドをミュート（消音）することができます。

たとえば、各パッドのインストゥルメントにユーザー・サンプルを割り当て、ミュート・グループの設定をすると、パッドを叩いてユーザー・サンプルを切り替えながら鳴らすといった使いかたができます。

1. DRUM KIT 画面（P.16）で、[F5]（MENU）ボタンを押します。
2. PAGE [UP] [DOWN] ボタンを押して、3 ページ（KIT PAD CTRL）を表示させます。
3. [F4]（MUTE GRP）ボタンを押します。

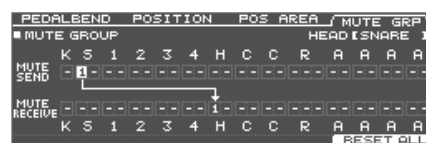
MUTE GROUP 画面が表示されます。



4. 設定するパッドを選びます（P.29）。
カーソル・ボタンで選ぶこともできます。
5. カーソル・ボタン / [-] [+] ボタン / ダイヤルで、ミュート・グループの設定をします。

パラメーター	設定値	説明
MUTE SEND	-（OFF）、1 ～ 8	ミュート・グループ番号を設定します。 MUTE SEND で設定した番号のパッドを叩くと、MUTE RECEIVE で同じ番号に設定したパッドの音がミュートされます。
MUTE RECEIVE		※ 同じパッドの同じ場所（ヘッド部やリム部など）で、MUTE SEND と MUTE RECEIVE を同じ番号に設定しても、ミュートされません。

ミュート・グループを設定すると、選択中のパッドを叩いたときにミュートするパッドや、どのパッドを叩いたときに選択中のパッドがミュートされるかが、矢印で示されます。



メモ

すべてのミュート・グループを解除するときは、[F5]（RESET ALL）ボタンを押します。

パッドごとに MIDI 送受信の設定をする

パッドを叩いたときに送受信する MIDI 情報の設定をすることができます。

参照

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(PDF)をご覧ください。

1. DRUM KIT 画面 (P.16) で、[F5] (MENU) ボタンを押します。
2. PAGE [DOWN] ボタンを押して、4 ページ (KIT PAD MIDI) を表示させます。
3. [F1] (NOTE) ~ [F3] (MIDI CH) ボタンを押して、設定する項目を選びます。

ボタン	説明
[F1] (NOTE) ボタン	各パッドが送受信する MIDI ノート・ナンバー
[F2] (GATE) ボタン	各パッドが送信するノートの鳴る長さ
[F3] (MIDI CH) ボタン	各パッドのノート・メッセージを送受信する MIDI チャンネル

4. 設定するパッドを選びます (P.29)。
5. [-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

メモ

初期値に戻すときは、[F5] (DEFAULT) ボタンを押します。

※ 外部 MIDI 機器からパッドを鳴らす場合、鳴らすパッドの MIDI ノート・ナンバーと MIDI チャンネルを合わせる必要があります。

オーディオ・ファイルを取り込む／鳴らす (USER SAMPLE)

パソコンで作成したオーディオ・ファイルを、SD カードから TD-50X に取り込み、インストゥルメントとして鳴らすことができます (ユーザー・サンプル機能)。ユーザー・サンプルは、他のインストと同じように、音色を調節したり、エフェクトをかけたりできます。

TD-50X に取り込めるオーディオ・ファイル

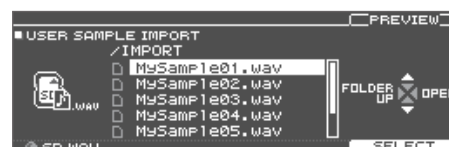
	WAV ファイル
形式 (拡張子)	WAV (.wav)
サンプリング周波数	44.1kHz
ビット数	16、24 ビット
時間	最大 180 秒

※ 16 文字以上のファイル名やフォルダー名は、正しく表示されません。また、2 バイト文字を使ったファイルやフォルダーには対応していません。

オーディオ・ファイルを取り込む (IMPORT)

オーディオ・ファイルをユーザー・サンプルとして、TD-50X に取り込みます。

1. SD カードを TD-50X に挿入します (P.10)。
2. [SHIFT] ボタンを押しながら、[SETUP] ボタンを押します。
3. PAGE [UP] ボタンを押して、最上部のページを表示します。
4. [F1] (IMPORT) ボタンを押します。
USER SAMPLE IMPORT 画面が表示されます。



SD カードのファイルを選ぶ

カーソル・ボタン	機能
[▲] ボタン	カーソルの移動 (上)
[▼] ボタン	カーソルの移動 (下)
[◀] ボタン	フォルダーを抜ける
[▶] ボタン	フォルダーに入る

メモ

- [F4] (PREVIEW) ボタンを押すと、選んでいるオーディオ・ファイルを再生することができます。
- 取り込むオーディオ・ファイルは、SD カードの IMPORT フォルダーに保存しておくと便利です。

5. カーソル・ボタンでオーディオ・ファイルを選び、[F5] (SELECT) ボタンを押します。

USER SAMPLE IMPORT (DESTINATION) 画面が表示されます。



6. カーソル・ボタンでインポート先の番号を選び、[F5] (IMPORT) ボタンを押します。

すでにデータがある番号を選ぶと、「User Sample Exists!」とメッセージが表示されます。データの無い番号を選んでください。

7. [F5] (IMPORT) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

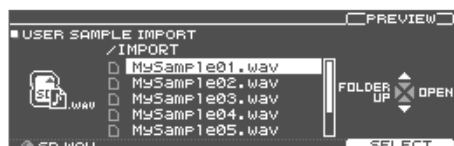
8. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

オーディオ・ファイルが取り込まれます。

フォルダー内のオーディオ・ファイルをまとめて取り込む (IMPORT ALL)

1. SD カードを TD-50X に挿入します (P.10)。
2. [SHIFT] ボタンを押しながら、[SETUP] ボタンを押します。
3. PAGE [UP] ボタンを押して、最上部のページを表示します。
4. [F1] (IMPORT) ボタンを押します。

USER SAMPLE IMPORT 画面が表示されます。



5. カーソル・ボタンでオーディオ・ファイルを選び、[F1] (IMPORT ALL) ボタンを押します。



まとめて取り込むフォルダーの名前と、インポート先の先頭の番号が表示されます。

※ インポート先の範囲に 1 つでもユーザー・サンプルがあると、「User Sample Exists! Not Enough Space to Import All.」とメッセージが表示されます。ユーザー・サンプルのない範囲を確認してから番号を選んでください。

6. [F5] (IMPORT) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

7. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

オーディオ・ファイルが取り込まれます。

ユーザー・サンプルをインストゥルメントに割り当てる／鳴らす

1. [INSTRUMENT] ボタンを押します。
2. PAGE [UP] ボタンを数回押して、INSTRUMENT 画面を表示させます。
3. [F1] (INST) ボタンを押します。



4. 設定するパッドを選びます (P.29)。
5. インストゥルメントのカテゴリーにカーソルを合わせ、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで「USER SAMPLE」を選びます。



6. [R1] つまみを回して、ユーザー・サンプルを選びます。
7. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。
ユーザー・サンプルを割り当てたパッドを叩くと、ユーザー・サンプルが鳴ります。

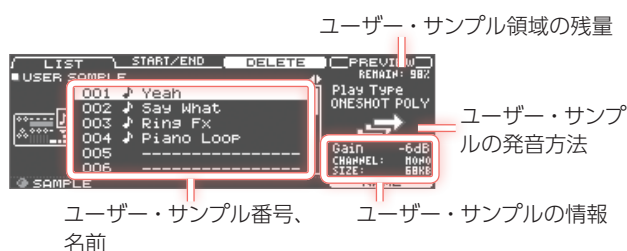
メモ

- ユーザー・サンプルは、他のインストと同じように、音色を調節したり、エフェクトをかけたりできます。
→ 「インストゥルメントをエディットする (INSTRUMENT)」 (P.28)
→ 「エフェクトをかける」 (P.33)
- ユーザー・サンプルはサブ・インストゥルメントにも割り当てることができます。

ユーザー・サンプルを一覧表示する

取り込んだすべてのユーザー・サンプルを一覧表示します。
音の確認やループの設定、名前の変更などができます。

1. [SHIFT] ボタンを押しながら、[SETUP] ボタンを押します。
2. PAGE [UP] ボタンを押して、1 ページ (USER SAMPLE) を表示させます。
3. [F2] (SAMPLE LIST) ボタンを押します。
USER SAMPLE 画面が表示されます。



4. [R1] つまみを回して、ユーザー・サンプルを選びます。

メモ

[F4] (PREVIEW) ボタンを押すと、選んでいるユーザー・サンプルを再生することができます。再生中にもう一度 [F4] (PREVIEW) ボタンを押すと、停止します。

ユーザー・サンプルの発音方法を設定する

パッドを叩いたときに、ユーザー・サンプルを 1 回だけ鳴らすか、繰り返し鳴らすかなど、発音方法を設定することができます。

1. ユーザー・サンプルー覧から、設定するユーザー・サンプルを選びます。
2. カーソル[▶]ボタンでPlay Typeにカーソルを合わせ、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Play Type	ONE SHOT MONO	パッドを叩いたとき、鳴っている音を消してから発音します。音を重ねずに発音します。
	ONE SHOT POLY	同じパッドを連打したとき、音が重なって発音します。
	LOOP ALT	ユーザー・サンプルを繰り返し鳴らします (ループ)。パッドを叩くたびに、発音と停止を交互に繰り返します。
Gain	-12 ~ +12dB	ユーザー・サンプルの音量を調節します。

メモ

発音したままのユーザー・サンプルを止める場合は、ALL SOUND OFF (P.17) で発音を止めることができます。

ユーザー・サンプルの発音範囲を設定する

ユーザー・サンプルの発音範囲を設定することができます。

1. ユーザー・サンプルー覧から、設定するユーザー・サンプルを選びます。
2. [F2] (START/END) ボタンを押します。



3. [R1] ~ [R3] つまみで、値を変更します。

つまみ	パラメーター	説明
[R1] つまみ	Zoom	波形表示をズーム・イン/アウトします。 [R1] つまみを回す、または [SHIFT] ボタンを押しながらカーソル [◀] [▶] ボタンを押すと、横軸方向でズーム・イン/アウトします。 [SHIFT] ボタンを押しながら、[R1] つまみを回すかカーソル [▲] [▼] ボタンを押すと、縦軸方向でズーム・イン/アウトします。
[R2] つまみ	Start	スタート・ポイント (ユーザー・サンプルの発音を始める位置) を調節します。
[R3] つまみ	End	エンド・ポイント (ユーザー・サンプルの発音を終える位置) を調節します。

ユーザー・サンプルを削除する

ユーザー・サンプルを削除します。

1. ユーザー・サンプルー覧から、削除するユーザー・サンプルを選びます。
2. [F3] (DELETE) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで [ENTER] ボタンを押します。

3. 「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

ユーザー・サンプルが削除されます。

ユーザー・サンプルの名前を変更する

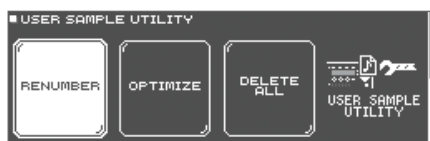
ユーザー・サンプルの名前を変更します。

1. ユーザー・サンプル一覧から、変更するユーザー・サンプルを選びます。
2. [F5] (NAME) ボタンを押します。
3. 名前を変更します (P.36)。
4. [F5] (EXIT) ボタンを押して、SAMPLE NAME 画面から抜けます。

ユーザー・サンプルを整理する

ユーザー・サンプルの番号を整理したり、ユーザー・サンプル領域を最適化したりすることができます。

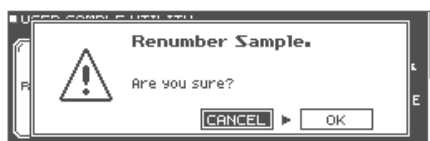
1. [SHIFT] ボタンを押しながら、[SETUP] ボタンを押します。
2. PAGE [DOWN] ボタンを押して、2 ページ (USER SAMPLE UTILITY) を表示させます。



3. [F1] (RENUMBER) ~ [F3] (DELETE ALL) ボタンを押して、機能を選びます。

確認画面が表示されます。

例) RENUMBER の場合



中止するときは、「CANCEL」を選んで [ENTER] ボタンを押します。

ボタン／説明

[F1] (RENUMBER) ボタン

ユーザー・サンプルの番号を前に詰める (RENUMBER)

ユーザー・サンプルの取り込みと削除を繰り返すと、番号がとびとびになります。

この機能を使うと、ユーザー・サンプルを前詰めに整理できます。ドラム・キットに割り当てたユーザー・サンプルも、正しく鳴るように更新されます。

※ RENUMBER を実行すると、これまでに保存したバックアップ・データやキット・バックアップ・データ (ユーザー・サンプルを含まないもの) を読み込んだとき、ドラム・キットに割り当てられたユーザー・サンプルが正しく再現されなくなります。

ボタン／説明

[F2] (OPTIMIZE) ボタン

ユーザー・サンプル領域を最適化する (OPTIMIZE)

ユーザー・サンプルの取り込みと削除を繰り返すと、ユーザー・サンプル領域が断片化し、取り込めるユーザー・サンプルが少なくなることがあります。

この機能を使うと、領域を最適化して、ユーザー・サンプルを取り込めるようにします。

注意

- 実行前に必ずバックアップをしてください (P.53)。
- この処理は、1 時間以上かかることがあります (ユーザー・サンプルの数やサイズにより変動します)。
- 処理中は、絶対に電源を切らないでください。ユーザー・サンプルが失われる恐れがあります。
- 最適化しても、効果がない場合があります。

[F3] (DELETE ALL) ボタン

すべてのユーザー・サンプルを削除する (DELETE ALL)

ユーザー・メモリー内のすべてのユーザー・サンプルを削除します。

注意

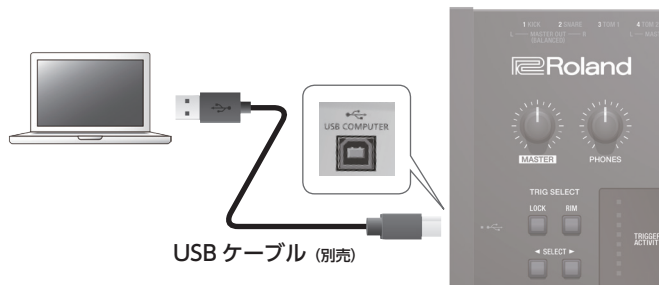
ドラム・キットで使われているユーザー・サンプルもすべて削除されます。ユーザー・サンプルを割り当てているパッドは、音が鳴らなくなります。

4. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

選んだ機能が実行されます。

パソコンに接続して使う

パソコンと接続して、DAW へ 32ch のマルチ・トラックでオーディオ録音したり、MIDI で録音したりすることができます。また、パソコンで再生したオーディオを TD-50X で鳴らすこともできます。



ご注意！

- パソコンの機種によっては、正しく動作しないことがあります。対応 OS については、ローランドのホームページをご覧ください。
- USB ケーブルは付属していません。ご購入の際には、TD-50X をお求めになった販売店にお問い合わせください。
- USB2.0 ケーブルをお使いください。
- パソコンの USB 端子は、USB2.0 Hi-Speed 対応のものをお使いください。

USB ドライバーのインストール／設定

USB ドライバーをインストールする

USB ドライバーは、パソコン上のソフトウェアと TD-50X との間でデータをやりとりするソフトウェアです。

USB オーディオとして音声を送受信するには、USB ドライバーのインストールが必要です。

メモ

- USB ドライバーをインストールする前に、TD-50X の USB ドライバーの設定を「[VENDOR]」に変更しておきます。
- USB ドライバーのダウンロードとインストール手順について詳しくは、ローランドのホームページをご覧ください。

<https://www.roland.com/jp/support/>

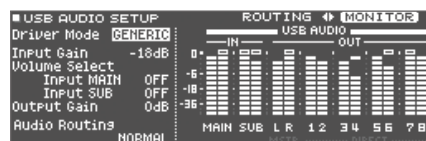
- USB ドライバーの設定に時間がかかることがあります。

USB ドライバーの設定をする

TD-50X 専用 USB ドライバーと、OS 標準のドライバーを切り替えます。

1. SETUP MENU 1 画面 (P.57) で、[F2] (USB AUDIO) ボタンを押します

USB AUDIO SETUP 画面が表示されます。



2. Driver Mode にカーソルを合わせ、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Driver Mode	GENERIC	OS 標準のドライバーを使用します。 USB MIDI のみに限定されます。
	VENDOR	ローランドが提供している TD-50X 専用のドライバーを使用します。 USB MIDI と USB オーディオが使用できます。

3. USB ケーブルを接続します。

すでにパソコンと USB ケーブルで接続している場合は、USB ケーブルをいったん抜いて、再び接続します。

USB オーディオの出力を設定する

USB COMPUTER 端子から出力される、USB オーディオの出力先を設定します。

USB オーディオの出力音を、32ch のマルチ・トラックでパソコン上の DAW などに録音することができます。

※ USB オーディオの出力では、LO CUT と ATT (OUTPUT ROUTING (P.59)) の効果はかかりません。パラメーターについて詳しくは、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

メモ

DAW 側の設定については、お使いの DAW の取扱説明書をご覧ください。

USB オーディオの出力先を設定する

USB オーディオの出力先の設定は合計 32ch から選ぶことができます。

- MASTER OUT 端子と DIRECT OUT 端子 (出力設定と共通の設定)
- 各パッドからの直接出力 (AUX 1/2/3/4 はまとめられます)
KICK、SNARE、TOM1、TOM2、TOM3、TOM4、HI-HAT、CRASH1、CRASH2、RIDE、AUX1/2/3/4

参照

出力先の設定については、「音の出力先を設定する (OUTPUT)」(P.58) をご覧ください。

USB オーディオの出力先の設定表

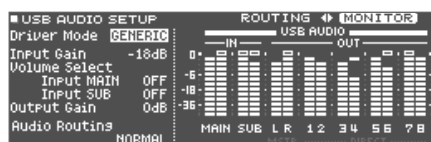
Ch1-2	MASTER	Ch9	DIRECT 7	Ch21-22	TOM4 *
Ch3	DIRECT 1	Ch10	DIRECT 8	Ch23-24	HI-HAT *
Ch4	DIRECT 2	Ch11-12	KICK *	Ch25-26	CRASH1 *
Ch5	DIRECT 3	Ch13-14	SNARE *	Ch27-28	CRASH2 *
Ch6	DIRECT 4	Ch15-16	TOM1 *	Ch29-30	RIDE *
Ch7	DIRECT 5	Ch17-18	TOM2 *	Ch31-32	AUX 1/2/3/4 *
Ch8	DIRECT 6	Ch19-20	TOM3 *		

* Windows をお使いの場合は、ASIO のみ対応しています。

USB オーディオの出力レベルを調節する

1. SETUP MENU 1 画面 (P.57) で、[F2] (USB AUDIO) ボタンを押します

USB AUDIO SETUP 画面が表示されます。



2. Output Gain にカーソルを合わせ、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Output Gain	-24 ~ +24dB	出力レベルの調節 USB COMPUTER 端子から出力される、すべての USB オーディオの出力に有効です。

USB オーディオの入力を設定する

USB COMPUTER 端子に入力される、USB オーディオの入力を設定します。

パソコンで再生したオーディオを、TD-50X で鳴らすことができます。

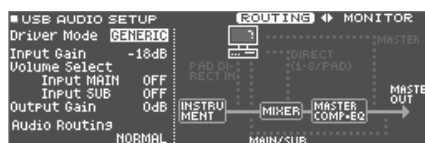
USB オーディオの入力先の設定表

Ch1-2	MAIN	Ch13-14	TOM3 *	Ch25-26	AUX1 *
Ch3-4	SUB	Ch15-16	TOM4 *	Ch27-28	AUX2 *
Ch5-6	KICK *	Ch17-18	HI-HAT *	Ch29-30	AUX3 *
Ch7-8	SNARE *	Ch19-20	CRASH1 *	Ch31-32	AUX4 *
Ch9-10	TOM1 *	Ch21-22	CRASH2 *		
Ch11-12	TOM2 *	Ch23-24	RIDE *		

* Windows をお使いの場合は、ASIO のみ対応しています。

1. SETUP MENU 1 画面 (P.57) で、[F2] (USB AUDIO) ボタンを押します

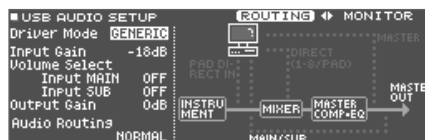
USB AUDIO SETUP 画面が表示されます。



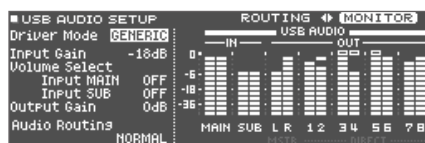
2. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Input Gain	-36 ~ +12dB	入力レベルの調節 USB COMPUTER 端子から入力される、USB オーディオ (Input MAIN、SUB) の入力に有効です。
Volume Select Input MAIN、SUB	OFF SONG CLICK	USB オーディオ (Input MAIN、SUB) の入力音量を調節するつまみを設定します。 つまみで音量を調節しません。 [SONG] つまみで音量を調節します。 [CLICK] つまみで音量を調節します。

[F3] : USB オーディオのルーティングを確認できます。



[F4] : USB AUDIO のレベルメーターを表示します。



メモ

USB オーディオの入力音のうち INPUT MAIN、INPUT SUB の出力先を設定することができます (P.58)。

USB オーディオの経路を設定する (Audio Routing)

USB オーディオの入出力の経路を設定します。

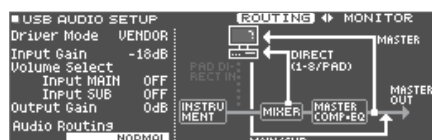
PCからTD-50Xのパッドの入力に直接音を入れたり、TD-50Xからパソコンに送る音を制限したりできます。

通常は「NORMAL」を選びます。

メモ

Driver Mode が VENDOR のときに有効になります。

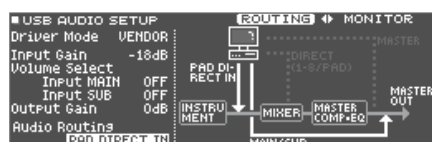
NORMAL



TD-50X → PC : MASTER OUT、DIRECT OUT 1～8、各パッドのダイレクト出力

PC → TD-50X : MAIN、SUB

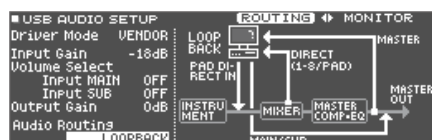
PAD DIRECT IN



TD-50X → PC : TD-50X からの USB オーディオの出力はすべてミュート（消音）されます。

PC → TD-50X : MAIN、SUB、各パッドへの直接の入力

LOOPBACK



TD-50X → PC : MASTER OUT、DIRECT OUT 1～8、各パッドのダイレクト出力

PC → TD-50X : MAIN、SUB、各パッドへの直接の入力

※「LOOPBACK」に設定する際にはダイアログが表示されます。

注意

「LOOPBACK」の場合、PC と TD-50X のそれぞれの設定によっては、USB オーディオの入力と出力が短絡され、意図せず大きな音が出る可能性がありますので十分ご注意ください。

オーディオ・ルーティング入出力対応表

	Audio Routing		
	NORMAL	PAD DIRECT IN	LOOPBACK
TD-50X → PC			
MASTER OUT	○	ミュート	○
DIRECT OUT	○	ミュート	○
各パッドのダイレクト出力	○	ミュート	○
PC → TD-50X			
INPUT MAIN/SUB	○	○	○
PAD DIRECT IN	ミュート	○	○

設定をコピーする (COPY)

TD-50X では、各種設定を本体や SD カードにコピーすることができます。また、コピー元とコピー先の設定を入れ替えることもできます。

注意

コピーを実行すると、コピーする先の内容は上書きされます。設定を残しておきたいときは、SD カードにバックアップしてください (P.53)。

1. [SHIFT] ボタンを押しながら、[SD CARD] ボタンを押します。

COPY MENU 画面が表示されます。



2. PAGE [UP] [DOWN] ボタンとファンクション・ボタンで、コピー・メニューを選びます。

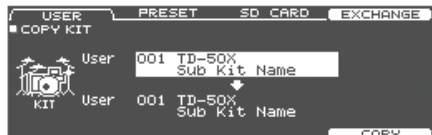
コピー・メニュー	説明
COPY MENU 1	
KIT	ドラム・キット (P.45) をコピーします。
PAD INST	パッドのインストゥルメント (P.28) をコピーします。
INST SET	複数のインストゥルメントをセットでコピーします。
SET LIST	セット・リスト (P.47) をコピーします。
COPY MENU 2	
VOLUME	MIXER VOLUME (P.32) の設定をコピーします。
PAN	MIXER PAN (P.32) の設定をコピーします。
AMBIENCE	アンビエンス (P.32) の設定をコピーします。
MFx	マルチ・エフェクト (P.33) の設定をコピーします。
COPY MENU 3	
TRIGGER	トリガー (P.49) の設定をコピーします。
REC DATA	録音データ (P.25) を SD カードにコピーします。 コピー元とコピー先の入れ替えはできません。

3. 選んだメニューに応じて、設定をコピーします。

例 1) ドラム・キットをコピーする (KIT)

1. COPY MENU 1 画面で、[F1] (KIT) ボタンを押します

COPY KIT 画面が表示されます。

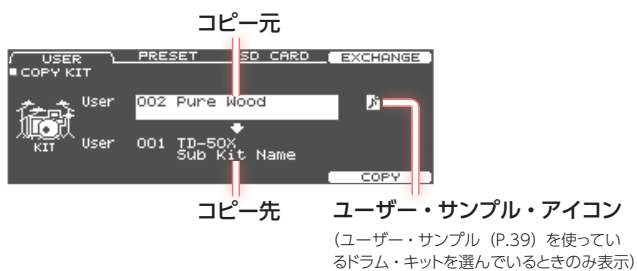


2. [F1] (USER) ～ [F3] (SD CARD) ボタンを押して、機能を選びます。

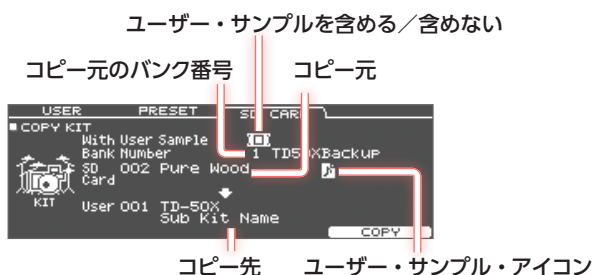
ボタン	説明
[F1] (USER) ボタン	ユーザー・メモリーからコピーします。コピー元がユーザーの場合のみ、コピー元とコピー先を入れ替える（エクスチェンジ）ことができます。
[F2] (PRESET) ボタン	プリセット・メモリーのドラム・キットをコピーします。工場出荷時のキットの設定に戻したいときに選びます。 ※ 工場出荷時のキットに割り当てられているユーザー・サンプルは、コピーできません。
[F3] (SD CARD) ボタン	SD カードに保存されたバックアップ・データからドラム・キットをコピーします。

3. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで、コピーの設定をします。

USER、PRESET



SD CARD



※ ユーザー・サンプルが含まれていないバックアップ・データをコピーする場合、「With User Sample」にチェックを入れることはできません。

4. [F5] (COPY) ボタンを押します。

[F4] (EXCHANGE) ボタンを押すと、ユーザー・メモリーを入れ替えることができます (USER のみ)。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで [ENTER] ボタンを押します。

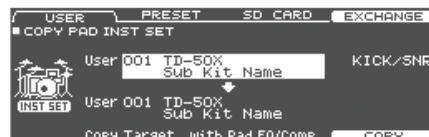
5. 「OK」を選んで、[ENTER] ボタンを押します。

ドラム・キットがコピーされます。

例 2) 複数のインストゥルメントをセットでコピーする (INST SET)

1. COPY MENU 1 画面 (P.45) で、[F3] (INST SET) ボタンを押します

COPY PAD INST SET 画面が表示されます。

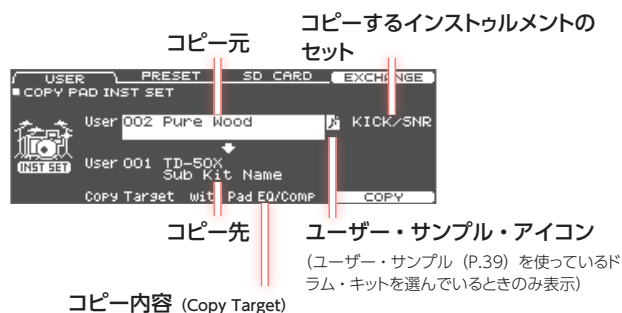


2. [F1] (USER) ～ [F3] (SD CARD) ボタンを押して、機能を選びます。

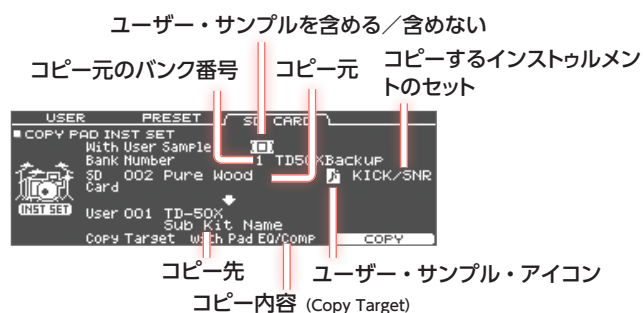
ボタン	説明
[F1] (USER) ボタン	ユーザー・メモリーからコピーします。コピー元がユーザーの場合のみ、コピー元とコピー先を入れ替える（エクスチェンジ）ことができます。
[F2] (PRESET) ボタン	プリセット・メモリーのインストゥルメントをコピーします。工場出荷時のキットの設定に戻したいときに選びます。 ※ 工場出荷時のキットに割り当てられているユーザー・サンプルは、コピーできません。
[F3] (SD CARD) ボタン	SD カードに保存されたバックアップ・データからインストゥルメントをコピーします。

3. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで、コピーの設定をします。

USER、PRESET



SD CARD



※ ユーザー・サンプルが含まれていないバックアップ・データをコピーする場合、「With User Sample」にチェックを入れることはできません。

コピーするインストゥルメントのセット

設定値	説明
KICK/SNR	KICK と SNARE をコピーします。
TOMS 1-4	TOM1 ～ 4 をコピーします。
CYM SET	HI-HAT、CRASH1、2、RIDE をコピーします。
AUX 1-4	AUX1 ～ 4 をコピーします。

コピー内容 (Copy Target)

設定値	説明
with Pad EQ/Comp	パッドに関わるすべての設定（インストゥルメント、V-EDIT、ボリューム、アンビエンスのセンド、Pad EQ/Comp など）をコピーします。
Inst/VEdit Only	パッドの設定のうち、インストゥルメントの設定（インストゥルメント、V-EDIT など）、ボリューム、アンビエンスのセンドなど、Pad EQ/Comp 以外をコピーします。
Pad EQ/Comp Only	パッドの設定のうち、パッド・イコライザー、パッド・コンプレッサーの設定 (P.33) のみをコピーします。

4. [F5] (COPY) ボタンを押します。

[F4] (EXCHANGE) ボタンを押すと、ユーザー・メモリーを入れ替えることができます (USER のみ)。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで [ENTER] ボタンを押します。

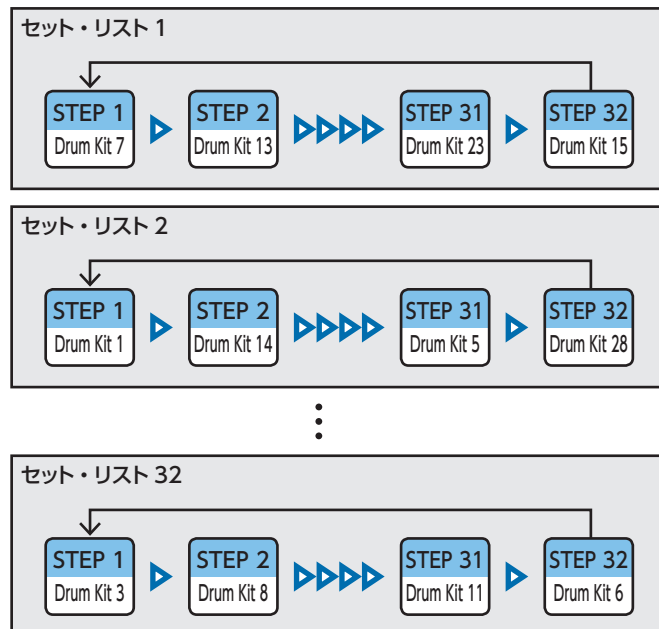
5. [OK] を選んで、[ENTER] ボタンを押します。

インストゥルメントがコピーされます。

ドラム・キットを順番に呼び出す (SET LIST)

ドラム・キットを呼び出す順序を、1 から 32 番目 (32 ステップ) まで設定できます。これを「セット・リスト」といい、セット・リストは 32 個作成できます。

ライブで使う順番に設定しておけば、次に使うドラム・キットをすぐに呼び出すことができます。



セット・リストを作る

1. [SET LIST] ボタンを押して、ボタンを点灯させます。

SET LIST 画面が表示され、セット・リストがオンになります。

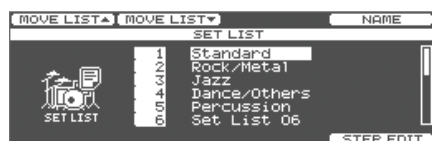


ボタン	説明
[F1] (◀ SET LIST) ボタン	セット・リストを選びます。
[F2] (SET LIST ▶) ボタン	
[F5] (SETUP) ボタン	セット・リストの作成／変更や名前を付けます。

セット・リストを入れ替える／名前を変更する

2. [F5] (SETUP) ボタンを押します。

セットアップ画面が表示されます。

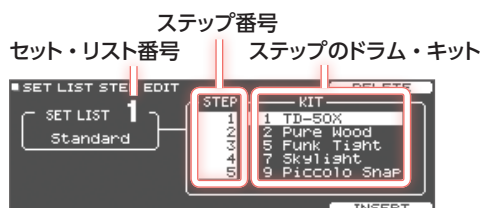


ボタン	説明
[F1] (MOVE LIST ▲) ボタン	カーソル位置のセット・リストの順番を変えます。
[F2] (MOVE LIST ▼) ボタン	
[F4] (NAME) ボタン	カーソル位置のセット・リストの名前を変更します (P.36)。
[F5] (STEP EDIT) ボタン	カーソル位置のセット・リストのステップをエディットします。

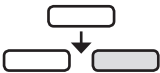
セット・リストのステップをエディットする

3. [F5] (STEP EDIT) ボタンを押します。

SETLIST STEP EDIT 画面が表示されます。



4. カーソル・ボタンで各ステップのドラム・キットを選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで設定を変更します。

ボタン	説明
[F4] (DELETE) ボタン	カーソル位置のドラム・キットを削除し、以降のステップを1つ前にずらします。 
[F5] (INSERT) ボタン	カーソル位置に同じキットを挿入し、以降のステップを1つ後ろにずらします。 

メモ

セット・リストが空の場合は、「END」にカーソルを合わせ、[-] [+] ボタンまたはダイヤルでドラム・キットを設定します。

5. [KIT] ボタンを押して、SET LIST 画面に戻ります。

セット・リストを使う

セット・リストを選ぶ

1. [SET LIST] ボタンを押して、ボタンを点灯させます。

セット・リストがオンになります。



2. [F1] (◀ SET LIST) ボタンまたは [F2] (SET LIST ▶) ボタンを押して、使用するセット・リストを選びます。

ドラム・キットを切り替える

1. [-] [+] ボタンまたはダイヤルで、設定したステップの順にドラム・キットを呼び出します。

2. 演奏が終わったら、[KIT] ボタンまたは [EXIT] ボタンを押して、[SET LIST] ボタンを消灯させます。

セット・リストがオフになります。

メモ

- フットスイッチやパッドに機能を割り当てて、セット・リストやドラム・キットを呼び出すことができます。詳しくは「フットスイッチやパッドに機能を割り当てる (CONTROL)」(P.61) をご覧ください。
- 各キットの音量にばらつきがある場合は、[MIXER] ボタンを押して、Kit Volume (キット全体の音量) を調節してください (P.32)。

トリガーの設定

パッドからの信号を TD-50X が確実に処理できるように、トリガーを設定します。

パッドの種類を設定する

トリガー・バンクで使用するパッドの種類（トリガー・タイプ）を、トリガー・インプットごとに指定します。

トリガー・タイプ

トリガー・タイプは、さまざまなトリガーのパラメーターを、各パッドに適した値に調整し、ひとまとめにしたものです。各トリガー・インプットで使っているパッドに最適な設定をするために、接続しているパッドの型番（タイプ）を指定します。

トリガー・バンク

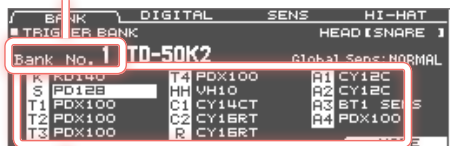
トリガー・バンクは 14 個のトリガーの設定を 1 つにまとめたものです。

1. [TRIGGER] ボタンを押します。
2. PAGE [UP] ボタンを数回押して、最上部のページを表示します。

3. [F1] (BANK) ボタンを押します。

TRIGGER BANK 画面が表示されます。

トリガー・バンク・ナンバー



トリガー・タイプ

4. 設定するパッドを選びます (P.29)。

カーソル・ボタンで選ぶこともできます。

パッド	説明
K	KICK
S	SNARE
T1~4	TOM1~4
HH	HI-HAT
C1,2	CRASH1,2
R	RIDE
A1~4	AUX1~4

メモ

トリガーバンクごとに、パッド全体の感度を調整できます (P.50)。

5. [-] [+] ボタンまたはダイヤルで、トリガー・タイプを設定します。

※ デジタル接続対応のパッドが割り当てられているトリガー・インプットは、トリガー・タイプを変更することはできません。

メモ

トリガー・タイプを設定すると、一部のパラメーター（クロストーク・キャンセルなど）を除いたトリガー・パラメーターが、最適値に設定されます。これらは参考値ですので、パッドの取り付けかたや使用状況に合わせて微調整してください。

詳しくは『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

デジタル接続対応パッドを設定する

DIGITAL TRIGGER IN 端子に初めて接続するデジタル接続対応のパッドでは、表示された画面に従い、接続したパッドをどのトリガー・インプットに割り当てるか設定します (P.12)。

ここでは、設定後に割り当て先（アサイン）を変更するときの操作について説明します。

※ TRIGGER IN 端子に接続したパッドと同じトリガー・インプットに割り当てると、TRIGGER IN 端子に接続したパッドの音は出力されません。

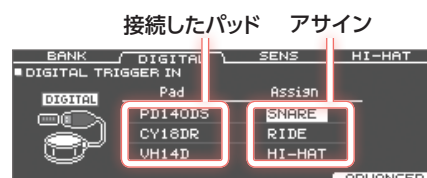
※ ファクトリー・リセットを実行すると、デジタル接続対応パッドの接続履歴や設定は初期化されます。

1. [TRIGGER] ボタンを押します。

2. PAGE [UP] ボタンを押して、1 ページ (TRIG BASIC) を表示させます。

3. [F2] (DIGITAL) ボタンを押します。

DIGITAL TRIGGER IN 画面が表示されます。



4. カーソル・ボタンで設定するパッドを選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで、アサインを設定します。

パッドを叩いて選ぶこともできます。

どのトリガー・インプットにもアサインしない場合は、「N/A」を選びます。

※ 同じアサインを複数設定することはできません。

パッドの感度を個別に調整する

次の設定は、トリガー・タイプ (P.49) を設定すると自動的に各パッドに適した値に変更されるため、通常設定する必要はありません。より細かい設定をするときや、アコースティック・ドラム・トリガーを使うときに調節します。

1. [TRIGGER] ボタンを押します。
2. PAGE [UP] ボタンを数回押して、最上部のページを表示します。
3. [F3] (SENS) ボタンを押します。
TRIGGER SENS 画面が表示されます。



ベロシティ・メーター
(叩いた強さ (ベロシティ) を表します)

表示	説明	表示	説明
K	KICK	C	CRASH1、2
S	SNARE	R	RIDE
T	TOM1 ~ 4	A	AUX1 ~ 4
H	HI-HAT		

4. 設定するパッドを選びます (P.29)。
5. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Sensitivity	1.0 ~ 32.0	パッドの感度を調節し、叩く強さと音量のバランスを調節します。 値を大きくすると感度が高くなり、パッドを弱く叩いても大きな音量で鳴ります。値を小さくすると感度が低くなり、パッドを強く叩いても小さな音量で鳴ります。
Rim Gain	0 ~ 3.2	リムやエッジを叩く強さと音の大きさのバランスを調節します。 値を大きくすると、リムを弱く叩いても大きな音量で鳴ります。値を小さくすると、リムを強く叩いても小さな音量で鳴ります。 リム・ショット奏法に対応したパッドで有効です。

パラメーター	設定値	説明
Global Sens	LOW、NORMAL、HIGH	ドラム・キットのすべてのパッドの感度をまとめて調整します。弱打から強打までのダイナミクスをより重視したい場合は LOW を、軽い力で演奏したい場合は HIGH を設定します。 この設定はトリガー・バンクごとに有効です。

メモ

- 初期値に戻すときは、[F5] (DEFAULT) ボタンを押します。一部のパラメーター (クロストーク・キャンセルなど) を除いたトリガー・パラメーターが、初期値に設定されます。
詳しくは『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。
- ベロシティは、TRIGGER IN 端子に接続したパッドは最大 127、DIGITAL TRIGGER IN 端子に接続した HI-Reso Velocity に対応したデジタル接続対応のパッドは、最大 127+32 (MIDI CONTROL の HI-Reso Velocity が「ON」のとき) と表示されます。詳しくは『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

ハイハットの設定をする

V ハイハットを使うときは、TD-50X でオフセットの調整をしてください。

オープン、クローズやペダルの動きを正しく検出するために必要です。

参照

- オフセットの調整方法について、詳しくは「ハイハットの設定をする」(P.13) をご覧ください。
- 必要に応じて、パラメーターを微調整します。詳しくは『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

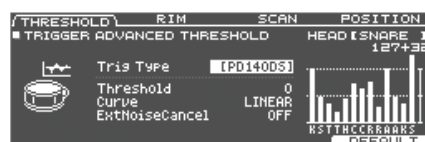
トリガーを細かく設定する

次の設定は、トリガー・タイプ (P.49) を設定すると自動的に各パッドに適した値に変更されるため、通常設定する必要はありません。パッドの感度の詳細設定、信号の検出、打点位置の検出など、より細かい調節をするときにだけ、設定してください。

参照

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

1. [TRIGGER] ボタンを押します。
2. PAGE [UP] [DOWN] ボタンを押して、2 ページ (TRIG ADVANCED) を表示させます。
トリガー・アドバンスド画面が表示されます。



3. [F1] (THRESHOLD) ～ [F4] (POSITION) ボタンを押して、設定する項目を選びます。

ボタン	説明
[F1] (THRESHOLD) ボタン	パッドの感度の詳細設定をします。
[F2] (RIM) ボタン	リム・ショットの詳細設定をします。
[F3] (SCAN) ボタン	トリガー信号の検出の詳細設定をします。
[F4] (POSITION) ボタン	打点位置検出の詳細設定をします。

4. 設定するパッドを選びます (P.29)。

5. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

メモ

初期値に戻すときは、[F5] (DEFAULT) ボタンを押します。
一部のパラメーター (クロストーク・キャンセルなど) を除いたトリガー・パラメーターが、初期値に設定されます。
詳しくは『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

デジタル接続対応パッドを細かく設定する

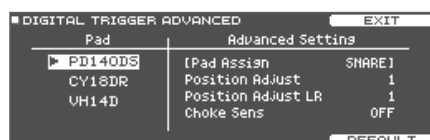
次の設定は、デジタル接続対応パッドの初回接続時に、自動的に各パッドに適した値に設定されるため、通常設定する必要はありません。より細かい調節をするときにだけ、設定してください。

参照

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

1. DIGITAL TRIGGER IN 画面 (P.49) で、[F5] (ADVANCED) ボタンを押します。

DIGITAL TRIGGER ADVANCED 画面が表示されます。



2. パッドを叩くかカーソル・ボタンを押して、設定するパッドを選びます。

3. カーソル [▶] ボタンを押して、Advanced Setting のパラメーターにカーソルを合わせます。

4. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

※ パッドによって、設定できるパラメーターが異なります。

メモ

初期値に戻すときは、[F5] (DEFAULT) ボタンを押します。
一部のパラメーター (クロストーク・キャンセルなど) を除いたトリガー・パラメーターが、初期値に設定されます。
詳しくは『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

各パッドのトリガー情報を見る

各パッドの叩く強さ(ペロシティー)や、ハイハットの開き具合、スネア、ライド・シンバル、タム、AUX の打点位置をリアルタイムに表示することができます。

メモ

MIDI IN 端子から受信した演奏情報も表示されます。

1. [TRIGGER] ボタンを押します。

2. PAGE [DOWN] ボタンを押して、3 ページ (TRIG MONITOR) を表示させます。

3. [F1] (TRIG) ボタンを押します。

TRIGGER MONITOR 画面が表示されます。



ペロシティー・メーター
(叩いた強さ (ペロシ
ティー) を表します)

表示	説明	表示	説明
K	KICK	C	CRASH1、2
S	SNARE	R	RIDE
1 ~ 4	TOM1 ~ 4	A	AUX1 ~ 4
H	HI-HAT		

4. パッドを叩きます。

画面のメーター表示がリアルタイムに変化し、以下の情報を確認することができます。

表示	説明
HI-HAT	ハイハットの開き具合を表示します。「OPEN」に近いほど大きく開いた状態、「PRESS」に近いほど閉じた状態です。
POSITION	パッドが打点位置検出に対応している場合、パッドの打点位置を表示します。 また VH-14D を接続したときには、シンバルの左右の打点位置が表示されます。「LEFT」に近いほどパッドの左に近い位置、「RIGHT」に近いほどパッドの右に近い位置を叩いていることを表します。
CHOKE	シンバルがチョークされているときに、「CHOKE」アイコンが表示されます。 チョークに対応しているパッドで、チョーク奏法をすると、CHOKE アイコンが表示されます。

他のパッドの振動による誤発音を防ぐ (クロストーク・キャンセル)

同じスタンドに2つのパッドを取り付けている場合に、一方のパッドを叩いたときの振動で、もう一方のパッドの音が発音してしまうことがあります。この現象を「クロストーク」といいます。クロストーク・キャンセルは、このようなクロストークを防ぐための設定です。

※ 工場出荷時の設定では、別売りのドラム・スタンド(MDSシリーズ、DCSシリーズ、DBSシリーズ)を使った場合に最適な設定がされているため、通常は設定を変更する必要はありません。以下の場合には、クロストーク・キャンセルの設定をする必要があります。

- トリガー・バンク (P.49) の設定にないパッド構成で使用する場合
- 別売りのドラム・スタンド (MDS シリーズ、DCS シリーズ、DBS シリーズ) 以外のドラム・スタンドを使用する場合
- ドラム・トリガー (別売) を使用する場合

※ アコースティック・ドラムの生音やモニター・スピーカーからの音の影響で、パッドが発音してしまうことがあります。この場合、クロストーク・キャンセルを設定しても解決できません。以下に注意してセッティングしてください。

- パッドをスピーカーから離して設置する
- パッドに角度をつけて、音の影響を受けにくい場所にセッティングする
- パッドの Threshold の値を大きくする
→ 『データ・リスト』 (PDF)

パッドのセッティングのポイント

外部からの振動が伝わりにくくなるようにパッドをセッティングすることで、クロストークを最小限に防ぐことができます。クロストーク・キャンセルの設定をする前に、以下に注意してセッティングしてください。

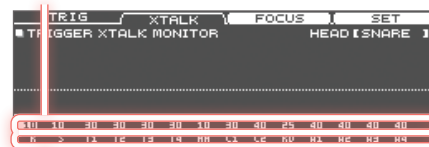
- パッド同士がぶつからないようにセッティングしてください。
- 複数のパッドを同じスタンドに取り付ける場合、距離を離してセッティングしてください。
- パッドの取り付けノブをしっかりと締め付けて、スタンドに取り付けてください。

例) タム 1 のパッドを叩いたときに、クラッシュ 1 の音が鳴ってしまう

1. [TRIGGER] ボタンを押します。
2. PAGE [DOWN] ボタンを押して、3 ページ (TRIG MONITOR) を表示させます。
3. [F2] (XTALK) ボタンを押します。

TRIGGER XTALK MONITOR 画面が表示されます。

クロストーク・キャンセルの値



パッド

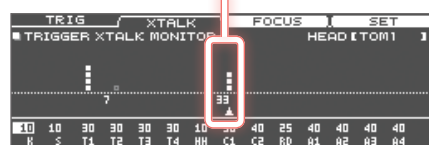
4. タム 1 (T1) のパッドを叩きます。

TRIGGER XTALK MONITOR 画面に、クロストークの検出状況が表示されます。

下の図では、タム 1 (T1) を叩いたときに、タム 2 (T2) とクラッシュ 1 (C1) が振動を検出したことを示しています。

クロストークしているパッドには、「▲」が表示されます。

クロストークしている



振動を検出したパッド	説明
タム 2 (T2)	クロストーク・キャンセルが効いているため、発音しません。
クラッシュ 1 (C1)	クロストークしています。 クロストーク・キャンセルの値を調整することで、発音しないようにすることができます。

5. [F3] (FOCUS) ボタンを押して、C1 にカーソルを合わせます。



複数のパッドがクロストークしている場合は、[F3] (FOCUS) ボタンを押すたびに、クロストークしている別のパッドにカーソルが移動します。

6. [F4] (SET) ボタンを押します。

この例では、クラッシュ 1 の発音をキャンセルできる最小値「33」が自動設定されます。

設定値	説明
0 ~ 80	クロストーク・キャンセル処理の強さ

※ クロストーク・キャンセルを自動設定する場合、40 以上の値にはなりません。40 以上に設定する必要があるときは、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで値を変更してください。

7. 手順 5、6 を繰り返して、クロストーク・キャンセルの設定をします。

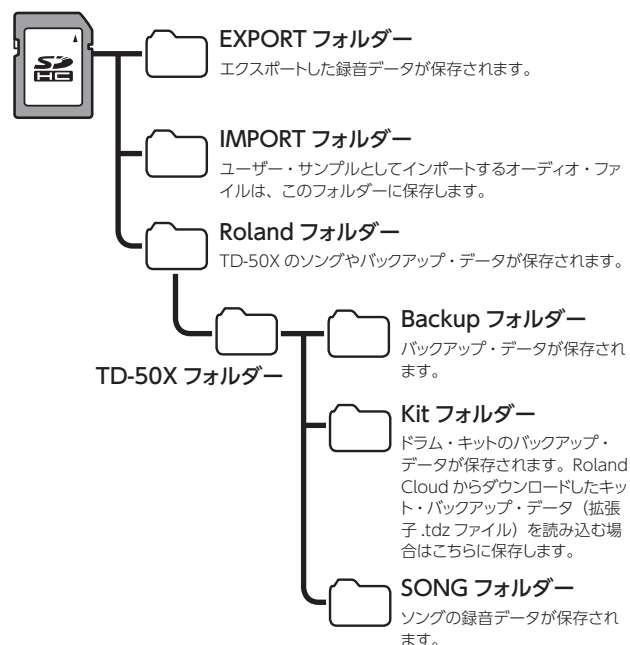
メモ

カーソル [◀] [▶] ボタン / [-] [+] ボタン / ダイヤルを使って、手動でクロストーク・キャンセルの値を設定することもできます。

データをバックアップする

TD-50X に記憶されているすべての設定を、SD カードに保存（バックアップ）したり、TD-50X に書き戻したり（ロード）することができます。

SD カードのフォルダー構成

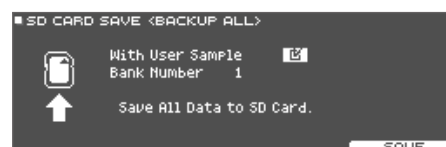


SD カードにバックアップする

TD-50X に記憶されているすべての設定を保存します（最大 99 セット）。

1. SD カードを TD-50X に挿入します（P.10）。
2. [SD CARD] ボタンを押します。
3. PAGE [UP] ボタンを数回押して、SD CARD BACKUP ALL 画面を表示させます。
4. [F1] (SAVE) ボタンを押します。

SD CARD SAVE <BACKUP ALL> 画面が表示されます。



5. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルでバックアップを設定します。

パラメーター	説明
With User Sample	ユーザー・サンプルをバックアップするか選びます。
Bank Number	バックアップ番号を選びます。

※ ユーザー・サンプルもバックアップする場合、ユーザー・サンプルのサイズによっては、保存に数分かかることがあります。また、ユーザー・サンプルをバックアップしない場合、ユーザー・サンプルを削除したり、リナンバーしたりすると、バックアップを読み込んで、キットは正しく再現されません。

6. [F5] (SAVE) ボタンを押します。

メモ

バックアップ・データに名前を付けたいときは、[F4] (NAME) ボタンを押して、名前を付けます (P.36)。

7. [F5] (EXECUTE) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

8. 「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD カードに設定が保存されます。

バックアップ・データを SD カードから読み込む

SD カードに保存したバックアップ・データを TD-50X に読み込みます (ロード)。

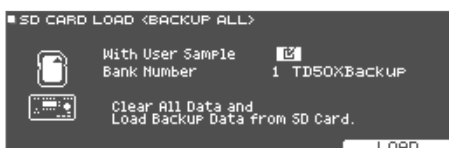
1. SD カードを TD-50X に挿入します (P.10)。

2. [SD CARD] ボタンを押します。

3. PAGE [UP] ボタンを数回押して、SD CARD BACKUP ALL 画面を表示させます。

4. [F2] (LOAD) ボタンを押します。

SD CARD LOAD <BACKUP ALL> 画面が表示されます。



5. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルでロードを設定します。

パラメーター	説明
With User Sample	ユーザー・サンプルをロードするか選びます。
Bank Number	バックアップ番号を選びます。

※ ユーザー・サンプルを読み込むと、本体内のユーザー・サンプルはすべて消去されます。また、ユーザー・サンプルのサイズによっては、読み込みに 10 分以上かかることがあります。

※ ユーザー・サンプルが含まれていないバックアップ・データをロードする場合、「With User Sample」にチェックを入れることはできません。

6. [F5] (LOAD) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

7. 「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD カードからバックアップ・データが読み込まれます。

SD カードにドラム・キットをバックアップする (1 KIT SAVE)

TD-50X に記憶されているドラム・キット単体の設定を、SD カードにバックアップします (最大 999 個)。

1. SD カードを TD-50X に挿入します (P.10)。

2. [SD CARD] ボタンを押します。

3. PAGE [UP] [DOWN] ボタンを押して、2 ページ (SD CARD BACKUP 1KIT) を表示させます。

4. [F1] (1KIT SAVE) ボタンを押します。

SD CARD SAVE <1KIT> 画面が表示されます。



ユーザー・サンプル・アイコン

(ユーザー・サンプル (P.39) を使っているドラム・キットを選んでいるときのみ表示)

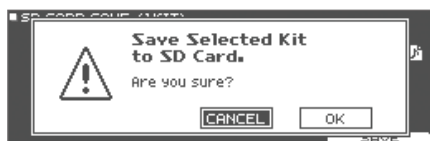
5. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルでバックアップを設定します。

パラメーター	説明
With User Sample	ドラム・キットに割り当てられているユーザー・サンプルも一緒にバックアップするか選びます。
User	バックアップするドラム・キットを選びます。
SD Card	バックアップ番号を選びます。

※ ユーザー・サンプルもバックアップする場合、ユーザー・サンプルのサイズによっては、保存に数分かかることがあります。また、ユーザー・サンプルをバックアップしない場合、バックアップ後に本体のユーザー・サンプルを削除したり、リナンバーしたりすると、キット・バックアップ・データを読み込んで、ドラム・キットは正しく再現されません。

6. [F5] (SAVE) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで [ENTER] ボタンを押します。

7. [OK] を選んで、[ENTER] ボタンを押します。

SD カードにキット・バックアップ・データが保存されます。

キット・バックアップ・データを SD カードから読み込む (1 KIT LOAD)

SD カードに保存したキット・バックアップ・データや、Roland Cloud からダウンロードしたキット・バックアップ・データを TD-50X にロードします。

1. SD カードを TD-50X に挿入します (P.10)。

2. [SD CARD] ボタンを押します。

3. PAGE [UP] [DOWN] ボタンを押して、2 ページ (SD CARD BACKUP 1KIT) を表示させます。

4. [F2] (1KIT LOAD) ボタンを押します。

SD CARD LOAD <1KIT> 画面が表示されます。



ユーザー・サンプル・アイコン

(ユーザー・サンプル (P.39) を使っているドラム・キットを選んでいるときのみ表示)

5. ロードするデータの種類を選びます。

本体で保存したキット・バックアップ・データをロードする場合は、[F4] (TDZ) ボタンを消灯させます。

Roland Cloud からダウンロードしたキット・バックアップ・データをロードする場合は、[F4] (TDZ) ボタンを点灯させます。

6. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルでロードを設定します。

パラメーター	説明
With User Sample	ドラム・キットと一緒に保存されているユーザー・サンプルをロードするか選びます。
SD Card	ロードするバックアップ番号を選びます。
User	ロード先のドラム・キットを選びます。

※ ユーザー・サンプルをロードすると、すでに同じユーザー・サンプルが存在していても、新しくユーザー・サンプルが作成されます。また、ロードしたドラム・キットには、新しく作成されたユーザー・サンプルが自動的に割り当てられます。

※ ユーザー・サンプルをロードするには、ユーザー・サンプルの空き容量が必要です。

※ ユーザー・サンプルが含まれていないキット・バックアップ・データをロードする場合、「With User Sample」にチェックを入れることはできません。

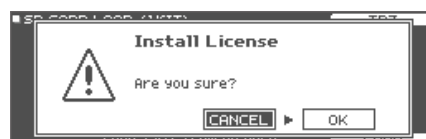
7. [F5] (LOAD) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは、「CANCEL」を選んで [ENTER] ボタンを押します。

※ Roland Cloud からダウンロードしたキット・バックアップ・データを初めてロードする場合、キット・バックアップ・データに付与されたライセンス情報を本機に保存します。本機にライセンス情報が保存されていない場合、確認画面が表示されます。



中断するときは、「CANCEL」を選んで [ENTER] ボタンを押します。

※ Roland Cloud からダウンロードしたキット・バックアップ・データに付与されたライセンス情報と異なるライセンス情報が本機に保存されている場合、そのキット・バックアップ・データはロードできません。本機に保存されているライセンス情報を削除してから、ロードし直してください (P.63)。



8. [OK] を選んで、[ENTER] ボタンを押します。

SD カードからバックアップ・データが読み込まれます。

バックアップ・データを SD カードから削除する (DELETE / 1 KIT DELETE)

不要なバックアップ・データ (ユーザー・サンプルを含む) を SD カードから削除します。

1. SD カードを TD-50X に挿入します (P.10)。

2. [SD CARD] ボタンを押します。

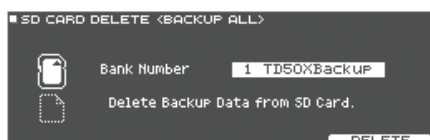
3. PAGE [UP] [DOWN] ボタンとファンクション・ボタンで、バックアップ・メニューを選びます。

バックアップ・メニュー	説明
DELETE (1 ページ (SD CARD BACKUP ALL))	バックアップ・データを削除します。

バックアップ・メニュー	説明
1 KIT DELETE (2 ページ (SD CARD BACKUP 1KIT))	キット・バックアップ・データを削除します。

SD CARD DELETE 画面が表示されます。

例) DELETE のとき



4. 削除の設定をします。

パラメーター	説明
Bank Number (DELETE のとき)	削除するバックアップ番号を選びます。
SD Card (1 KIT DELETE のとき)	削除するキット・バックアップ番号を選びます。

5. [F5] (DELETE) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

例) DELETE のとき



中止するときは、「CANCEL」を選んで [ENTER] ボタンを押します。

6. [OK] を選んで、[ENTER] ボタンを押します。

SD カードからバックアップ・データが削除されます。

接続した SD カードをパソコンで管理する

ストレージ・モードでパソコンと USB 接続することで、TD-50X に接続した SD カードの内容をパソコンで管理できます。

1. パソコンと TD-50X が USB ケーブルで接続されていないことを確認します。

接続されている場合は TD-50X を使用しているソフトを終了し、パソコンで安全な取りはずし操作をしてから USB ケーブルを取りはずします。

2. SD カードを TD-50X に挿入します (P.10)。

3. [SD CARD] ボタンを押します。

4. PAGE [DOWN] ボタンを押して、3 ページ (SD CARD UTILIT) を表示させます。

5. [F1] (STORAGE) ボタンを押します。

6. [F5] (START) ボタンを押します。

ストレージ・モードになります。

7. USB ケーブルを接続して、パソコンと接続します。

8. 終了するときには、パソコンで安全な取りはずし操作をしてから USB ケーブルを取りはずします。

SD カードの使用状況を確認する (INFO)

SD カードに保存されている設定の数などを確認することができます。

1. SD カードを TD-50X に挿入します (P.10)。

2. [SD CARD] ボタンを押します。

3. PAGE [DOWN] ボタンを押して、3 ページ (SD CARD UTILITY) を表示させます。

4. [F2] (INFO) ボタンを押します。

SD CARD INFO 画面が表示されます。

SD CARD INFO	
	Used / Total
Backup All	1 / 33
1 Kit	3 / 333
Rec Data	2 / 33

パラメーター	説明
Backup All	保存されているバックアップ・データの数
1 Kit	保存されているキット・バックアップ・データの数
Rec Data	保存されている録音データの数

5. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

SD カードを初期化する (FORMAT)

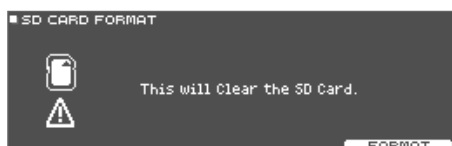
SD カードを初期化 (フォーマット) します。

※ 初めて TD-50X で SD カードを使うときは、SD カードをフォーマットしてください。

注意

SD カードを初期化すると、SD カード内のデータはすべて消去されます。大切なデータが SD カードに保存されている場合は、初期化する前にパソコンにバックアップしてください。

1. SD カードを TD-50X に挿入します (P.10)。
2. [SD CARD] ボタンを押します。
3. PAGE [DOWN] ボタンを数回押して、SD CARD UTILITY 画面を表示させます。
4. [F4] (FORMAT) ボタンを押します。
SD CARD FORMAT 画面が表示されます。



5. [F5] (FORMAT) ボタンを押します。
確認画面が表示されます。



中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

6. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
SD カードが初期化されます。

注意

初期化中は、絶対に電源を切ったり、SD カードを抜いたりしないでください。

TD-50X 全体の設定をする (SETUP)

TD-50X の出力先の設定や、フットスイッチの設定など、TD-50X 全体で共通の設定を「セットアップ」といいます。

1. [SETUP] ボタンを押します。

SETUP MENU 画面が表示されます。



2. PAGE [UP] [DOWN] ボタンとファンクション・ボタンで、設定したいセットアップ・メニューを選びます。

メニュー	説明
SETUP MENU 1	
OUTPUT	音の出力先を設定します (P.58)。
USB AUDIO	USB オーディオを設定します (P.43)。
OPTION	プレビュー・ボタン、MIX IN 端子、ディスプレイなどを設定します (P.60)。
CONTROL	フットスイッチやパッドに機能を割り当てます (P.61)。
SETUP MENU 2	
MIDI	MIDI を設定します (P.61)。
AUTO OFF	AUTO OFF の設定をします (P.13)。
INFO	本体メモリーの残量やプログラムのバージョンを確認します (P.62)。
SETUP MENU 3	
FACTORY RESET	工場出荷時の設定に戻します (P.62)。

3. 選んだメニューに応じて、設定を変更します。

音の出力先を設定する (OUTPUT)

MASTER OUT 端子、DIRECT OUT 端子、PHONES 端子からの出力を設定します。

メモ

USB オーディオ (P.43) のうち MASTER と DIRECT 1 ~ 8 は、MASTER OUT 端子と DIRECT OUT 端子からの出力設定と共通の設定になります。

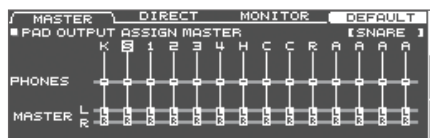
1. SETUP MENU 1 画面で、[F1] (OUTPUT) ボタンを押します。

2. PAGE [UP] [DOWN] ボタンとファンクション・ボタンで、設定したい機能を選びます。

1 ページ (PAD OUTPUT)

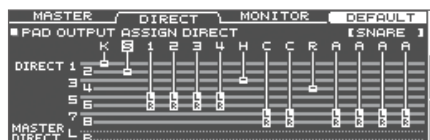
[F1] (MASTER) ボタン

各パッドの PHONES 端子、MASTER OUT 端子 (OUTPUT ROUTING の Master Out が「NORMAL」のとき) からの出力を設定します。



[F2] (DIRECT) ボタン

各パッドの DIRECT OUT 1 ~ 8 端子、MASTER OUT 端子 (OUTPUT ROUTING の Master Out が「DIRECT」のとき) からの出力を設定します。



[F3] (MONITOR) ボタン

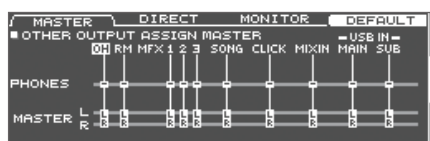
各端子の出力の音量を確認することができます。



2 ページ (OTHER OUTPUT)

[F1] (MASTER) ボタン

アンビエンス、MFX などの、PHONES 端子、MASTER OUT 端子 (OUTPUT ROUTING の Master Out が「NORMAL」のとき) からの出力を設定します。



[F2] (DIRECT) ボタン

アンビエンス、MFX などの、DIRECT OUT 1 ~ 8 端子、MASTER OUT 端子 (OUTPUT ROUTING の Master Out が「DIRECT」のとき) からの出力を設定します。



[F3] (MONITOR) ボタン

各端子の出力の音量を確認することができます。



※ OUTPUT ROUTING の Master Out パラメーターについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

3. パッドを叩くかカーソル [◀] [▶] ボタンを押して、設定するパッドまたは機能を選びます。

表示	説明	表示	説明
K	KICK	C	CRASH1、2
S	SNARE	R	RIDE
1 ~ 4	TOM1 ~ 4	A	AUX1 ~ 4
H	HI-HAT		

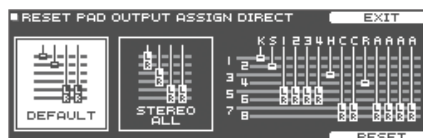
表示	説明
OH	オーバーヘッド
RM	ルーム
MFX1 ~ 3	マルチ・エフェクト 1 ~ 3 (P.33)
SONG	ソング (P.18)
CLICK	クリック (P.17) と、ソングのクリック・トラック (P.21) の出力
MIXIN	MIX IN 端子に入力された音 (P.18)
USB IN MAIN、SUB	USB COMPUTER 端子に入力された音 (P.44)

4. カーソル [▲] [▼] ボタン / [–] [+] ボタン / ダイヤルで、出力先を選びます。

メモ

初期値に戻すときは、[F4] (DEFAULT) ボタンを押します。また、1 ページ (PAD OUTPUT) で [F2] (DIRECT) ボタンを選んでいときに [F4] (DEFAULT) ボタンを押すと、初期値 (工場出荷状態) のほかに、もう 1 つの出力設定 (STEREO ALL) を選ぶことができます。

初期値 (工場出荷状態) に戻す場合は「DEFAULT」を、もう 1 つの出力設定を選ぶ場合は「STEREO ALL」をカーソル・ボタンで選び、[F5] (RESET) ボタンを押してください。



5. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

出力先の設定例

出力先の設定例を紹介します。

メモ

MASTER OUT 端子 (XLR タイプ)、DIRECT OUT 端子 (TRS 標準タイプ) はバランス型です。MASTER OUT 端子 (TRS 標準タイプ) はアンバランス型です (P.11)。

例 1) 初期設定

PHONES 端子と MASTER OUT 端子からは、モニター用にすべての音が出力されます。

PA には、各パッドが DIRECT OUT 1 ～ 8 端子に振り分けられて出力されます。

端子	出力の設定	接続先例
PHONES	すべて	モニター・ヘッドホン
MASTER OUT	すべて	ドラム用モニター
DIRECT OUT 1	KICK	
DIRECT OUT 2	SNARE	
DIRECT OUT 3	HI-HAT	
DIRECT OUT 4	RIDE	
DIRECT OUT 5/6	TOM 1 ～ 4 (ステレオ)	PA (外部ミキサー)
DIRECT OUT 7/8	CRASH 1、2、AUX1 ～ 4 (ステレオ)	

例 2) モニターと PA を同じ出力にする

PHONES 端子、MASTER OUT 端子、DIRECT OUT 7/8 端子から同じ音が出力されます。

演奏者がモニターしている音と、PA の音が同じ音になります。

※ DIRECT OUT 側には、マスター・コンプとマスター EQ の効果はかかりません。

端子	出力の設定	接続先例
PHONES	すべて	モニター・ヘッドホン
MASTER OUT	すべて	ドラム用モニター
DIRECT OUT 1	—	—
DIRECT OUT 2	—	—
DIRECT OUT 3	—	—
DIRECT OUT 4	—	—
DIRECT OUT 5/6	—	—
DIRECT OUT 7/8	すべて	PA (外部ミキサー)

例 3) ガイドを聴きながら演奏する

PHONES 端子からは、モニター用にすべての音が出力されます。

CLICK (クリックとソングのクリック・トラックの出力)、USB IN SUB (USB COMPUTER 端子に入力された音) などをヘッドホンだけに出力することで、演奏者のみガイド音を聴きながら演奏することができます。

端子	出力の設定	接続先例
PHONES	すべて CLICK、USB IN SUB は PHONES の み出力	モニター・ヘッドホン
MASTER OUT	SONG、USB IN MAIN の み出力	
DIRECT OUT 1	KICK	
DIRECT OUT 2	SNARE	
DIRECT OUT 3	HI-HAT	PA (外部ミキサー)
DIRECT OUT 4	RIDE	
DIRECT OUT 5/6	TOM 1 ～ 4 (ステレオ)	
DIRECT OUT 7/8	CRASH 1、2、 AUX1 ～ 4 (ステレオ)	

出力の経路 (ルーティング) の詳細を設定する

MASTER OUT 端子、DIRECT OUT 端子、PHONES 端子へ出力する経路の詳細を設定します。

参照

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

1. SETUP MENU 1 画面 (P.57) で、[F1] (OUTPUT) ボタンを押します。

2. PAGE [DOWN] ボタンを押して、3 ページ (OUTPUT ROUTING) を表示させます。

ルーティング画面が表示されます。



3. [F1] (ROUTING) ～ [F3] (ATT) ボタンを押して、設定する項目を選びます。

ボタン	説明
[F1] (ROUTING) ボタン	フェーダー、パッド・イコライザー／コンプレッサー、マスター・アウトの出力などの、かきかたやルーティングを変更します。
[F2] (LO CUT) ボタン	低域の周波数をカットして出力するかを設定します。 周波数は各出力で同じ設定になります。

ボタン	説明
[F3] (ATT) ボタン	DIRECT OUT 端子からの出力にアッテネーターをかけるかを設定します。 ROUTING タブの Master Out が「DIRECT」のときは、MASTER OUT 端子にも有効です。Master Out パラメーターについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

メモ

- 初期値に戻すときは、[F4] (DEFAULT) ボタンを押します。
- LO CUTとATTの設定は、USB オーディオの出力には無効です。

4. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

ルーティング・パラメーターの設定例

パラメーター	説明
Fader to Direct	「OFF」に設定したとき - DIRECT OUT 端子の出力は、パネルのフェーダーが無効になります。MASTER OUT 端子の出力は、OUTPUT ROUTING の Master Out を「DIRECT」に設定すると、パネルのフェーダーが無効になります。PHONES 端子の出力は、Fader to Direct の設定に関わらず、常にパネルのフェーダーが有効になります。 - PA で調整する音のバランスとは別に、演奏者がモニターする音のバランスを手元のフェーダーで調整することができます。
PadEq/Comp to Direct	「OFF」に設定したとき - DIRECT OUT 端子の出力は、パッド・イコライザーとパッド・コンプレッサーがバイパスされます。MASTER OUT 端子の出力は、OUTPUT ROUTING の Master Out を「DIRECT」に設定すると、パッド・イコライザーとパッド・コンプレッサーがバイパスされます。 - 各パッドのイコライザーとコンプレッサーを PA で調整しつつ、演奏者は各ドラム・キットのパッド・イコライザーとパッド・コンプレッサーの効果をかけた音で演奏できます。
PadComp to Phones	「OFF」に設定したとき - PHONES 端子の出力は、パッド・コンプレッサーが無効になります。 - 出力先の設定例 2 (P.59) などでは、ドラム用モニターや PA にパッド・コンプレッサーでダイナミクスを抑えた音作りをしつつ、モニター・ヘッドホンではダイナミクスを生かした音を聞きながら演奏できます。

パラメーター	説明
Master Out	「DIRECT」に設定したとき - MASTER OUT 端子の出力は、マスター・コンプとマスター EQ の効果が無効になり、MASTER OUT 端子を DIRECT OUT 端子のように使うことができます ([MASTER] つまみの設定は有効です)。この設定は USB オーディオのパソコンへの出力にも有効です。 - PHONES 端子からは、マスター・コンプとマスター EQ 込みの音が出力されます。 - MATER OUT 端子の出力をダイレクト・アウトとして出力するには、PAD OUTPUT 画面 (DIRECT タブ) や OTHER OUTPUT 画面 (DIRECT タブ) で、MASTER DIRECT に出力する設定にしてください。

参照

その他の設定については、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

その他の設定 (OPTION)

[PREVIEW] ボタン、MIX IN 端子、ディスプレイなどを設定します。

参照

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

1. SETUP MENU 1 画面 (P.57) で、[F3] (OPTION) ボタンを押します。

オプションの設定画面が表示されます。



2. [F1] (PREVIEW) ~ [F4] (CUSTOMIZE) ボタンを押して、設定する項目を選びます。

ボタン	説明
[F1] (PREVIEW) ボタン	[PREVIEW] ボタンを押したときの音の鳴りかたを設定します。
[F2] (MIX IN) ボタン	MIX IN 端子を設定します。
[F3] (LCD) ボタン	ディスプレイのコントラストを調節します。
[F4] (CUSTOMIZE) ボタン	ページを切り替えたときに一時的に表示されるガイドの表示／非表示を切り替えたり、INSTRUMENT 画面で表示されるパラメーターの順番を変更したりします。

3. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

4. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

フットスイッチやパッドに機能を割り当てる (CONTROL)

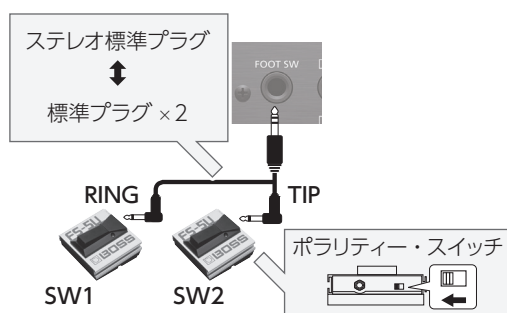
TD-50X に接続したフットスイッチ (別売:BOSS FS-5U、FS-6) やパッドに、ドラム・キットの切り替えやセット・リストの切り替えなどの機能を割り当てることができます。

参照

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

フットスイッチに機能を割り当てる

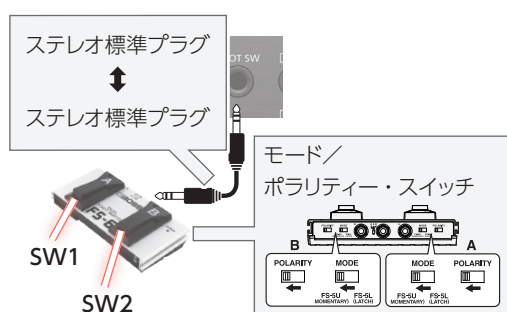
FS-5U を接続する場合



※ モノ・ケーブルで 1 台の FS-5U を接続する場合は、SW2 になります。

※ FS-5L は使用できません。

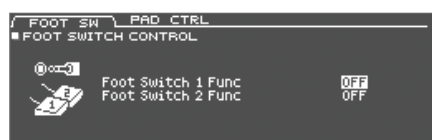
FS-6 を接続する場合



1. SETUP MENU 1 画面 (P.57) で、[F4] (CONTROL) ボタンを押します。

2. [F1] (FOOT SW) ボタンを押します。

FOOT SWITCH CONTROL 画面が表示されます。



3. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

メモ

フットスイッチを使ってセット・リスト (P.47) のドラム・キットを切り替えるときは、フットスイッチの機能を [KIT# DEC] または [KIT# INC] にし、[SET LIST] ボタンを押して点灯させます (あらかじめ、セット・リストの設定をしておきます)。

4. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

パッドに機能を割り当てる

TRIGGER IN 端子 13/AUX3 と 14/AUX4 に接続したパッド、または AUX3/4 にアサインしたデジタル接続対応のパッドに、機能を割り当てるすることができます。

1. SETUP MENU 1 画面 (P.57) で、[F4] (CONTROL) ボタンを押します。

2. [F2] (PAD CTRL) ボタンを押します。

PAD SWITCH CONTROL 画面が表示されます。



3. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

メモ

- パッドを叩いても音が鳴らないようにするには、MIXER VOLUME (P.32) で、AUX3 と AUX4 の音量を [0] にしてください。または、[INSTRUMENT] ボタンを押して、AUX3 と AUX4 のインストに [OFF] を選んでください (P.28)。
- パッドを使ってセット・リスト (P.47) のドラム・キットを切り替えるときは、パッドの機能を [KIT# DEC] または [KIT# INC] にし、[SET LIST] ボタンを押して点灯させます (あらかじめ、セット・リストの設定をしておきます)。

4. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

MIDI の設定をする (MIDI)

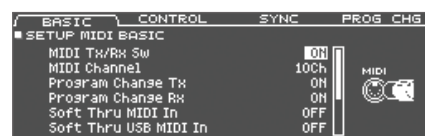
TD-50X 全体の MIDI を設定します。

参照

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

1. SETUP MENU 2 画面 (P.57) で、[F1] (MIDI) ボタンを押します。

MIDI 画面が表示されます。



2. [F1] (BASIC) ～ [F4] (PROG CHG) ボタンを押して、設定する項目を選びます。

ボタン	説明
[F1] (BASIC) ボタン	TD-50X が MIDI データを送受信するチャンネルの設定など、MIDI の基本的な設定をします。
[F2] (CONTROL) ボタン	パッドの打点位置やハイハットの踏み込む深さなどに合わせて送受信する、MIDI メッセージを設定します。
[F3] (SYNC) ボタン	MIDI の同期に関する設定をします。
[F4] (PROG CHG) ボタン	ドラム・キットと送受信されるプログラム・チェンジとの対応を、自由に設定することができます。

3. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで、値を変更します。

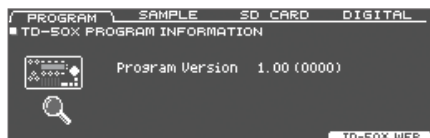
4. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

TD-50X 本体に関する情報を表示する (INFO)

プログラムのバージョンなど、TD-50X 本体に関する情報を表示します。

1. SETUP MENU 2 画面 (P.57) で、[F3] (INFO) ボタンを押します。

インフォメーション画面が表示されます。



2. [F1] (PROGRAM) ～ [F4] (DIGITAL) ボタンを押して、表示する項目を選びます。

ボタン	説明
[F1] (PROGRAM) ボタン	プログラムのバージョンを表示します。
[F2] (SAMPLE) ボタン	取り込んだユーザー・サンプル数と、ユーザー・メモリーのユーザー・サンプルの残量を表示します。
[F3] (SD CARD) ボタン	SD カードに保存している、バックアップ・データ、キット・バックアップ・データ、録音データ数を表示します。
[F4] (DIGITAL) ボタン	TD-50X に接続しているデジタル接続対応パッドのプログラムのバージョンを表示します。 選ばれているパッドの FUNC ボタンが点滅します。

3. [KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

メモ

[F5] (TD-50X WEB) ボタンを押すと、TD-50X の Web ページとサポートページにスマートフォンから簡単にアクセスできる二次元コードの画面が表示されます。

工場出荷時の設定に戻す (FACTORY RESET)

TD-50X に記憶されている設定値を、工場出荷時の状態に戻します。これをファクトリー・リセットと呼びます。

注意

この操作をすると、TD-50X にあるデータや設定がすべて失われます。必要なデータや設定は、SD カードに保存してください (P.53)。

1. SETUP MENU 画面で、[F1] (FACTORY RESET) ボタンを押します。

FACTORY RESET 画面が表示されます。



メモ

すべてのユーザー・サンプルも工場出荷時に戻す場合は、[-] [+] ボタンまたはダイヤルで、「Reset with User Sample」にチェックを入れます。ユーザー・メモリーのすべてのユーザー・サンプルは、工場出荷時のデータに上書きされます。

2. [F5] (FACTORY RESET) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

3. 「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

ファクトリー・リセットが実行されます。

Roland Cloud のライセンス情報も含めて工場出荷状態に戻す

TD-50 から TD-50X へアップグレードしたり、Roland Cloud からダウンロードしたキット・バックアップ・データを本体にロードしたりすると、TD-50X 本体に Roland Cloud のライセンス情報が保存されます。

これらの情報と、本体にロードされたキット・バックアップ・データや、USER SAMPLE などすべてを工場出荷時の状態に戻します。

1. **SETUP MENU 3 画面 (P.57) で、[F1] (FACTORY RESET) ボタンを押します。**
2. **FACTORY RESET 画面で、[F4] (REMOVE LICENSE) ボタンを押します。**



FACTORY RESET (REMOVE LICENSE) 画面が表示されます。

※ この画面ではチェックをはずすことはできません。

3. **[F5] (FACTORY RESET) ボタンを押します。**
中止するときは「CANCEL」を選んで[ENTER]ボタンを押します。
4. **[OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。**
ファクトリー・リセットを実行すると共に、本体に記録された Roland Cloud に関連する情報も削除されます。

表示されるメッセージ一覧

エラー・メッセージ一覧

メッセージ	意味	対処
Format SD Card Error!	SD カードのフォーマットに失敗しました。	SD カードを正しく挿入してください。 SD カードのロックを解除してください。
Incorrect File!	バックアップ・データまたはキット・バックアップ・データが壊れています。	このデータは使用しないでください。
MIDI Buffer Full!	大量の MIDI メッセージを短時間の間に受信したため、処理できません。	外部 MIDI 機器を正しく接続していることを確認してください。それでも直らないときは、TD-50X へ送信する MIDI メッセージの量を少なくしてください。
MIDI Offline!	MIDI ケーブルが抜けました（または、何らかの原因で外部 MIDI 機器との通信が途切れました）。	MIDI ケーブルの抜けや断線がないことを確認してください。
No Backup Data!	バックアップ・データが SD カードにありません。	-
No Data!	録音データが存在しないソングをエクスポートしようとしてしました。	録音データが存在するソングをエクスポートしてください。
No SD Card!	SD カードが SD カード・スロットに差し込まれていません。	SD カードを正しく挿入してください。
Rec Data Exists! Change Rec Number or Check Overwrite.	録音データが存在します。	録音先を変更するか、録音データを上書きする設定にしてください (P.25)。
Rec Data Full!	ソングレコーダーの記憶容量がいっぱいになり、録音を停止しました。 1 つのソングに録音できる最大録音音数を超えたため、録音を停止しました。	-
Rec Length Too Long!	録音できる長さの上限を超えたため、録音を停止しました（本機のレコーダーは、演奏情報を小節単位で録音しています）。	録音時のクリック設定で、テンポを下げるか拍子を大きくしてください (P.17)。 短い曲に変更（編曲）してください。
Sample Length Too Long!	オーディオ・ファイルが長すぎるため、取り込みできません。	180 秒以上のファイルは取り込みません。
Sample Length Too Short!	オーディオ・ファイルが短すぎるため、取り込みできません。	1 秒未満のオーディオ・ファイルは取り込めないことがあります。
SD Card is Locked!	SD カードがロックされています。 ファイル属性が読み取り専用になっています。	SD カードのロックを解除してください。 ファイルが書き込み禁止になっていないか確認してください。
SD Card is not connected!	SD カードが SD カード・スロットに差し込まれていません。	SD カードを正しく挿入してください。
SD Card Media Error!	SD カードの内容が壊れています。 録音データの保存に失敗しました。 ソングのエクスポートに失敗しました。	SD カード内の必要なデータをコピーしてから、SD カードを TD-50X でフォーマットしてください (P.57)。それでも改善しない場合は、別の SD カードで試してください。 SD カードのロック状態を確認してください。 ファイルが書き込み禁止になっていないか確認してください。
SD Card Memory Full!	SD カードに空き容量がありません。	不要なデータを削除してください (P.55)。
System Overload!	本体の処理が間に合いませんでした。	同時に発音する数を減らしてください。
Unsupported format!	本機でサポートされていないフォーマットです。	再生できるファイルのフォーマットかどうか確認してください（ソング (P.19)、ユーザー・サンプル (P.39)）。
User Sample Does Not Exist!	ユーザー・サンプルが存在しません。	ユーザー・サンプルが存在する場所を選んでください。
User Sample Exists!	ユーザー・サンプルが存在します。	ユーザー・サンプルを削除するか、空いている場所を選んでください。
User Sample Import Error!	インポート対象のオーディオ・データが壊れています。 SD カードの内容が壊れています。	このオーディオ・データは使用しないでください。 この SD カードは使用しないでください。

メッセージ	意味	対処
User Sample Memory Error!	ユーザー・サンプルを含む、バックアップ・データまたはキット・バックアップ・データが壊れています。	このデータは使用しないでください。
	SD カードの内容が壊れています。	この SD カードは使用しないでください。
	空のユーザー・サンプルが割り当てられています (1 KIT SAVE のときのみ)。	空のユーザー・サンプルが割り当てられているキットは、1 KIT SAVE できません。
User Sample memory full!	ユーザー・サンプルの空き容量がありません。	不要なユーザー・サンプルを削除してください (P.41)。
USB Offline!	USB ケーブルが抜けました (または、何らかの原因で USB の通信が途切れました)。	意図せずこのメッセージが表示された場合は、USB ケーブルの抜けや断線がないことを確認してください。
Change Audio Routing to LOOPBACK!	Audio Routing を LOOPBACK に切り替えました。	「LOOPBACK」では、パソコンと TD-50X のそれぞれの設定によっては、USB オーディオの入力と出力が短絡され、意図せず大きな音が出る可能性があります。ご利用される場合は十分ご注意ください。
Change Audio Routing to NORMAL!	Audio Routing を NORMAL に切り替えました。	–
User Sample Unsupported format! TD-50X can import the file formatted 44.1kHz, 16or24bit .wav file.	ユーザー・サンプルとして本機でサポートされていないフォーマットです。	本機でサポートされているフォーマットにしてください。
Incorrect License! Remove License.	ロードしようとしているデータのライセンス情報と、本機に保存されたライセンス情報が一致しません。	ロードしようとしているデータが正しいものか確認してください。または、Remove License を実行して本機に保存されたライセンス情報を削除してください (P.63)。本機にライセンス情報が保存されている場合、異なるライセンス情報を持つデータをロードすることができません。

その他のメッセージ

メッセージ	意味	対処
USB Driver The modified settings will become effective after reconnect the USB cable.	USB ドライバーの設定は、USB ケーブルを接続し直すと有効になります。	USB ケーブルを取りはずし、再び接続してください。
XStick always effective	クロス・スティック奏法が常に有効です。	–
XStick switch available	クロス・スティック・スイッチが有効になります。	DRUM KIT 画面で [F4] (XSTICK) ボタンを押すと、クロス・スティック音を鳴らす／鳴らさないの切り替えができます (P.17)。

トラブルシューティング

症状	確認事項	対処	ページ
音に関するトラブル			
特定のパッドの音が出ない	各パッドやペダルにケーブルが正しく接続されていますか？	接続を確認してください。	P.11
	インストゥルメントが「OFF」になっていませんか？	インストゥルメントを割り当ててください。	P.28
	インストゥルメントの「Volume」が下がっていませんか？	インストゥルメントの「Volume」を調節してください。	P.32 (*1)
	「OUTPUT」は正しく設定されていますか？	「OUTPUT」の設定を確認してください。	P.58
	フェーダーが下がっていませんか？	フェーダーを調節してください。	P.15
	ユーザー・サンプルが削除されていませんか？	パッドに割り当てられているユーザー・サンプルを削除すると、音が出なくなります。 もう一度ユーザー・サンプルを取り込むか、他のインストゥルメントを割り当ててください。	P.39
	パッドの「トリガー・タイプ」は正しく設定されていますか？	パッドの「トリガー・タイプ」を設定してください。	P.49
	TRIGGER IN 端子または DIGITAL TRIGGER IN 端子に、接続ケーブルが正しく接続されていますか？	接続を確認してください。	P.11
音が出ない／音が小さい	本機と外部機器が正しく接続されていますか？	接続を確認してください。	P.11
	本機の音量が下がっていませんか？		P.15
	接続しているアンプ内蔵スピーカーのボリュームが下がっていませんか？	適正なレベルに調節してください。	-
	オーディオ・システムの入力切り替えは正しいですか？	オーディオ・システムを確認してください。	-
	MIX IN 端子に接続した機器のボリュームは下がっていませんか？	適正なレベルに調節してください。	-
	本機の入力レベルが下がっていませんか？	「MIX IN」つまみを回して適正なレベルに調節してください。	P.8
	「Local Control」が「OFF」になっていませんか？	通常は「ON」に設定します。	(*1)
TRIGGER IN 端子に接続したパッドを叩いても音が出ない／トリガーが反応しない	DIGITAL TRIGGER IN 端子に接続したパッドを、TRIGGER IN 端子に接続したパッドと同じトリガー・インプットに割り当てると、TRIGGER IN 端子に接続したパッドの音は出力されません。	DIGITAL TRIGGER IN 端子からパッドの接続ケーブルを抜いてください。	P.11
DIGITAL TRIGGER IN 端子に接続したパッドを叩いても音が出ない／トリガーが反応しない	トリガー・インプットを正しく設定していますか？	パッドを接続したら、どのトリガー・インプットで鳴らすか設定してください。	P.11
	カーボン製や金属製のスティックを使っていますか？	木製や樹脂製のスティックをお使いください。カーボン製や金属製のスティックを使うと、センサーが誤動作することがあります。	-
	金属製のブラシを使っていますか？	ナイロン製のブラシをお使いください。金属製のブラシを使うと、センサーが誤動作したりパッドを傷つけたりすることがあります。	-
SD カードに関するトラブル			
SD カードを挿入しても認識されない／データが見えない	正しくフォーマットされていますか？	本機で SD カードをフォーマットしてください。	P.57
MP3 / WAV ファイルが再生できない	MP3 ファイルのサンプリング周波数、ビット・レート、WAV ファイルのサンプリング周波数、量子化ビット数は本機に対応していますか？	本機に対応した MP3 / WAV ファイルをご使用ください。	P.19
	高いビット・レートの MP3 で再生速度を上げると、再生が間に合わない場合があります。	-	-
A-B リピートの時刻設定が正しくできない	MP3 では A-B リピート区間を正しく再生することができない場合があります。	-	-

症状	確認事項	対処	ページ
オーディオ・ファイルが鳴らない／取り込めない	オーディオ・ファイルの形式は正しいですか？	オーディオ・ファイルの形式、ファイル名、拡張子を確認してください。	P.39
	オーディオ・ファイルの置き場所は正しいですか？	オーディオ・ファイルの置き場所を確認してください。	P.53
	多数のオーディオ・ファイルをフォルダー内に置いていませんか？	フォルダー内のオーディオ・ファイルは、200 個以下にしてください。	-
USB に関するトラブル			
パソコンと接続できない	USB ケーブルが正しく接続されていますか？	接続を確認してください。	P.11
	USB オーディオとして音声を送受信するには、USB ドライバーのインストールが必要です。	パソコンに USB ドライバーをインストールしてください。	P.43
	USB 2.0 対応のケーブルを使用していますか？	USB 3.0 対応のケーブルは使用できません。USB 2.0 対応のケーブルを使用してください。	-
	Driver Mode は正しく設定されていますか？	使いかたに応じて変更してください。	P.43
MIDI に関するトラブル			
音が出ない	MIDI ケーブルが正しく接続されていますか？	接続を確認してください。	P.11
	MIDI チャンネルは合っていますか？	本機と外部 MIDI 機器の MIDI チャンネルを合わせてください。	(*1)
	ノート・ナンバーは合っていますか？	パッドの「NOTE NO.」を設定してください。	(*1)

* 1 『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

主な仕様

ドラム・キット数	100（プリセット：50 以上）		
音色数	900 以上		
エフェクト	パッド・コンプレッサー：パッドごと パッド・イコライザー：パッドごと オーバーヘッド・マイク・シミュレーター	ルーム/リバーブ マルチ・エフェクト：3 系統、38 種類 マスター・コンプレッサー	マスター・イコライザー
ユーザー・サンプル	ユーザー・サンプル数：最大 500（製品出荷時のユーザー・サンプルを含む） 音の長さ（合計）：モノ 24 分、ステレオ 12 分 取り込み可能なファイル形式：WAV（44.1kHz、16/24 ビット）		
ソング・プレーヤー（SD カード）	オーディオ・ファイル：WAV（44.1kHz、16/24 ビット）、MP3		
レコーダー	レコーディング方法：リアルタイム 最大記憶音数：約 40,000 音 書き出しファイル形式：WAV（44.1kHz、16 ビット）、SMF		
ディスプレイ	グラフィック LCD 256 × 80 ドット TRIGGER ACTIVITY インジケーター（LED）		
フェーダー	8（KICK、SNARE、TOMS、HI-HAT、CRASH、RIDE、AUX、AMBIENCE）		
外部メモリー	SD カード（SDHC 対応）		
接続端子	TRIGGER IN 端子× 14：TRS 標準タイプ（デジタル接続対応パッドと排他利用） DIGITAL TRIGGER IN 端子× 3：USB A タイプ MASTER OUT（UNBALANCED）端子（L/MONO、R）：標準タイプ MASTER OUT（BALANCED）端子（L、R）：XLR タイプ（バランス） DIRECT OUT（BALANCED）端子× 8：TRS 標準タイプ（バランス） PHONES 端子× 2：ステレオ標準タイプ、ステレオ・ミニ・タイプ MIX IN 端子× 2：ステレオ標準タイプ、ステレオ・ミニ・タイプ MIDI（IN、OUT/THRU）端子 USB COMPUTER 端子：USB B タイプ（USB Hi-Speed AUDIO/MIDI、マス・ストレージ） FOOT SW 端子：TRS 標準タイプ AC IN 端子		
USB オーディオ録音再生チャンネル数	サンプリング周波数（オリジナル）：44.1kHz サンプリング周波数（サンプリング・レート・コンバーター使用）：96kHz、48kHz 録音：32 チャンネル 再生：32 チャンネル ※ USB オーディオを使用するには、ベンダー・モードに変更してベンダー・ドライバーを使用する必要があります。		
電源	AC100V（50/60Hz）		
消費電力	30W		
外形寸法	330（幅）× 255（奥行）× 118（高さ）mm		
質量	3.3kg		
付属品	クイック・スタート（保証書含む） フェライト・コアの取り付けかたチラシ 電源コード フェライト・コア（取り付け用バンド含む）		
別売品	パッド：PD シリーズ、PDX シリーズ、BT-1 シンバル：CY シリーズ キック：KD シリーズ、KT シリーズ ハイハット：VH シリーズ	ハイハット・コントロール・ペダル：FD シリーズ アコースティック・ドラム・トリガー：RT シリーズ フットスイッチ：BOSS FS-5U、FS-6 パーソナル・ドラム・モニター：PM シリーズ	

※ 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。